岩手県産業教育振興会

令和４年度

事業活動報告書

－　事業活動報告書　目次　－

Ⅰ　岩手県産業教育振興会　会長挨拶 …… 1

Ⅱ　各専門部会が主催する「全国大会」の競技内容 …… 2

Ⅲ　大会助成事業及びキャリアアップサポート事業

1　工業

（1）大会運営・大会参加

ア　黒沢尻工業高等学校（ものづくりコンテスト東北大会旋盤作業部門参加） …… 4
イ　黒沢尻工業高等学校（ものづくりコンテスト東北大会化学分析部門参加） …… 5
ウ　一関工業高等学校（さんフェア青森2022全国高等学校ロボット競技大会県予選大会運営） 6
エ　盛岡工業高等学校 機械科（全国高等学校ロボット競技大会参加） …… 7
オ　盛岡工業高等学校 電子機械科（全国高等学校ロボット競技大会参加） …… 8

（2）体験教室・出前授業

ア　黒沢尻工業高等学校（江釣子中学校への出前授業） …… 9
イ　黒沢尻工業高等学校（笠松小学校への出前授業） …… 11
ウ　一関工業高等学校（サイエンスショー） …… 12
エ　一関工業高等学校（萩荘小学校への出前授業） …… 14
オ　盛岡工業高等学校（工業化学科出前授業） …… 16

（3）実技講習会・講演会

ア　福岡工業高等学校（ソリッドワークス実技講習会） …… 18
イ　一関工業高等学校（半導体アカデミー実技講習会） …… 19
ウ　一関工業高等学校（技術・知識を地域につなげるプロジェクト） …… 20
エ　釜石商工高等学校（電子機器組立３級実技講習会） …… 21

2　農業

（1）大会運営・大会参加

ア　水沢農業高等学校（さんフェア青森2022ﾌﾗﾜｰｱﾚﾝｼﾞﾒﾝﾄｺﾝﾃｽﾄ岩手予選大会運営） …… 23
イ　盛岡農業高等学校（全国高校生そば打ち選手権参加） …… 24
ウ　水沢農業高等学校（全国和牛能力共進会参加） …… 25
エ　盛岡農業高等学校（和牛甲子園全国大会参加） …… 26
オ　遠野緑峰高等学校（全国フラワーアレンジメントコンテスト参加） …… 28
カ　水沢農業高等学校（全国フラワーアレンジメントコンテスト参加） …… 29

（2）日本学校農業クラブ

ア　花巻農業高等学校（東北連盟大会・プロジェクト発表） …… 30
イ　花巻農業高等学校（東北連盟大会・意見発表） …… 31
ウ　花巻農業高等学校（東北連盟大会・農業情報処理競技） …… 32
エ　花巻農業高等学校（東北連盟大会・平板測量競技） …… 33
オ　水沢農業高等学校（東北連盟大会・意見発表表） …… 34
カ　遠野緑峰高等学校（東北連盟大会・農業情報処理競技） …… 35
キ　花巻農業高等学校（全国大会・プロジェクト発表） …… 36
ク　花巻農業高等学校（全国大会・農業鑑定競技） …… 37

ケ　遠野緑峰高等学校（全国大会・プロジェクト発表）　…… 38
コ　遠野緑峰高等学校（全国大会・農業鑑定競技）　…… 39
サ　水沢農業高等学校（全国大会・農業鑑定競技）　…… 40

⑶ 実技講習会
ア　遠野緑峰高等学校（フラワーアレンジメント実技講習会）　…… 41
イ　遠野緑峰高等学校（わら細工実技講習会）　…… 42

3　商業
（1）簿記競技大会
ア　宮古商工高等学校（全国高等学校簿記競技大会）　…… 43
イ　水沢商業高等学校（全国高等学校簿記競技大会）　…… 44
ウ　盛岡商業高等学校（全国高等学校簿記競技大会）　…… 45

（2）情報処理競技大会
ア　盛岡商業高等学校（全国高等学校情報処理競技大会）　…… 46
イ　水沢商業高等学校（全国高等学校情報処理競技大会）　…… 47
ウ　花北青雲高等学校（全国高等学校情報料理競技大会）　…… 48

（3）ワープロ競技大会
ア　水沢商業高等学校（全国高等学校ワープロ競技大会）　…… 49
イ　花北青雲高等学校（全国高等学校ワープロ競技大会）　…… 50
ウ　盛岡商業高等学校（全国高等学校ワープロ競技大会）　…… 51

（4）ビジネス計算競技大会
ア　水沢商業高等学校（全国高等学校ビジネス計算競技大会：珠算）　…… 52
イ　盛岡商業高等学校（全国高等学校ビジネス計算競技大会：電卓）　…… 53
ウ　宮古商工高等学校（全国高等学校ビジネス計算競技大会：電卓）　…… 54

（5）キャリア体験・講習会
ア　盛岡商業高等学校（ＩＢＣまつり　参加）　…… 55
イ　水沢商業高等学校（ＩＢＣまつり　参加）　…… 56
ウ　宮古商工高等学校（ＩＢＣまつり　参加）　…… 57
エ　花北青雲高等学校（ビジネスアイデア創出講演会）　…… 59

（6）大会運営
ア　水沢商業高等学校（東北地区高等学校生徒商業研究発表大会　大会運営）　…… 60

4　水産
（1）大会参加
ア　高田高等学校（東北地区水産・海洋高等学校生徒研究発表大会）　…… 61

5　家庭
（1）体験教室
ア　平舘高等学校（一般の方々への紫根染体験教室）　…… 62

（2）実技講習会
ア　平舘高等学校（家政科学科調理技術講習会１）　…… 64
イ　平舘高等学校（家政科学科調理技術講習会２）　…… 65

ウ　平舘高等学校（家政科学科調理技術講習会３）　…… 66
エ　平舘高等学校（家政科学科そば打ち伝承学習）　…… 67

（３）職場見学会
ア　平舘高等学校（職場見学実習）　…… 68

（４）大会参加
ア　平舘高等学校（全国家庭クラブ研究発表大会）　…… 69

6　総合学科
（１）講演会・キャリア体験
ア　紫波総合高等学校（特別講演会１）　…… 70
イ　紫波総合高等学校（特別講演会２）　…… 71
ウ　久慈東高等学校（ビジネスプランマーケティング）　…… 73

（２)実技講習会・交流学習
ア　久慈東高等学校（西洋料理講習会）　…… 74
イ　北上翔南高等学校（フラワーアレンジメント実技講習会）　…… 75
ウ　北上翔南高等学校（ラッピング実技講習会）　…… 76
エ　北上翔南高等学校（フランス料理実技講習会）　…… 78
オ　岩谷堂高等学校（産業技術短期大学校水沢校との交流学習）…… 79
カ　岩谷堂高等学校（江刺一中との交流学習）　…… 80

（３)大会参加
ア　久慈東高等学校（さんフェア2022意見発表）　…… 81
イ　久慈東高等学校（全国大会・農業鑑定競技）　…… 82

7　福祉
（１）大会参加
ア　岩手女子高等学校（東北高校介護技術コンテスト）　…… 83

8　中学校技術･家庭
（１）大会参加
ア　岩手県中学校技術・家庭科教育研究大会和賀大会　…… 84

Ⅳ　全国産業教育フェア　さんフェア青森２０２２
1　大会パンフレット等　…… 86

Ⅴ　研究文・作文コンクール
1　応募要領
（１)公益財団法人産業教育振興中央会・公益社団法人経済同友会募集要領　…… 88
（２）岩手県産業教育振興会募集要領　…… 90

2　研究文の部
（1）岩手県産業教育振興会
ア　最優秀賞　遠野緑峰高等学校　生産技術科 …… 92
「持続可能な肉牛の飼養管理と高品質の牛肉の生産を行うための研究」
イ　優秀賞　盛岡農業高等学校　人間科学科 …… 99
「車いすを利用した方や高齢者のQOLの向上を目指して」

3　作文の部
（1）岩手県産業教育振興会
ア　最優秀賞　岩手女子高等学校　福祉教養科３年　廣 田 莉 果 さん …… 103
「未来への投資」
イ　優秀賞　水沢工業高等学校　インテリア科３年　川 崎 翔 也 さん …… 105
「インテリア科で学んで」

Ⅵ　御下賜金記念優良卒業生表彰
1　表彰規定
（1）公益財団法人産業教育振興中央会選奨規定 …… 107
（2）岩手県産業教育振興会選奨規定 …… 108

2　優良卒業生表彰数一覧 …… 109

Ⅶ　支援対象校一覧 …… 111

岩手県産業教育振興会

会　長　　鎌　田　英　樹

（株式会社ＩＢＣ岩手放送　代表取締役会長）

ご　挨　拶

まずもって会員各位のご支援のもと、令和４年度における「岩手県産業教育振興会」の事業を、ほぼ終了することができたことに心より御礼を申し上げます。

令和４年度は新型コロナウイルスの感染がはじまり、世界的に広がってから３年目となりましたが、この一年は感染者数が著しく減ったり逆に急に増えたりし、様々な活動に大きな影響を与えました。コロナ対策がしっかり行われ、With コロナの考え方によりマスクの着用ルールの緩和や、感染症法の第２類から第５類への変更も検討されています。

本会が行っている助成事業も、実施を予定していた時期に急に感染者数が増え、急遽中止となった事例が少なくありませんでした。しかしながら、このような状況下においても、北上翔南高校は「ラッピング実技講習会」、遠野緑峰高校は「わら細工実技講習会」を新たに実施するなどの積極的な取組事例が見られました。

また、本会からの支援を受け、東北大会や全国大会へ出場した高校の活躍は素晴らしい成果を挙げています。農業分野においては、遠野緑峰高校が日本学校農業クラブ全国大会北陸大会「プロジェクト発表」最優秀賞を、水沢農業高校は和牛オリンピックと言われている第 12 回全国和牛能力共進会鹿児島大会「種牛の部・高校及び農業大学校の部」で全国３位にあたる優等賞３席を受賞しました。商業分野では水沢商業高等学校が全国高等学校ビジネス計算競技大会で、盛岡商業高等学校が全国高等学校情報処理競技大会で全国７位に入賞しています。家庭分野では平舘高等学校家庭クラブが全国高等学校糧クラブ研究発表大会に５年連続して出場しています。また、今回から各専門部会が行っている全国の競技大会の内容を説明するページを設けました。いかにレベルの高い競技内容で、上位入賞をするのが困難な競技大会か少しでもご理解いただければと思います。今後、少しずつ専門部会ごとに紹介していきます。

来年度は With コロナの中、学校会員を含めた会員の皆様方においては、今までにない対応を求められると思いますが、プラス思考でチャレンジし、本県産業振興及び産業教育を展開されることをと願うばかりです。

コロナ禍で、会員様の退会が続いておりますが、会員の皆様方におかれましては、引き続き、専門教育を学ぶ高校生への貴重な御支援を賜りますよう心よりお願い申し上げますと共に、会員様の関連諸団体の方々に本会の活動を紹介いただき、新規会員として、新たな御支援を賜れれば幸いに存じます。

各専門部会が主催する「全国大会」の競技内容

○学習した専門知識と技能を活かし、全国の高校生と、そのレベルを競い合う場として各専門部がいろいろな「競技大会」を開催しています。

今回から、その競技大会の内容をわかりやすく説明します。まずは工業部会で行われている「ものづくりコンテスト全国大会」です。この大会は旋盤作業、自動車整備、電気工事、電子回路組立など8つの部門で争われます。今回は「旋盤作業部門」を説明します。

【旋盤作業】

1　競技人数

県予選・ブロック予選を勝ち抜いた１０名（９ブロックの代表及び開催県１名）

2　競技時間

２時間３０分

3　競技内容

(1) 使用機器

主催者が指定する機器（旋盤等）

使用機械「DMG 森精機(ワシノ) LEO-80A

縦＝0.2 ㎜
横＝0.05 ㎜（直径目盛）

刃物台＝0.02 ㎜

競技者が持参する機器（ドリル・スパナ・プライヤー等）

(2) 競技課題

支給された材料から指示された部品を製作する

4　評価の観点

○　採点項目（加工課題）

① できばえ・みばえ・ローレット・ねじ・表面粗さ・テーパあたり

ア 仕上がり面の傷、削り残し、削り込み、びびりの状態

イ 面取りの程度および面取りの状態

ウ 大幅な寸法ミス（±2mm を超えるようなもの）　など９項目

② 寸法精度

ア 部品の寸法精度　など２項目

③ 安全作業

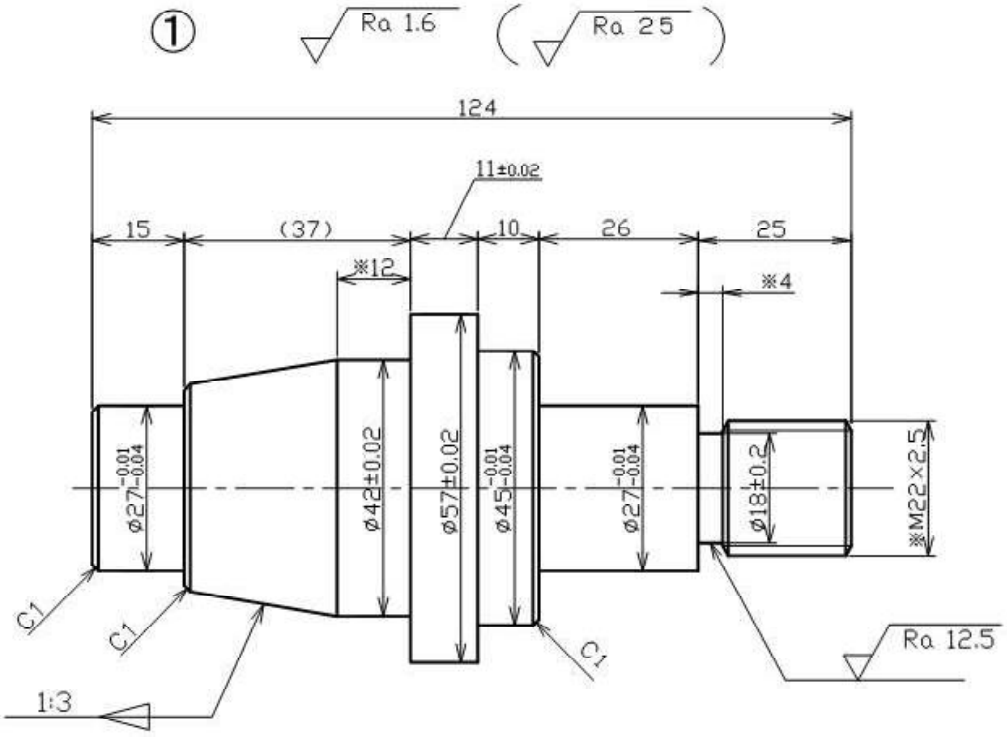
ア 作業態度、服装等の状況　など２項目

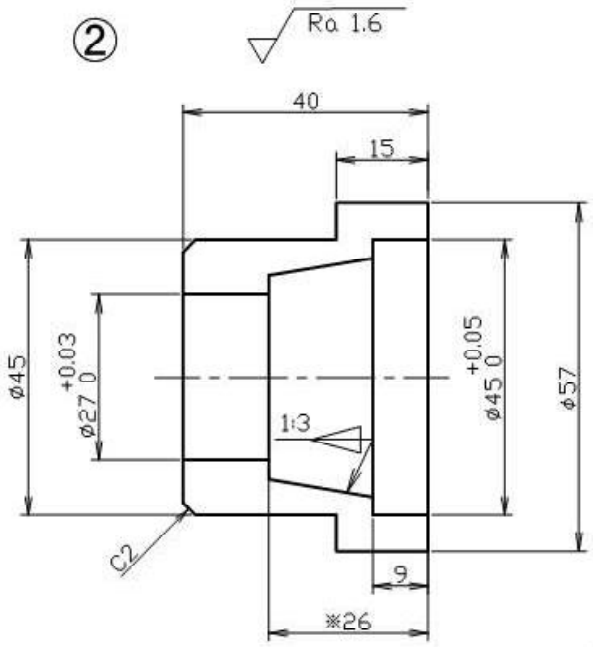
④ 作業時間

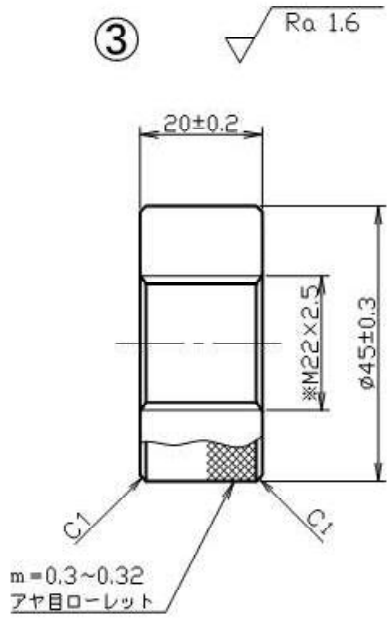
ア 標準時間を 2 時間 30 分、打ち切り時間を 3 時間 30 分とする。

イ 標準時間 2 時間 30 分を超えて加工をしたものは減点の対象とする。

第22回高校生ものづくりコンテスト全国大会
旋盤作業部門競技課題（部品図）







※印と参考寸法は測定しない
指示のない公差はJIS B 0419－f Kとする
指示のない各陵は糸面取り（C0.1～C0.3）とする
アヤ目ローレットはｍ0.3～0.32とする

公差等級		基準寸法の区分				
記号	説明	0.5以上 3以下	3を超え 6以下	6を超え 30以下	30を超え 120以下	120を超え 400以下
		許容差				
f	精級	±0.05	±0.05	±0.1	±0.15	±0.2

工業：大会参加(東北大会：ものづくりコンテスト)

岩手県立黒沢尻工業高等学校

【大 会 名】　高校生ものづくりコンテスト2022東北大会（旋盤作業部門）
【日　　時】　令和4年７月27日(水)～29日(金)
【場　　所】　福島県職業能力開発促進センター
【大会概要】　東北地区工業高校生の技術・技能の向上と相互理解を図る。
　　高校生ものづくりコンテスト2022全国大会の選手選考を兼ねる。

（１）旋盤作業部門
　旋盤を使用して、当日抽選の寸法を含めた部品３個を、２時間３０分以内に加工する。

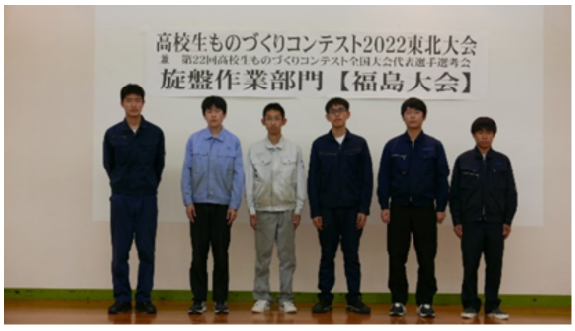
（２）参加者数６名

青森県立十和田工業高等学校	夏堀　歩夢
岩手県立黒沢尻工業高等学校	照井涼太郎
秋田県立秋田工業高等学校	松根　航史
山形県立長井工業高等学校	髙橋　　涼
福島県立福島工業高等学校	渡邉　　翼
福島県立郡山北工業高等学校	石田　陸夢

（３）大会結果

第１位	福島県立福島工業高等学校	渡邉　　翼
第２位	福島県立郡山北工業高等学校	石田　陸夢
第３位	青森県立十和田工業高等学校	夏堀　歩夢
第４位	岩手県立黒沢尻工業高等学校	照井涼太郎

【写　　真】



【 感　　想 】

今年度は、昨年度まであった学科課題がなくなり、加工のみの競技となりました。加工課題は２種の材料から部品①②③の３種類の部品を加工・製作するものであり、ネジ部とその横の溝部の寸法を当日に発表して、加工競技が行われました。

競技では、緊張のため数カ所寸法を外し、また、安全作業でも数度減点を取られ、第４位という結果でした。入賞することはできませんでしたが、出場辞退の選手がいる中で出場することができ、貴重な経験をさせていただきました。

工業：大会参加(東北大会：ものづくりコンテスト)

岩手県立黒沢尻工業高等学校

【大 会 名】　高校生ものづくりコンテスト2022東北大会（化学分析部門）
【日　　時】　令和4年７月27日(水)～29日(金)
【場　　所】　福島県立郡山北工業高等学校
【大会概要】　キレート滴定法による試料水（２種類）中のCa及びMgの定量を行うことにより試料水中の全硬度・Ca硬度・Mg硬度を求め、測定結果を報告書にまとめて提出するまでが競技。
１日目に0.01M-EDTA標準溶液を粉末EDTA・2Naから調整して２日目にその標準溶液を用いて試験水の硬度を求めることが競技内容で、２日目に制限時間２時間３０分が設定されています。
操作等の習熟度や報告書の正確さ、試験水の各硬度の値の正確さから順位を決めるコンテストです。同点の場合は、真の値に近い選手が、そこで決着がつかないときは、競技時間が短い選手が上位となり、第１位になった選手が東北代表となり、11月に行われる全国大会に出場します。

【大会参加者・結果】

福島県代表	郡山北工業高等学校	化学工学科２年	樫 沢 太 一　第１位（全国大会出場）
	郡山北工業高等学校	化学工学科２年	杉 山 日 和　第２位
秋田県代表	秋田工業高等学校	工業化学科３年	森 川 晴 人　第３位
岩手県代表	黒沢尻工業高等学校	材料技術科３年	村 上 彩 菜　第４位
宮城県代表	宮城県工業高等学校	化学工学科３年	木 村 凪乃花
山形県代表	米沢工業高等学校	建設環境類環境化学コース３年	中 川 叶 夢

【写　　真】

【引率者の感想】
大会までの準備は、コロナ関連で十分とはいえない状態でした。生徒本人の計算や判断ミスがなければ上位の結果を残せるだろうと思い当日を迎えました。競技当日の結果から試料の１つの判断ミスがあり、得点できないことが上位入賞を逃した原因です。普段､練習に使用した試料は市販されている高硬度の天然水でしたが、低硬度の試料や、高硬度の試料を練習させておくべきでした。次回以降、極端な試料も練習させてから本番に向かわせたいと思います。

工業：大会運営(県予選：ロボット競技大会)

岩手県立一関工業高等学校

【大 会 名】　全国高等学校ロボット競技大会岩手県選考会
【日　　時】　令和４年９月１７日（土）
【場　　所】　岩手県立釜石商工高等学校
【大会概要】　ロボット競技をとおして、仲間とともに「ものを作り、完成させる」喜びを体験する機会を与え、技術への関心と夢を育み、自発的な学習態度を育成する。また、この選考会において「第３０回全国高等学校ロボット競技大会」岩手県代表を決定する。

１　競技内容

（１）競技時間は３分間。競技は、収穫機（リモコン型ロボット）とジューサー（自立型ロボット）により、４種類のアイテムを指定されたエリアに設置し、競技終了時におけるアイテムとロボットの状態に応じて､得られる点数の合計を競うものである。

（２）収穫機は車庫を出発し、リンゴ畑のふじの木に置かれている「ふじ（アイテムＡ）とパイプ大（アイテムＣ)」、姫ふじの木に置かれている「姫ふじ（アイテムＢ）とパイプ大（アイテムＣ)」を取り込み、リンゴ出荷台へ設置する。競技終了時には、車庫内に収まる。

（３）ジューサーは保管庫を出発し、ジュース工場内のふじ置き場に置かれている「ふじ（アイテムＡ）とパイプ小（アイテムＤ)」を取り込み、「姫ふじ（アイテムＢ）とパイプ大（アイテムＤ)」を取り込み、ジュース出荷台へ設置する。競技終了時には、車庫内に収まる。

２　参加チーム

７校９チーム

３　競技結果

第１位　盛岡工業高等学校　機械科　ＭＲ０３
第２位　盛岡工業高等学校　電子機械科　盛工ＭＥ２０２２
第３位　水沢工業高等学校　機械工作部　すいこう翡翠
第４位　宮古商工高等学校　工作部　ＡＱ

競技の様子１

競技の様子２

競技の様子３

【大会の所感】

今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、例年と異なる開催方法であった。各校それぞれが制限時間３分間の中で、製作したロボットの能力を十分に発揮させた。今回の競技コートには段差があり、各チームとも工夫を凝らしたメカニズムでこの段差を克服した。リンゴに見立てたピンポン玉、それを乗せるパイプ、いずれも慎重かつ正確な取り込みが必要で、選手たちには集中力と息の合ったチームワークが求められていた。

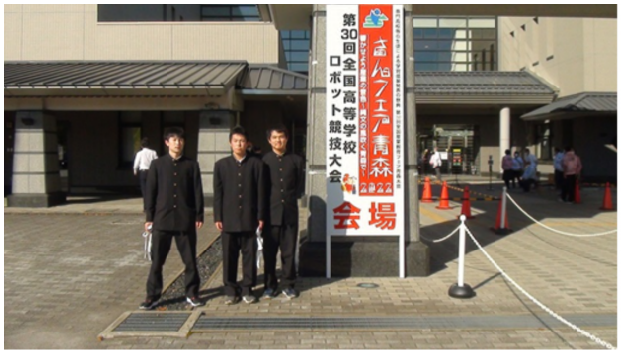
岩手県産業教育振興会の多大なる御支援と、会場校の釜石商工高等学校の教職員の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

工業：大会参加(全国大会：ロボット競技大会)

岩手県立盛岡工業高等学校

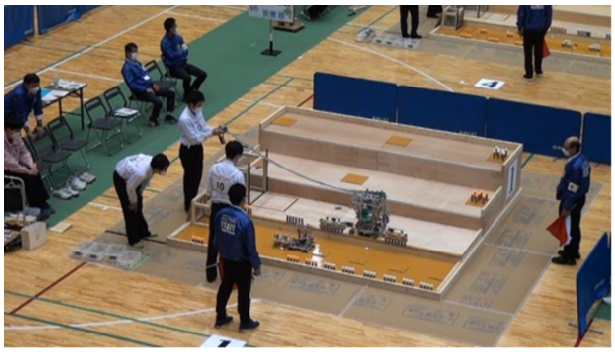
【大 会 名】　第３２回全国産業教育フェア青森大会　さんフェア青森２０２２
　　第３０回全国高等学校ロボット競技大会（青森大会）
【日　　時】　令和４年１０月１５日（土）～１０月１６日（日）
【場　　所】　青森県武道館
【大会概要】　全国の専門高校等で学ぶ生徒が、ロボット競技大会への参加を目指して、仲間と協力しながら新鮮な発想で工夫を凝らし、創造力を発揮してロボットを製作する。
　また、その取組の過程を通して、ものづくりの技術・技能を習得し、次世代を担う技術者としての資質を向上させる。
（１）参加数　　全国より96チーム出場
（２）本校チーム名　MR03（機械科）
（３）大会結果　　予選は14位で通過
　　準決勝は24位で決勝８チームに残れず

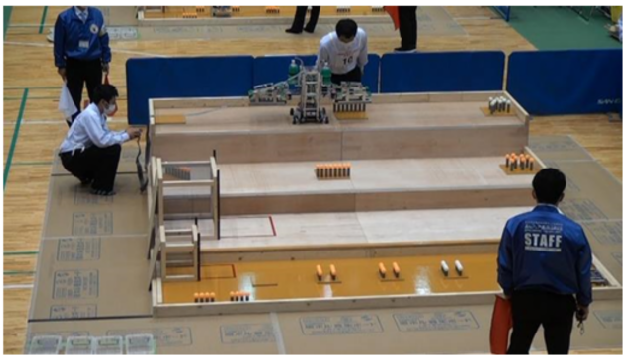
【写　　真】



会場入り口

開会式


競技中１



競技中２

【生徒感想】
私達は、全国大会での予選通過を目標にロボット製作を進めてきました。
ロボット製作は大変でしたが何度も調整を行い、自立型ロボットの方は全国大会で満点を取ることができました。
全国大会参加という貴重な機会を得ることができ、各県代表のいろいろなロボットを見ることができ、とてもよかったと思います。

工業：大会参加(全国大会：ロボット競技大会)

岩手県立盛岡工業高等学校

【大 会 名】　第３２回全国産業教育フェア青森大会　さんフェア青森２０２２
第３０回全国高等学校ロボット競技大会（青森大会）

【日　　時】　令和４年１０月１５日（土）～１０月１６日（日）

【場　　所】　青森県武道館

【大会概要】　技術・技能を習得し、次世代の技術者として向上させるものである。
（１）参加数　　全国より96チーム出場
（２）本校チーム名　盛工ME2022（電子機械科）
（３）大会結果　　予選通過ならず

【写　　真】

開会式

試合風景

【感　　想】
過去、コロナ禍の為、全国大会が中止されていたが、今年は開催されてよかった。大会に参加し、上位チームの作品の精度や生徒達の取り組み姿勢は、圧倒されるものがあった。今後の為に、その姿勢を見習っていきたい。

岩手県立黒沢尻工業高等学校

【事 業 名】　黒工「出前授業」2022
【日　　時】　令和４年１１月８日（火）１０:４５～１２：３５
【場　　所】　北上市立江釣子中学校
【事業概要】　中学校3年生に、ものづくりへの興味・関心を高めるとともに、工業高校の学習内容を実験・体験を通して理解を深め、進路選択への情報提供も目的とする。
（1）内　　容　　１授業３０分、希望する３授業を受ける
　　各学科紹介の他は下記表のとおり
（2）参加者数　　江釣子中学校３年生　126名

担　当　科	テーマ	実 施 概 要
機　　械　　科	機械ってなに？	・ガソリンエンジンの仕組み ・圧縮燃焼実験
電　　気　　科	電気は生活で 欠かせない	・発電の原理　　・理科実験を体験 ・信号機の仕組み　　・リニア鉄道の原理
電　　子　　科	シーケンス制御	・シーケンス制御の基本と応用
電 子 機 械 科	機械の制御とは	・ライントレーサの実演と制御 ・シーケンス制御の実験（早押しクイズ）
土　　木　　科	水質浄化と液状化の実験	・水質浄化の実験　　・液状化の実験
材 料 技 術 科	化学実験講座 「化学の不思議」	・液体窒素を使った化学実験 ・低融点合金を使った実験

学科		機械	電気	電子	電子機械	土木	材料技術
教室		第１理科教室	会議室	調理室	被服室	技術室	第２理科教室
黒	生徒	４　人	8	4	6	8	5
工	引率	２　人	2	1	1	2	2
中	授業１	１９　人	２０	２０	１７	２１	２１
学	授業２	１９　人	２０	１９	１９	２１	２０
生	授業３	１９　人	１９	１９	１９	２１	２１

【感　　想】
実際に高校生からの説明と機材・道具を手に取り体験したことで、工業高校で学ぶ内容と何ができるようになるかが明確になり、また、各学科の違いも区別がついたようでもある。高校生も教えることから、学習してきた自分の知識・技能の確認ができたとともに、伝え方の難しさも実感できたようである。双方にとって実りのある事業であるので、来年度も続けていきたい。

工業：キャリアアップ(出前授業：江釣子中学校)

機械科
　噴霧実験（ガソリン混合器の原理）

電気科
　発電原理（手回し発電機でLED点灯）

電子科
　Arduinoでジョイスティック制御

電子機械科
　シーケンス制御（早押しクイズ）

土木科
　液状化実験（ハンドドリルで土壌混合）

材料技術科
　沸騰して噴出した液体窒素を触る

岩手県立黒沢尻工業高等学校

【事　業　名】　黒工「出前授業」2022
【日　　時】　令和４年１２月２２日（木）
【場　　所】　北上市立笠松小学校　理科室
【事業概要】　近隣の小中学校へ理科の出前授業を行い、楽しい科学に接することでエネルギー環境学習の理解を深める。

（１）出前授業の内容
・エネルギー（火力発電・風力発電・模擬送電体験）
・磁気（電磁石の仕組み・電磁石による釣り遊び）
・理科（静電気の仕組み・感電体験）

（２）参加者数
笠松小学校６年生１６名
黒沢尻工業高校電気科３年生１０名、２年生３名

（３）参加者の様子
小学６年生の児童たちは、興味を持って生徒の授業を聞き体験していました。参加した児童からは、「高校生の説明がわかりやすかった」や「感電体験が楽しかった」などの感想が出ました。

【写　　真】

感電体験

発電模型による学習

【所　　感】
コロナ禍で２年間、出前授業を実施していなかったため、生徒たちは不安のある中での実施でした。今回の出前授業は、今年度７回目の出前授業でしたが、改善を繰り返し行い、児童が楽しむ姿を見ることができ、参加生徒たちは成果を感じたようでした。来年度、出前授業担当予定の２年生も参加し、来年度に向けて、さらに改善をして実施できるように準備をしたいです。

工業：キャリアアップ(出前授業：サイエンスショー)

岩手県立一関工業高等学校

【事 業 名】　サイエンスショー（理科実験）
【日　　時】　令和４年８月７日、令和５年１月７日
【場　　所】　岩手県立一関工業高等学校
【事業内容】
１　テーマと内容
　地元の小学生に理科への関心高めることと、コロナ禍でイベントが減り元気を失っている地域の親子を元気にすることを目的に活動しました。内容は科学の面白さを、楽しく体感できる体験や実験、工作と、近年話題のＩＴ、ＡＩの学習教室など、工業高校の広々としたコンピュータ室や実習棟を活用し、高校生の助言や指導のもと、親子で楽しく学びました。
２　参加生徒
　本校生徒　電気電子科３年　２４名
　小学生　　第１回４０名、第２回３６名、合計７６名
３　スケジュール（全体の活動計画）
　６月　萩荘 ＤＥ マルシェ（萩荘地区センター）
　７月　スーパーＩＴキッズ（一関高専）
　８月　【サイエンスショー（理科実験)】(一関工業高校)
　10月　サイエンスショー（花と泉の公園）
　１月　【サイエンスショー（理科実験】(一関工業高校)
４　内容
（１）実験体験：ふわふわスライム、電磁石釣り、バスボム、ＵＶレジン、スーパーボール、空気砲
（２）理科教室：電気が生み出す力、暮らしと電気、電磁誘導
（３）プログラム教室：ＡＩ、ＩＴ体験
【写　　真】

工業：キャリアアップ(出前授業：サイエンスショー)

【生徒または担当者の感想】

自ら企画することの大変さと責任について学びました。また、活動をする中で電気電子に関する知識だけでなく社会人になった後にも非常に役に立つ知識や物事の取り組み方を身に付けることができました。

やり遂げた後にいただいた地域の方々や子供たちから、激励や感謝の言葉は決して忘れられないものとなりました。

岩手県立一関工業高等学校

【事 業 名】　小学校への出前授業「電流が生み出す力」（小学５年生）
【日　　時】　令和５年１月１７日（火)、令和５年１月２４日（火）
【場　　所】　一関市立萩荘小学校
【事業内容】

１　テーマと内容

小学５年生２クラス（２９名×２）に、理科「電流が生み出す力」の授業を１クラス２時間の授業を行いました。授業の内容は、電流により電磁石が生み出す力について、段階的に教材を用い理解を深める工夫で授業を展開しました。電磁石の性質と働き、電流の量により力が変化することを、電池と手回し発電機を使い、視覚と体験から学習の学びを深めました。

なお、出前授業にあたり、事前に知識習得のため、以下の学習に取り組みました。

（１）いわて半導体セミナーでの学習（岩手大学　特任教授　梅 木 和 博 氏）
（２）ＩＴ学習(一関高等工業専門学校 メディアセンター長　教授　小保方 幸 次 氏)
（３）ＩＬＣ学習(岩手大学　技術専門職　藤 崎 聡 美 氏)

２　参加生徒

本校生徒　電気電子科２３名
小 学 生　５８名

３　スケジュール（全体の活動計画）

４月　ＳＤＧｓ講演
５月　地域との打合せ
６月　萩荘 ＤＥ マルシェ
７月　いわて半導体アカデミー
８月　サイエンスショー
11月　ＩＬＣ講習
１月　サイエンスショー、【出前授業(小学５年)】

【写　　真】

正しい知識を学ぶスケジュール

生徒が、教える側になるために必要なスキルとして正しい知識と意欲の向上を図る。

そのために、専門知識豊かな大学の先生方や大学院生の協力を得て、学習を深めた。

工業：キャリアアップ(出前授業：萩荘小学校)

【生徒または担当者の感想】

　この活動により、地域や大学などの教育関係者、県、市との連携から、生徒が自らの力で様々な経験から「気付き」を得ることができました。その「気付き」が自己の形成に大切な知識と自信、意欲を与えてくれました。はじめは、どうなるか不安であったが、始まってしまえば、楽しい時間を過ごすことができました。

令和４年度岩手県産業教育振興会　キャリアアップサポート推進事業 実施報告書

岩手県立盛岡工業高等学校

【事 業 名】　工業化学科化学の出前授業

【日時場所】　10月21日(金)・11月４日(金)　矢巾東小学校(科学クラブ24名)
11月11日(金)　煙山小学校(科学クラブ33人)

【事業内容】　「液体窒素を使った実験」・「ペットボトルを使った石鹸づくり」

・小学生に実験の指導をする高校３年生(４名)に対し、材料と器具等の確認および予備実験を行うことでスムーズかつ安全に実験が進むように準備した。
・当日は各テーブルに実験器具を配置し、小学生を４～５人を１グループとし、４～６班に分けて実施した。高校３年生を各テーブルに配置し、液体窒素の説明をして全体に演示実験をした後、それぞれ説明をしながらライデンフロスト効果などの液体窒素に触れる実験や､空気から液体になった酸素を取り出す実験を各テーブルごとに行い、小学生に体験してもらった。
・液体窒素は取り扱いに注意が必要なため、安全な取り扱いに十分に配慮した。液体窒素を使い酸素を取り出す実験で、酸素が線香を激しく燃焼させる様子を見て小学生から大きな歓声があがった。フライパンを使って、ライデンフロスト効果も体験した。
・今回は矢巾東小学校で出前授業を２回実施し、ペットボトルを使った石鹸づくりを行った。水酸化ナトリウム水溶液は取り扱いに注意が必要なので、手袋をつけて慎重に取り分けを行った。ペットボトルを激しく振るので、油と水酸化ナトリウム水溶液がペットボトルから漏れないよう、熱収縮チューブでさらにふたを固定し、安全に反応が起こるように配慮した。

【写　　真】

液体窒素を取り出す実験

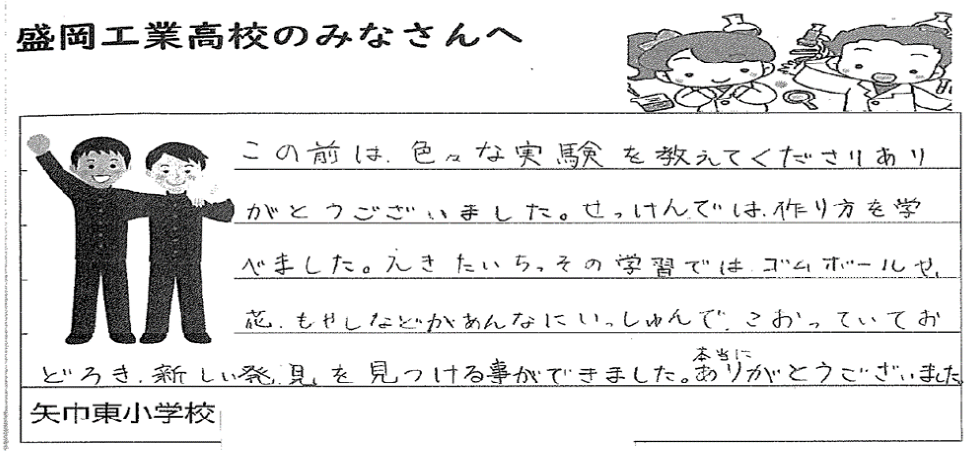
冷やしたゴムボールを割る実験

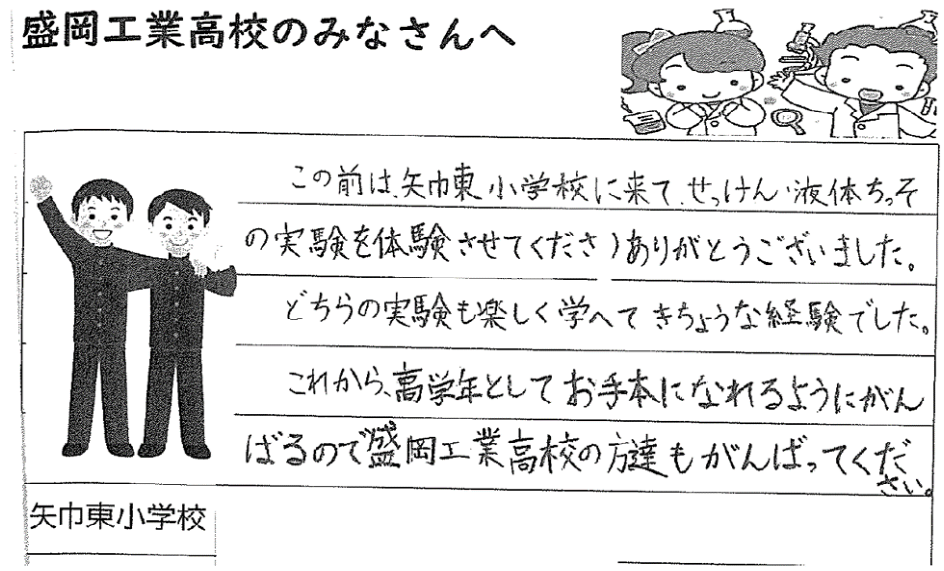
【感　　想】

小学生は普段テレビや教科書でしか教わらない液体窒素の実験を、直接触ったり目の前で自分たちの手で実験することができ、化学の面白さに興味を持ってくれたと感じた。今回説明をした高校３年生は普段の「教わる側」から、「教える側」になることで教えることの難しさを実感しながらも、コミュニケーションスキルを養う絶好の機会だったと思う。自分自身が小学生だったときのことも思いだし、なつかしそうに接していたのが印象的であった。

また、今回行った石鹸づくりでは、高校生が手伝いながら、小学生が取り分けを行った。取り分けてふたを固定したあとのペットボトルを振る作業では、小学生がとても楽しそうにしていて、ペットボトルの中身が白色のポタージュ状の液体になっていく様子に驚いていた。次の日には、ペットボトルの中でせっけんが固まっていた様子に更に驚いたとの報告を小学校の先生からもらった。

【生徒等の感想】





工業：キャリアアップ(実技講習会：ソリッドワークス)

岩手県立福岡工業高等学校

【事 業 名】　solidworks講習会

【日　　時】　令和４年8月10日(水)

【場　　所】　福岡工業高等学校　機械加工実習室B

【事業概要】　福岡工業高等学校機械システム科３年生４名に、solidworksの試験であるCSWA試験の対策講習を行った。

【講　　師】　いわてデジタルエンジニア育成センター　千 田 明 海 氏

【写　　真】

（CSWA試験の模擬問題を解く生徒１）

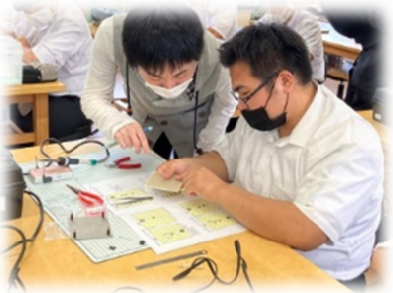
（CSWA試験の模擬問題を解く生徒２）

【引率者の感想】

講習は生徒が集中力を保ち真摯に取り組んだ。また、講習後、各自自主学習に取り組み、講習会参加者４人全員がCSWA試験に合格した。

岩手県立一関工業高等学校

【事 業 名】　いわて半導体アカデミーによる実技講習会
【日　　時】　令和４年６月２２日（水）～７月２５日（月）
【場　　所】　岩手県立一関工業高等学校
【事業内容】
１　テーマと内容
　１学年１１７名への全体講演では、岩手の半導体産業の現状と今後について、２時間にわたり講演をいただきました。多くの関心を集め未来の半導体技術を学ぶことができました。また、３年生２４名には、大学院生から半導体を使った学習を３回に分けて、講義を受け又製作を教わりました。センサ、ＬＥＤ、プログラミング技術について、理論と製作の過程から学びを深めることができました。
２　参加生徒
　１年生　電気電子科３８名、電子機械科３９名、土木科　３９名
　３年生　電気電子科２４名、合計１４０名
３　講師
（１）半導体全般：岩手大学　生産技術センター　特任教授　梅 木 和 博 氏
（２）技術・知識：岩手大学　生産技術センター　特任教授　梅 木 和 博 氏
　　他岩手大学大学院生　３名
４　スケジュール
（１）全体講演　６月２２日（水）13:30～14:20
（２）大学院生による工作講義（３つのテーマを大学院生３名が講師となり生徒に指導）
・６月２７日（月）13:30～15:20
　「ＬＥＤ」発電オルゴールを作ろう！
・７月１１日（月）13:30～15:20
　「人感センサ」リレー付き多機能人感センサを作ろう！
・７月２５日（月）13:30～15:20
　「マイコンでプログラミング」温度･照度計測装置を作ろう！
【写　　真】

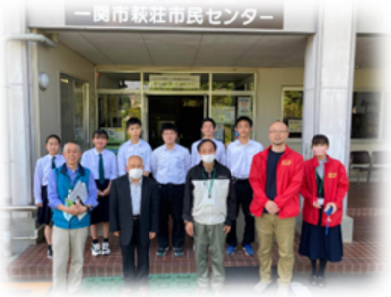


【生徒または担当者の感想】
　私たちが教える側になるために、必要なスキルとして正しい知識と意欲の向上を図るために、専門知識豊かな大学の先生方や大学院生の協力を得て、ＬＥＤ、センサ、マイコンの理論的知識を学習し、各テーマでの工作手順や製作技術を直接の指導により学びを深めました。

工業：キャリアアップ(講習会：地域プロジェクト)

岩手県立一関工業高等学校

【事 業 名】　技術・知識を地域につなげるプロジェクト
【日　　時】　令和４年４月１９日（火）～令和５年２月４日（日）
【場　　所】　岩手県立一関工業高等学校ほか
【事業内容】
　一関工業高校３年生が自分達の知識・技術を用い、それぞれの地域にある解決策が見えない「未知の課題」に対峙するプロセスを通して、「高校で培った知識・技術の意味付け」を行い、さらにより自分らしい未来を切り開いていくための「探究する力」「価値を創造する力」を高めることを目的としました。
１　テーマと内容
（１）萩荘地区：萩荘地域の地域活動への参加と出前授業
　　地域活動：萩荘地域の活性化（萩荘 DE マルシェ、理科教室・サイエンスショー）
　　出前授業：理科の授業を教科書に沿った内容で展開
（２）企業連携：地域ＰＲ、ＨＰの製作
　　企業と地域連携の在り方を模索
（３）厳美地区：地域にある山谷分館を活用し、震災を後世に伝えられる空間を作る。
　　ベンチの製作、旧祭畤大橋の模型製作
２　参加生徒
　電気電子科23名、電子機械科9名、土木科３名、合計35名
３　講師
　岩手大学　理工学部工学博士　高 木 浩 一 氏
　一関市　政策企画課　　鈴 木 敏 宏 氏
４　スケジュール
○５月10日(火)「SDGs の理解、プロジェクトの進め方・取り組み方」13:30～15:30
　＊地域活動：萩荘地区、厳美地区
　＊企業連携：(株)プレステージ・インターナショナル
　（年間９回の講話・講義を実施）
○11月29日(火)「中間報告及び事業成果を出すためのブラッシュアップ」13：30～15:30
○２月５日(日)「プロジェクト成果報告会」13:00～15：30
　参加者：市役所、地域（萩荘・厳美)、企業、学校運営協議会　計３５名
　本校職員･生徒　計３２名　合計６７名
【写　　真】



【生徒または担当者の感想】
　この活動は、地域や大学などの教育関係者、県、市との連携により、生徒たちが自らの活動の中で様々な経験により「気付き」を得たことです。その「気付き」が自己の形成に大切な知識と自信、意欲を与えてくれました。はじめは、どうなるか不安でしたが、始まってしまえば、楽しく時間を過ごすことができました。最後にこの活動に係わる多くの方に感謝いたします。

工業：キャリアアップ(実技講習会：電子機器組立)

岩手県立釜石商工高等学校

【事 業 名】　外部講師による生徒を対象とした実技講習会
技能検定『電子機器組立て３級』

【日　　時】　令和５年１月１７日(火)

【場　　所】　釜石商工高等学校　電気電子科実習室

【対象生徒】　本校電気電子科１，２年生の受検者６名

【講師派遣】　沿岸広域振興局　ものづくり人材育成コーディネータ担当者

【講　　師】　株式会社ワイ・デー・ケー東北工場様より２名派遣

【事業概要】　有資格者の外部講師から受検者へ直接指導・アドバイスを頂ける貴重な機会で、技能のレベルアップを図り、検定の合格率向上につなげる。

（１）作業上の注意点

・検定標準時間９０分（延長３０分）以内に組立て終わるように各作業工程の時間配分を気にかけて作業する。
・整理整頓しながら作業する。

【写　　真】

【生徒または指導者の感想やアドバイス】

（１）生徒の感想

・自分の苦手な作業について質問をしたところ、「予備ハンダは、線の先端だけに付けると良い。」「引っ掛けからげを取り付けるときは根元ではなく先端を押さえると良い。」　とアドバイス頂き、そのご指導のお陰で時間短縮が出来ました。

・「同じ作業をまとめて行うこと」を教わったことで、少しずつ時間短縮となりました。この心掛けは社会に出た後も大事になってくると思うので、忘れないようにしたいです。

・「危険予知」や「５Ｓ」が重要だと改めて理解しました。作業をする場所に使わない工具や部品が散らかっていれば作業効率が悪くなり、結果的に大幅なタイムロスになることを体感しました。

・電線の予備ハンダが何度やっても上手くいかなかったところ、講師の方に「はんだゴテを下から当てると良い。」とのアドバイスを頂き、実行してみたところ、これまで１０秒程度掛かっていたものが５秒程度で終わるようになりました。

・手を動かすスピードが遅いので、作業手順を覚えれば早くなるとご指導頂き、それから一日一日の練習を積み重ね､少しずつ基板作成の時間が短くなっていきました。

（２）指導担当の感想

・外部講師の豊富な経験からの技能や知識に関するアドバイスが参考になりました。応用可能なものはすぐに取り入れて、今後の指導に生かします。

・１人で６人の生徒を指導し、全員を同じレベルに持って行くことは限られた時間では難しいものがありますが、この度外部講師の方々にご指導頂いたことにより、私が今まで指導してきたことがよりいっそう生徒に伝わって理解が深まり、レベルの底上げを図ることが出来たと感じています。生徒側から見れば、新しい発見や気付きにより理解が深まったとも言えます。

（３）外部指導者の感想やアドバイス

・「今年はハンダ付けの出来具合が良いですね。」「全員で合格しましょう」。

・今回はほとんどの人がスムーズな作業ができています。合格の条件として先ずは時間内に組み上げ、動作する事が第一条件ですので、残り時間を考えて作業すると良いと思いました。完成まで諦めないで頑張って下さい。全員合格の吉報をお待ちしております。

農業：大会運営(県予選：フラワーアレンジメントコンテスト)

岩手県立水沢農業高等学校

【大 会 名】　第21回岩手県フラワーアレンジメントコンテスト兼
第32回全国産業教育フェア青森大会さんフェア青森2022岩手県予選
【日　　時】　令和４年７月２６日（火）
【場　　所】　岩手県立水沢農業高等学校　環境工学棟
【大会概要】　第21回岩手県フラワーアレンジメントコンテストを実施し、「第32回全国産業教育フェア青森大会さんフェア青森2022」に出場する岩手県代表を２名選出します。

（１）　大会出場選手一覧

番号	選手氏名	高等学校	学科	学年	性別
1	松浦　美空	盛岡農業	植物科学	3	女
3	中島　生智	花巻農業	生物科学	3	女
4	菊池　紗樺	花巻農業	生物科学	2	女
5	水野　果凛	大船渡東	農芸科学	3	女
6	田中　愛子	大船渡東	農芸科学	1	女
7	小原　佳奈	遠野緑峰	生産技術	3	女
8	佐々木 愛奈	遠野緑峰	生産技術	3	女
9	小野寺 真奈	水沢農業	食品科学	2	女
10	菅原　舞桜	水沢農業	食品科学	2	女

※番号２は欠席

（２）審査員　①審査長　目時 泰子（盛岡市）フラワー装飾１級技能士
②審査員　煙山　誠（雫石町）フラワー装飾１級技能士

（３）結果　金賞　遠野緑峰高等学校　佐々木愛奈
銀賞　水沢農業高等学校　菅原　舞桜
銅賞　盛岡農業高等学校　松浦　美空
※金賞・銀賞受賞者が全国大会へ出場します。

【写　真】

〈 競　技　風　景 〉

〈ワンポイント アドバイス〉

【感　想】

花器が３個の出題であったので、すべてを使う選手や２個のみで作品を作成するものなど様々でした。しかし、花材も豊富で十分に使用することができ、のびのびと作品を仕上げる選手が多く、出場数が減っている中でしたが、レベルの高いコンテストとなりました。

農業：大会参加(全国大会：そば打ち競技)

岩手県立盛岡農業高等学校

【大 会 名】　第12回全国高校生そば打ち選手権大会
【日　　時】　令和４年８月２７日（土）
【場　　所】　麺業会館（東京都千代田区）
【大会概要】　そば打ちに取り組む高校生が、日頃の練習の成果を発表し、そばを通じて全国の仲間と交流するものである。
（１）団体競技の部　そば粉800ｇ、つなぎ粉200ｇ、計1,000ｇを40分以内でそば打ちを行う。チームは４人１組とし水回し・ねり・のし・切りの全工程を４分毎に交代し、準備・片付けは全員で行う。
（２）食品科学科３年　そば研究班　5名
選手：吉田飛鳥、井戸星空、早坂彩乃、田村苺花　補欠：佐藤 翔
（３）団体戦５位・敢闘賞

【大会を終えて】
　コロナウイルスの影響により３年ぶりに出場することができ良かったです。私たちは、そば打ち選手権大会に向けて、２年生からそば打ち活動をスタートしました。6月には全麺協そば打ち初段位認定に全員合格し技術向上に励みました。その後は、放課後や夏休み時間を活用し団体戦に向けての練習を重ね、本番では成果を発揮し自分たちが納得するそば打ちをすることができました。結果は５位と悔しい結果でしたが、そば打ちに真剣に向き合うことができとても良い経験となりました。今後も岩手県のそば文化を広げる活動を行っていきたいと思います。ありがとうございました。

農業：大会参加(全国大会：和牛オリンピック)

岩手県立水沢農業高等学校

【大 会 名】第12回全国和牛能力共進会　鹿児島大会
【日　　時】令和4年10月6日（木）～10日（祝・月）
【場　　所】霧島高原国民休養地（鹿児島県霧島市牧園町高千穂3311）
【大会概要】全国の優秀な和牛を一堂に集めて、改良の成果やその優秀性を競う大会である。全国の和牛関係者にとって、この大会で優秀な成績を収めることは、和牛ブランド力の向上につながることから、最も重要な大会となっている。
（1）種牛の部、「高校及び農業大学校」の部
種牛の姿・形の体系の良さなど、改良の成果を月齢別に審査する。
（2）参加校数：各県から予選を勝ち抜き代表として選ばれた24校が参加した。
本校からは畜産専門分会3年生の４名が参加した。
畜産専門分会　３年　猪苗代 大智・松谷 直樹
佐藤 紫緒李・照井 晴香
（3）優等賞３席に入賞

【写　　真】

給餌の様子

競技中の様子

【感 想】
今回の大会は、5年に一度行われる大会あり「和牛のオリンピック」とも呼ばれています。そのような名誉ある大会で、優等賞３席に入賞でき大変うれしく思います。
生徒たちが頑張ったのはもちろんのこと、今回の好成績は地域の畜産農家や岩手県、そして企業の方々からのご協力もあってこその結果です。生徒たちも多くの世代の違う方々と活動を共にする中で、大きく成長できたと感じています。生徒たちからは、「これまで支えてくれた農家の先輩や仲間たちのおかげで入賞することができた」「全国各地の取り組みを知ることができた。とても勉強になる場であった」「将来は肥育農家を継ぎ、肥育と繁殖の一貫経営を目指したい」と感謝の気持ちと今後の抱負が聞かれました。
今後は、1月に開催予定の和牛甲子園での入賞を目指して日々精進していきます。

岩手県立盛岡農業高等学校

【大 会 名】　第６回和牛甲子園
【日　　時】　令和５年１月１９日（木)・２０日（金）
【場　　所】　東京都中央卸売市場食肉市場・品川グランドホール
【大会概要】　全国の農業高等学校で飼育された和牛を対象に、全国の農業高等学校の生徒を集めて和牛飼育体験発表会および和牛枝肉共励会を開催する。

（１）競技部門及びその内容

①取組評価部門

日ごろの取組内容（飼養、研究取組、飼育体験、その他）をまとめて発表する部門

②枝肉評価部門

学校で肥育した牛を出品し、枝肉を評価する部門

③総合評価部門

取組評価部門と枝肉評価部門の総合成績

（２）参加者数

全国より４０校５６頭が出場（過去最多）

（３）本校参加者　動物科学科３年

髙橋淳一　苗代澤銀大　新田悠治　三浦快斗　４名

（４）本校成績

取組評価部門　奨励賞

枝肉評価部門　奨励賞

出品牛①盛農晴花号　　Ａ５　ＢＭＳ　NO.９

②盛農亀之国号　Ａ５　ＢＭＳ　NO.１２

総合評価部門　奨励賞

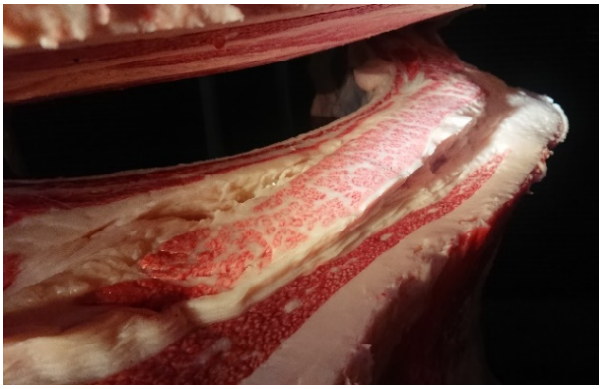
【 写真 】

（本校参加生徒集合写真）

（大会風景）

農業：大会参加(全国大会：和牛甲子園)

（出品牛出荷の様子）



（出品牛の枝肉）

【 感想 】

第６回大会は実参加とリモート参加の２パターンがありましたが、本校は実参加をさせていただきました。年々各参加校の取組のレベルが上がり、入賞することも難しくなりました。出品牛においても肥育農家さん顔負けの素晴らしい牛がそろい、高校生の飼育レベルの高さに驚きと刺激を受けて帰ってきました。

残念ながら入賞とはなりませんでしたが、生徒の日々行ってきた飼養管理の努力が実り、出品した２頭ともA5という最高の評価を頂くことができました。生徒も笑顔や安堵の表情を浮かべ、お互いを讃えあうほど喜んでいました。

今後は次回大会に向け、取組の見直しや、科学的な調査や分析等を交えながら本校初入賞を目指して肥育に取り組んで参ります。ありがとうございました。

農業：大会参加(全国大会：フラワーアレンジメントコンテスト)

岩手県立遠野緑峰高等学校

【大 会 名】　第３２回全国産業教育フェア青森大会　さんフェア青森２０２２
　　第２１回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト
【日　　時】　令和４年１０月１５日（土）～１０月１６日（日）
【場　　所】　青森県総合運動公園マエダアリーナ（サブアリーナ）
【大会概要】
（１）競技内容
　　農業に関する学科を中心とした専門高校等の生徒によるフラワーアレンジメントコンテストの全国大会
（２）参加者数　全国60名
　　本校１名　生産技術科３年　佐々木 愛 奈
（３）入賞者数
　　入賞ならず

【写　真】

大会風景

本人作品

【生徒感想】
　今年度のテーマは、「縄文の風」でした。大会一ヶ月にテーマや花器、花材が発表されましたが、当日は、サプライズで２種類の花材も追加されました。私は「縄文の風」を縄文土器と、竪穴式住居で表現しようと思い練習をしてきました。しかし、当日は、緊張で思うように手が動かず、制限時間の６０分が本当に短く感じました。作品は、時間内に完成できたものの、納得できるものとはいえませんでした。しかし、個人指導で審査員の方から「花の個性を生かし、自然に自生している花のようにアレンジできているところがよい。籠の下の花の入れ方も、とても綺麗だ」というコメントを頂き嬉しかったです。今回は、籠を使ってのアレンジでしたが、選手の中には籠をカットしたり、ワイヤーを装飾の一部として使用している人もおり､斬新なデザインやワイヤー使い方に興味を持ちました。
　私は、高校卒業後にフラワーデザインを学ぶため進学しますが、全国大会を経験したことで、もっと色々なデザインのアレンジに挑戦していきたいと思うようになりました。コロナ禍ではありましたが、全国から選手が集まり競技をし、お互いの作品を間近で見ることができたことは、私にとって、本当に貴重な経験となりました。

農業：大会参加(全国大会：フラワーアレンジメントコンテスト)

岩手県立水沢農業高等学校

【大 会 名】　第３２回全国産業教育フェア青森大会　さんフェア青森２０２２
　　第２１回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト
【日　　時】　令和４年１０月１５日（土）～１０月１６日（日）
【場　　所】　青森県総合運動公園マエダアリーナ（サブアリーナ）
【大会概要】　全国の専門高校等で学ぶ高校生が、フラワーデザインに関する知識と技術を活用し、自らの考えを表現する力や創造性・芸術性を高め合い、新たな未来を切り拓く職業人としての資質をはぐくむものである。

（１）競技内容
　　与えられた花材を60分以内にアレンジし、その創造性・芸術性を競技する。
（２）参加者数　各都道府県から2名以内の選手60名
　　本校選手氏名　食品科学科２年　菅 原 舞 桜
（３）入賞者数
　　入賞ならず

【写　真】

大会風景

本人作品

【引率者感想】

今年５月から練習を重ね、花材の使い方やフラワーデザインの基本についても意欲的に学んできた。７月の岩手県予選においては、他のアレンジとは一線を隔したデザインで銀賞を得ることができ、全国大会に出場することができた。

岩手県予選後、新たなアレンジを考えながら練習を重ねた。競技開催地である青森県のイメージを膨らませながら、縄文文化や特産であるリンゴなどにも関心を持ちながら取り組んだ。

全国大会では花材として競技地を生かし、リンゴ、稲穂が出され、花器の一つが笊を使用することが求められた。その他の花材も豊富で十分に使用することができ、のびのびと作品を仕上げることができた。しかし全国の選手の創造性や芸術性はレベルが高く、そのアピール性も絶大で入賞することはできなかった。

選手も今回の経験を通し今後の高校生活に生かしたいと言っている。

農業：大会参加(東北大会：日本学校農業クラブ)

岩手県立花巻農業高等学校

【大 会 名】　第73回日本学校農業クラブ東北連盟大会　青森大会
【日　　時】　令和4年８月25日(木)～26日(金)
【場　　所】　岩木文化センターあそべーる
【大会概要】　研究活動を通して農業クラブ員の資質や技術向上を図る。
（１）競技部門及びその内容
　　プロジェクト発表分野Ⅱ類（環境・保全・創造）に関する研究発表
（２）参加者数・氏名
　　食農科学科３年５名　阿 部　　悠・藤 原 彩 樺・牛 﨑 佑 斗
　　菊 池 陽 那・日 角 圭 孝
　　食農科学科２年４名　久 保 星 空・熊 谷 幸 乃・杉 山 美 藍・千 田 玲 那
（３）競技結果
　　プロジェクト発表会分野Ⅱ類　最優秀賞

【写　　真】

【発表本番の様子】

【発表終了後の記念撮影】

【生徒または引率者の感想等】
　東北大会への出場と最優秀賞の受賞は私たちの目標の通過点でしかないはずでした。しかし、いざ会場へ向かうと、そこには自信に溢れた表情で既に臨戦態勢の同志達の姿が。思わずたじろいでしまいました。「大丈夫。ここまでやってきたのだ。」自分にそう言い聞かせ、発表に臨みました。発表自体は練習以上の出来で自信あり。しかし、他の出場校の発表を見ていくうちに不安が募りました。結果的には最優秀賞をいただき全国へコマを進めることができましたが、私たちにとっては、ギリギリの通過で、東北ブロックのレベルの高さを痛感した良い経験となりました。
　最後に、企画・運営に携わってくださった全ての関係の皆様に感謝したいと思います。

発表代表　食農科学科３年　阿部　悠

農業：大会参加(東北大会：日本学校農業クラブ)

岩手県立花巻農業高等学校

【大 会 名】　第73回日本学校農業クラブ東北連盟大会　青森大会
【日　　時】　令和4年８月25日(木)～26日(金)
【場　　所】　岩木文化センターあそべーる
【大会概要】　意見発表を通して農業クラブ員の資質や技術の向上を図る。
（１）競技部門及びその内容
　　競技部門：意見発表会Ｉ類
　　競技内容：農業の「生産・流通・経営」に関する身近な問題や、将来の問題についての抱負や意見を一人で口頭発表します。発表時間は７分以内で、発表終了後に質疑応答をおこないます。
（２）参加者数・氏名
　　生物科学科３年１名　似 里 桜 嘉
（３）競技結果
　　優秀賞

【写　　真】

【大会会場】

【発表の様子】

【引率者の感想等】
　本生徒は、生物科学科バイオテクノロジー専攻班に所属し、ＪＡいわて花巻リンドウオリジナル品種「青孔雀」の品種維持に関する研究に取り組んでます。様々な研究課題の中、リンドウ生産農家をはじめ関係機関の協力を得ながら成果を上げることができました。将来は普及指導員として、地域の花卉振興に貢献したいという強い意志を持っています。
　本生徒は中学生の頃より体調が思わしくありません。思うような練習をおこなうことができず大変悩んでいました。前日も痛みが激しく、食事も思うように取れないことがありました。このことから棄権することも提案しましたが、意見発表に対する強い気持ちがあり、見事最後までやり遂げることができました。発表態度も堂々として聴衆を魅了するものです。発表時間の超過もなく、質疑応答も満足のいくものでした。生徒も引率者としても、達成感を感じることができ、入賞以上に得るものの大きな大会でした。ご支援をいただいている関係機関の皆様に感謝を申し上げます。

農業：大会参加(東北大会：日本学校農業クラブ)

岩手県立花巻農業高等学校

【大 会 名】　第73回日本学校農業クラブ東北連盟大会　青森大会
【日　　時】　令和4年８月25日(木)～26日(金)
【場　　所】　青森県立柏木農業高等学校
【大会概要】　情報知識・表計算処理・グラフ作成を通して、農業クラブ員の資質や技術の向上を図るものである。

（1）競技部門及びその内容
競技部門：農業情報処理競技
競技内容：①情報知識（10分）
農業情報処理に関する基礎的な知識を問う。
②表計算処理・グラフ作成・考察文書処理（60分）
指示された内容に従い、与えられたデータを処理して、表およびグラフを作成、それらを考察し文書を作成する。

（2）参加者数・氏名
食農科学科３年１名　　遠 藤 愛 優

（3）競技結果
入賞せず

【写　　真】

【競技直前の練習①】

【競技直前の練習②】

【生徒または引率者の感想等】

岩手県大会終了後、進路活動と並行しながら夏季休業中にも関わらず、練習を積み重ねてきました。出題傾向が県大会、そして昨年度の東北大会と変化したようで、対応が難しかったと感じました。データから読み取る出題であったため、考察に時間を要し、最後まで完了することが困難でした。

参加した生徒は、悔しさがありましたが東北大会の舞台で競技できたことに自信を持ったようであり、進路達成に向けて更に頑張りたいと話しています。

次年度大会は岩手大会であるため、準備期間を早期に設定し、あらゆる問題に対応できる指導を行っていきたいと思います。

農業：大会参加(東北大会：日本学校農業クラブ)

岩手県立花巻農業高等学校

【大 会 名】　第73回日本学校農業クラブ東北連盟大会　青森大会
【日　　時】　令和4年８月25日(木)～26日(金)
【場　　所】　青森県立柏木農業高等学校
【大会概要】　教科の学習や学校農業クラブ活動を通して得た測量技術の成果を発表し、その実力を競い合い、職業的能力を高めることを目的とする。

（１）競技部門及びその内容
競技部門：平板測量競技
競技内容：平板による境界線測量および三斜法･三辺法による面積計算
第１次作業は平板測器による境界線測量、第２次作業は面積測定のための距離測定作業、第３次作業は、平板測器による境界線測量の閉合誤差の図解法による補正および三斜法による面積測定ならびに図面仕上げとオフセット野帳よりの三辺法による面積測定を行う。

（２）参加者数・氏名
環境科学科２年４名　伊 藤 雅 姫･菅 原 も え･髙 橋 茄 奈･北 舘 寿 莉

（３）競技結果
入賞せず

【写　　真】

【競技の様子】

【大会会場】

【生徒または引率者の感想等】
競技前は緊張も見られましたが、普段通りの実力を発揮できたと思います。しかし、競技途中で巻尺が切れてしまうトラブルに見舞われ、時間オーバーと距離の誤差のため入賞を逃しました。
来年度は、様々な状況にも対応し、誤差等最小限に抑えられる実力を身につけ、目標である全国制覇に臨みたいと思います。

岩手県立水沢農業高等学校

【大 会 名】第73回日本学校農業クラブ東北連盟大会　青森大会
【日　　時】令和4年８月25日(木)～26日(金)
【場　　所】岩木文化センター・中央公民館
【大会概要】学校農業クラブは農業高校生の「科学性」「社会性」「指導性」の育成を目標に、プロジェクト活動をはじめ各専門分野の活動を行っている。これらの活動の成果を発表する場として日本学校農業クラブ連盟大会がある。

(1) 競技部門及びその内容

意見発表分野Ⅱ類に出場。分野Ⅱ類は開発・保全・創造について,自らの意見を発表する。

(2) 参加者数・氏名

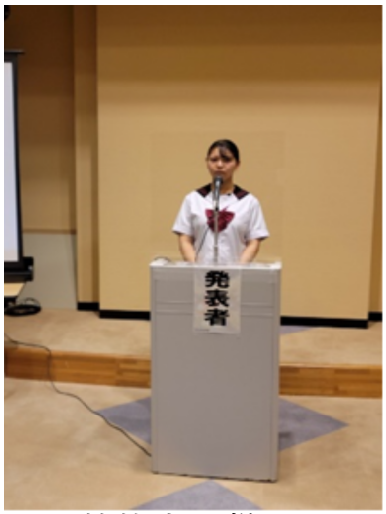
参加者数は、東北の各県代表7名が出場した。
本校選手氏名　食品科学科２年　菅 原 舞 桜

(3) 結果

優秀賞

【写　　真】

待ち時間の様子



競技中の様子

【感　想】

岩手県の代表として第73回日本学校農業クラブ東北連盟大会青森大会意見発表分野Ⅱ類に出場してきました。食品ロスについての意見を述べてきました。普段学校のプロジェクト活動で行っている「おやき」から食品ロスにつなげる発表をしてきました。結果は優秀賞で惜しくも全国大会には進めませんでしたが、食文化専門分会の取り組みや自分の考えを述べた立派な発表を行うことができました。

農業：大会参加(東北大会：日本学校農業クラブ)

岩手県立遠野緑峰高等学校

【大　会　名】　第73回日本学校農業クラブ東北連盟大会　青森大会
【日　　時】　令和4年８月25日(木)～26日(金)
【場　　所】　青森県立柏木農業高等学校
【大会概要】　情報知識・表計算処理・グラフ作成を通して、農業クラブ員の資質や技術の向上を図るものである。

（１）競技部門及びその内容
競技部門：農業情報処理競技
競技内容：①情報知識（10分）
農業情報処理に関する基礎的な知識を問う。
②表計算処理・グラフ作成・考察文書処理（60分）
指示された内容に従い、与えられたデータを処理して、表およびグラフを作成、それらを考察し文書を作成する。

（２）参加者数・氏名
生産技術科３年１名　　佐々木　渚

（３）競技結果
入賞せず

【写　　真】

【競技前練習の様子】

【会場入り口にて】

【生徒または引率者の感想等】
令和４年８月２５日（木）に行われました、第７３回日本学校農業クラブ東北連盟大会農業情報処理競技会に青森県平川市の青森県立柏木農業高等学校において本校生産技術科３年佐々木渚（１名）が、コロナ禍で東北連盟大会が開催されるのか心配もありましたが、出場することができました。
農業情報処理競技は教科の学習で得た情報知識問題と、指示された内容に従い、与えられたデータを処理し、表とグラフを作成し、その作成された表やグラフを参考に考察を行い、文書を作成します。データの的確な判断と素早い処理能力と技術が試される競技会です。
岩手県連盟技術競技大会農業情報処理競技大会で最優秀賞をいただき、東北連盟大会へ代表として出場の機会を得てから、生徒は夏休み中も毎日のように農業情報処理における専門的な技術や能力を高めるよう努力しましたが、残念ながら入賞はできませんでした。他県の生徒さん方の技術の高さに圧倒されましたが、東北連盟大会に参加することによりクラブ員としての資質や技術の向上を図ることができ生徒も成長できた良い大会でした。

農業：大会参加(全国大会：日本学校農業クラブ)

岩手県立花巻農業高等学校

【大　会　名】　第73回日本学校農業クラブ全国大会　北陸大会
【日　　時】　令和4年10月26日(水)～27日(木)
【場　　所】　富山県高岡文化ホール
【大会概要】　研究活動を通して農業クラブ員の資質や技術向上を図る。
（1）競技部門及びその内容
　　プロジェクト発表分野Ⅱ類（環境・保全・創造）に関する研究発表
（2）参加者数・氏名
　　食農科学科３年５名　阿 部　　悠・藤 原 彩 樺・牛 﨑 佑 斗
　　菊 池 陽 那・日 角 圭 孝
　　食農科学科２年４名　久 保 星 空・熊 谷 幸 乃・杉 山 美 藍・千 田 玲 那
（3）競技結果
　　プロジェクト発表会分野Ⅱ類　優秀賞

【写　　真】

【発表本番の記念写真】

【本番での発表の様子】

【生徒または引率者の感想等】
　生徒は､練習以上の素晴らしい発表を９分５９秒ノーミスでやり通すことができました。質疑では､「長期間保存可能にするために、なぜホップに着目したのか？」という抽象的で難しい質問でしたが、代表者の阿部悠は､「地域資源の有効活用をすることであり、その効果はエキスにすることで有効である」そのようなことをしっかり回答してくれました。生徒たち全員は、日本一になれなかった悔しさをにじませながらも、悔いが残らない発表ができたことに達成感を感じているようでした。この全国までの道のりは、数々の予選を突破することはもちろん、研究班として１つになることが重要課題でした。それぞれ部活動と両立していくことは、大変なことで統制が取れないことが多々ありました。そのような背景から全国大会に出場できたことは生徒たちにとって大きな自信になったと確信します。この課題解決能力をこの日本一という志を高く持ったことで、身につけることができたものと思われます。来年度は今の２年生が主役になります。ぜひ熊本大会を視野に研究を継続して欲しいと願います。

岩手県立花巻農業高等学校

【大　会　名】　第73回日本学校農業クラブ全国大会北陸大会農業鑑定競技
【日　　時】　令和4年10月26日(水)～27日(木)
【場　　所】　福井県産業会館
【大会概要】　専門の学習で習得した農業に関する知識や技術の成果として、実物を見て鑑定・判断」する能力を競い合い、その知識や技術の更なる向上を図るものである。研究活動を通して農業クラブ員の資質や技術向上を図る。

（1）競技部門及びその内容
　○競技部門　　農業鑑定競技
　○競技内容　　農業・園芸・畜産・食品・森林・農業土木・造園・生活の８分野で各分野40問、出題形式は20秒の択一問題と記述問題、40秒問題があり、名称や使用方法等を問う競技である。

(2) 参加者数・氏名　（本校より６名出場）
　【農業】生物科学科２年　阿 部 佐枝子・生物科学科３年　淺 田 翔 瑛
　【造園】環境科学科２年　佐 藤 優里菜
　【土木】環境科学科３年　高 橋 友 也
　【食品】食農科学科３年　瀬 川 瑞 樹
　【生活】食農科学科３年　千 葉 真愛美

(3) 入賞者数・氏名
　優秀賞３名　【土木】環境科学科３年　高 橋 友 也
　　【食品】食農科学科３年　瀬 川 瑞 樹
　　【生活】食農科学科３年　千 葉 真愛美

【写　　真】

【大会会場　競技前受付風景】

【競技終了後】

【生徒または引率者の感想等】
　農業鑑定競技会は、学校農業クラブ全国大会の競技の中で、最も出場者が多く、全国各地からおおよそ１０００人もの学生が集まる盛大な競技会です。競技前は、ライバル同士だった生徒同士も競技終了後には交流の幅も広がり、学校生活や学習活動に多大なる刺激となったと思います。生徒にとっては、もちろん入賞した際の喜びは大きいですが、入賞の有無に関わらず、参加することそのものの意義は大きいといえます。

農業：大会参加(全国大会：日本学校農業クラブ)

岩手県立遠野緑峰高等学校

【大 会 名】　第73回日本学校農業クラブ全国大会　北陸大会
【日　　時】　令和4年10月26日(水)～27日(木)
【場　　所】　富山県高岡文化ホール
【大会概要】
（１）競技部門　プロジェクト発表会　分野Ⅲ類「ヒューマンサービス」
（２）競技内容　１０分以内で発表　※超過で減点対象となる
（３）参加者数　生産技術科３年　野菜・果樹研究班９名
（４）競技結果　最優秀賞（研究班として初受賞）

【写　　真】

【発表会の様子】

【大会式典終了後の嬉涙】

【引率者の感想等】
過日（10/25-26）行われました第73回日本学校農業クラブ全国大会(北陸大会）が高岡市内にある高岡文化ホールにおいて本校生産技術科３年草花研究班９名が出場して参りました。エゴマ粉とエゴマ葉を活用した商品開発による地域活性化へつながる研究であり、今後のプロジェクトの可能性、本校の小規模校としての存在意義の発信など全国に発信する機会となりました。
結果は、お陰様で最優秀賞を受賞することができました。生徒たちは、本気で日本一を目指して臨んだ大会だったので、最優秀賞をいただけたことに本当に嬉しさで、たくさん涙を流しました。(写真参照)
担当者としても、生徒が喜びの涙を流したことは本当にやってきた証だと思っております。生徒の喜ぶ顔を見たことで、常に志は高く、向上心を持って、継続研究に励んで参りたいと思います。
生徒たちは、発表（10:00秒NOミス)、質疑応答（質問：エゴマの商品開発する上で苦労した点　回答：エゴマの栽培方法の確立)、事前資料（記録日：PDCAサイクルを重点に置いた作成と日々の積み重ねの集大成を記録）にかけても本当に素晴らしいものを見せて頂きました。
今後も、地域の活性化につながる研究を目指し、地域のために貢献して参りたいと思いますので変わらぬご指導の程よろしくお願いします。
最後に、ご支援下さいました岩手県産業教育振興会様をはじめ、たくさんの温かいご寄付を頂戴し大会に臨ませて下さった遠野市農業委員会の皆様、遠野市産業部の皆さん、遠野市民の皆様そして私たちに関心を寄せて頂いた多くの皆様に深く感謝申し上げます。

農業：大会参加(全国大会：日本学校農業クラブ)

岩手県立遠野緑峰高等学校

【大　会　名】　第73回日本学校農業クラブ全国大会北陸大会農業鑑定競技
【日　　時】　令和4年10月26日(水)～27日(木)
【場　　所】　福井県産業会館
【大会概要】
（１）競技部門　農業鑑定競技会
　　競技分野　「園芸」・「生活」
　　競技内容　問題は各分野40問
　　出題形式は20秒の択一問題と40秒の記述問題
　　※択一問題はマークシート方式
（２）参加者数　２名
　　「園芸」：生産技術科３年　宇夫方 日 向
　　「生活」：生産技術科２年　佐 藤 亜 胡
（３）入賞者数
　　なし

【写　　真】

【競技会場受付の様子】

【競技会場入り口にて】

【引率者の感想等】
過日（１０／２６）、第７３回日本学校農業クラブ全国大会(北陸大会) 農業鑑定競技会が福井県福井市内にある福井県産業会館にて行われ、本校生産技術科３年生１名と２年生１名が出場して参りました。２名とも、スマートフォンで画像検索したり、びっしり書き込みした学習ノートを作成するなどしながら実物を覚え、全力で取り組み競技会に臨みました。
競技の結果は、残念ながら入賞はなりませんでしたが、２名とも持てる力を出し切ったと話しておりました。初めて参加した大きな大会に大きな緊張感でいっぱいだった様子も見られましたが、両名ともプレッシャーに負けずに学校代表の競技者としての使命を果たしたと思います。
今後とも、次代の地域を担う生徒たちが、安心して前向きに学習に取り組めるよう、貢献して参りたいと思いますので変わらぬご指導の程よろしくお願いします。
最後に、ご支援下さいました岩手県産業教育振興会様をはじめ、たくさんの温かいご寄付を頂戴し大会に臨ませて下さった遠野市農業委員会の皆様、遠野市産業部の皆さん、遠野市民の皆様そして私たちに関心を寄せて頂いた多くの皆様に深く感謝申し上げます。

農業：大会参加(全国大会：日本学校農業クラブ)

岩手県立水沢農業高等学校

【大 会 名】　第73回日本学校農業クラブ全国大会北陸大会農業鑑定競技
【日　　時】　令和4年10月26日(水)～27日(木)
【場　　所】　福井県産業会館
【大会概要】　日頃の学習で得た農業に関する知識･技術の成果を、鑑定･判定・診断・審査技術にわたり、その実力を競い合う競技である。

（1）競技部門及びその内容
実施分野「農業」､「食品」に参加。出題数は40問で、各分野の実物について鑑定・判定・診断・審査を行い、１問20秒または40秒という時間で解き、正答率を競う内容である。

（2）参加者数・氏名（東北・全国及び本校）
全国大会参加人数　約4,000人（うち　農業鑑定競技　約1,000人）
自校参加者　分野「農業」農業科学科３年　髙 橋 耀 太
分野「食品」食品科学科２年　菅 原 舞 桜

（3）入賞者数・氏名（本校）
なし

【写　　真】

【本校参加者】

【本大会会場入り口】

【生徒または引率者の感想等】
髙橋耀太は３年ということもあり､今まで勉強した成果を発揮できるチャンスであった。しかし、全国大会は、校内大会とは規模が違い、圧倒された。北陸の地に結果を残すことができず悔しい思いもある。今後、この経験を後輩に託したいと思った。
菅原舞桜は２年の参加であるため、貴重な経験ができた。今回、入賞を逃したが、この悔しさをバネに、次年度の大会に向け再度勉強をし直す覚悟ができた。次こそは、満足できる結果を残したい。

岩手県立遠野緑峰高等学校

【事 業 名】　クリスマス用フラワーアレンジメント実技講習会
【日　　時】　令和４年１２月１５日(木)
【場　　所】　遠野緑峰高等学校
【事業概要】　フラワーデザインやアレンジメントの基礎基本について、その技法を学ぶ機会とする。また、花材の一部として学校周辺にあるコニファーや木の実などを活用し、身近にある植物のアレンジ方法を学び、豊かな感性と癒しのある空間を演出する力を育む。
（1）作　製　物　　クリスマスツリー型のアレンジメント
（2）参 加 者 数　　生産技術科３年　生産科学コース　２０名
（3）参加者の様子　　初めてアレンジメントに取り組む生徒もいたが、講師の先生の分りやすい指導の下、楽しみながら取り組むことができた。

【写　　真】

【アレンジの様子】

【リボンワークの様子】

【 生徒感想 】

今回は、農場にあるコニファーを活用し、クリスマスツリーをイメージしたアレンジメントを作製しました。お花を挿していく順番や高さなどに注意しながらアレンジしましたが、個々の植物にも「顔」があり、一番きれいに見える部分が正面に来るように挿すことが大切だということが分りました。また、自分たちで採取した木の実なども使いましたが、身の回りにあるものも工夫次第で素敵なアレンジに活用できることが分りました。

クリスマスに自分で作ったアレンジメント飾るのは、初めてのことですが、素敵だなと思いました。講習会で学んだことを生かし、今後は、自分でも自宅の花壇に咲く花を使って色々なアレンジメントを作ってみたいと思います。

岩手県立遠野緑峰高等学校

【事 業 名】　わら細工実技講習会
【日　　時】　令和５年１月２３日(月)
【場　　所】　遠野緑峰高等学校
【事業概要】　生物活用の授業の一環として、藁を使った工芸品作りに取組み、この地域に伝わる先人の知恵や藁の活用法を学ぶ機会とする。
（1）作　製　物　　馬っこ
（2）参 加 者 数　　生産技術科３年　生産科学コース　２０名
（3）参加者の様子　　藁で縄をなったことがない生徒がほとんどであり悪戦苦闘していたが、諦めることなくできるまで挑戦していた。それができてからは、大小様々な馬っこの製作に意欲的に取り組んでいた。

【写　　真】

【製作風景】

【集合写真】

【 生徒感想 】

私にとって藁を使って何かを作るという作業は、今回が初めての体験でした。「馬っこ」を作ってみて感じたことは、藁をなうところが一番難しく、時間がかかりました。講師の先生から藁をなうときのコツを教えてもらい、何とかできるようになりました。そして、その藁を使って、耳や口、たてがみ、胴体などのパーツを組合わせ、馬の形ができてきたときはとても嬉しかったです。

今回の講習会をとおして、藁で馬っこの他にも普段の生活で使う様々な物が作られていることを知りました。現代、私たちは、欲しいものはすぐにお店で買うことができます。しかし、何でも買うのではなく、わら細工のように身の周りにあるものを利用し加工していくということは、今後、大切になっていくような気がしました。また、このような、わら細工を作れる方の多くが高齢なので、このすばらしい技を絶やさないためにも、私たち若い世代が今回のような講習会で受け継いでいくことが大切だと思いました。

岩手県立宮古商工高等学校

【大 会 名】　第38回全国高等学校簿記競技大会

【日　　時】　令和４年７月２５日（月）

【場　　所】　日本工学院専門学校蒲田キャンパス

【大会概要】　簿記の振興を図り、商業教育の発展に寄与するものである。
（１）参加生徒　　総合ビジネス科３年　佐々木 陽 菜
（２）大会成績
　◯団体総合競技（４７校）　　優　勝　滋賀県立　八幡商業高等学校
　　準優勝　岐阜県立　岐阜商業高等学校
　　第３位　兵庫県立　神戸商業高等学校

　◯個人総合競技（２３３名）　優　勝　　岐阜商業　田 宮 朱 梨
　　準優勝　　神戸商業　濱 部 希 輝
　　第３位　　浜松商業　山 本 綾 花
　◯宮古商工高等学校生徒成績
　　佐々木 陽 菜　128位／233名

【写　　真】

競技大会前

会場入り口

【生徒または引率者の感想等】
　コロナ禍ではありますが、団体４７校、個人２３３名の参加で大会が実施されました。県大会入賞後、全国大会に向け厳しい練習に励み全国大会に臨みました。全国の壁は厚く、岩手県勢の団体・個人共に入賞は逃しました。来年度は全国大会入賞を目指し、日々努力し続けます。

商業：大会参加(全国大会：簿記)

岩手県立水沢商業高等学校

【大 会 名】　第38回全国高等学校簿記競技大会
【日　　時】　令和４年７月２５日（月）
【場　　所】　日本工学院専門学校蒲田キャンパス
【大会概要】
（１）内容
競技は前半（第１部)、後半（第２部）それぞれ４５分で行われ、第１部は仕訳と帳簿の問題、第２部は計算と決算の問題となっている。
出題範囲は「簿記」「財務会計Ⅰ」「原価計算」に関するすべての内容とされ、正確に、迅速に、整然と記帳・処理されているかを審査基準に従って審査し総合得点で成績が決定される。
（２）参加者数
・団体代表は各都道府県１校、岩手県は水沢商業高校
出場団体総数４７校
・個人代表は各都道府県の団体代表校以外の会員校から２名以内、
岩手県は盛岡商業高校１名、宮古商工高校１名
出場選手総数２３５名
（３）結果
・団体１９位／４７校

【写　　真】

会場風景

会場入り口

【生徒または引率者の感想等】
生徒はモチベーションを高く持ちながら全国大会に向けて取り組んできた。県大会とは違い難問が多く、順調には進まなかったが、お互い声を掛け合いながら活動ができた様子である。入賞にはたどり着けなかったが、体調管理を徹底でき、感染症にかかることなく全国大会の大舞台を経験できたことが生徒にとっては貴重な経験であったと感じる。

岩手県立盛岡商業高等学校

【大 会 名】　第38回全国高等学校簿記競技大会

【日　　時】　令和４年７月２５日（月）

【場　　所】　日本工学院専門学校蒲田キャンパス

【大会概要】
1　競　　技
　第１部（45分）　第２部（45分）
2　参 加 者
　団体４７校　個人２７８名
3　大会成績
　個人成績　会計ビジネス科３年　藤 岡 寛 人　103点　67位／278名

【写　　真】

【生徒または引率者の感想等】
　令和４年７月25日(月)に令和４年度第38回全国高等学校簿記競技大会が東京・日本工学院専門学校蒲田キャンパスを会場に開催され、全国から47校278名が参加しました。本校からは３年藤岡さんが、２年連続で個人総合競技に出場し、第67位という成績でした。全国の壁は厚く、昨年度の順位を超えることはできませんでしたが、３年間の学習の成果を発揮することができました。

岩手県立盛岡商業高等学校

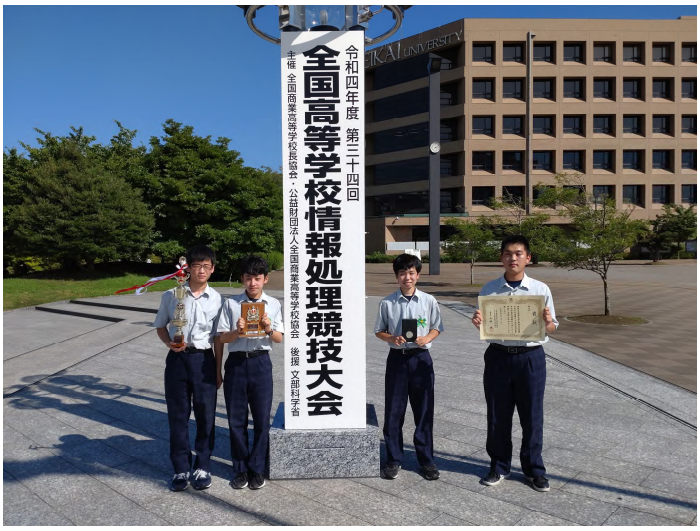
【大 会 名】　第34回全国高等学校情報処理競技大会

【日　　時】　令和４年７月３１日（日）

【場　　所】　千葉県　明海大学

【大会概要】
（１）競　　技　　第１部４０分　第２部４０分
（２）参 加 者　　団体４６校　個人２２６名
（３）大会成績　　団体の部　第７位入賞
　　本校として団体入賞は２年連続通算８回目
　　個人の部　第８位入賞(優良賞)
　　情報ビジネス科３年　菅　　秀 介

【写　　真】



【生徒または引率者の感想等】
　本県の団体代表校として正選手３名､補欠１名の生徒を引率し大会に出場してきました。結果は団体の部で第７位に入賞、個人は第８位に入賞し、大変素晴らしい成績を収めてくれました。正選手３名のうち２名は昨年の全国大会で団体入賞したメンバーであり、期待どおりに健闘してくれました。もう１人の３年生も、大会当日は自己最高点を収めることができました。来年度も入賞できるように、また生徒とともに頑張っていきたいと思います。
　この度は、助成いただき大変ありがとうございました。

岩手県立水沢商業高等学校

【大 会 名】　第34回全国高等学校情報処理競技大会
【日　　時】　令和４年７月３１日（日）
【場　　所】　千葉県　明海大学
【大会概要】　情報処理教育の振興を図る事業の一環として実施するものである。
（１）競技部門　　個人の部に出場
（２）参加者　　全国２２７名
　　本校参加者　情報システム科３年　佐 藤 瑠 唯
（３）成績　　第６９位　（第１部59点　第２部36点　計95点）

【写　　真】

会場立て看板前

開会式会場

【生徒または引率者の感想等】
　一昨年前は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全ての大会が中止となり、昨年度は、感染予防に伴う、成績発表や表彰などの閉会式がない大会でした。今年度は、新型コロナウイルス感染症前と同様に、開会式や成績発表、表彰も行われる大会に、個人の部で出場しました。Ｉ部の関連知識とデータベースの難易度は昨年と同等であったが、昨年度よりも高い得点をあげることができました。また、II部の表計算とアルゴリズムでも総合得点で上位に入賞した選手と同等の点数をあげることができました。
　少しずつではありますが、全国の舞台で活躍している盛岡商業高等学校の力量に近づいてきていると感じています。さらに、日々の練習を大事に取り組ませていきたいと思います。また、情報処理学習を通して得た知識・技術が今後の生徒の生涯に渡り有益となるような実践的な指導も目指していきたいと思います。

岩手県立花北青雲高等学校

【大 会 名】　第34回全国高等学校情報処理競技大会
【日　　時】　令和４年７月３１日（日）
【場　　所】　千葉県　明海大学
【大会概要】
（１）競　　技　　Ⅰ部　関連用語とデータベース（100点）
　　Ⅱ部　表計算とアルゴリズム　（100点）
（２）参 加 者　　団体４６校　個人２３１名
（３）大会成績　　個人の部　ビジネス情報科３年　佐々木 羽 菜　176位／231名

【写　　真】

会場前にて

開会式前の様子

【生徒または引率者の感想等】
　大会の問題は０点、200点を取らせない問題というコンセプトで出題された。授業内容だけで解ける問題もあったが全体的に難易度の高い問題が多かった。
　Ⅱ部のアルゴリズムは全く歯が立たなかったものの、今まで大会に向け取り組んできたことを精一杯出そうと直向きに問題に挑んだ。今回参加して得られたことを今後の人生に生かして欲しいと思う。

商業：大会参加(全国大会：ワープロ)

岩手県立水沢商業高等学校

【大 会 名】　第69回全国高等学校ワープロ競技大会

【日　　時】　令和４年７月２７日（水）

【場　　所】　日本工学院専門学校蒲田キャンパス

【大会概要】　情報処理教育の振興を図る事業の一環として実施する。
（１）競技部門　団体の部出場
（２）参加者数　３名
佐々木 紗 雪(３年) 小 岩 芭 瑠(２年) 小野寺 大 地(３年)
（３）結　　果　団体　２０位　　個人　佳良賞（小野寺 大 地）

【写　　真】

大会前日（練習風景）

閉会式

【生徒または引率者の感想等】
２年続いた名古屋市の競技会場から今年度は東京会場に移り、新たな場所で競技が行われました。コロナウイルス感染者数も増える中、東京までの移動や、会場内での感染予防は常に行い､おかげ様で選手全員体調を崩すことなく全国大会を終えることができました。競技前はパソコンの動作確認、プリンタの印字確認、大会の競技進行手順をイメージするなど、いつも通りの練習を行い、慌てることなく本番を迎えました。
全国大会では、正確賞を狙いたいという生徒の目標があり、大会直前まで誤字・脱字を出さない正確性を重視した練習を繰り返しました。結果は残念ながら3名の選手とも誤字がありましたが、全力で打ち切った結果でしたので後悔はありません。
大会を終えた選手が「あっという間の10分でした。自分より早く入力する人が多く、これが全国大会なんだ」と話していました。選手の感想から他の都道府県の生徒の姿が刺激になったことは言うまでもありません。その場を知る、見る、感じることの大切さを経験できたと思います。
積み重ねてきた以上のことは本番では出ませんので、今大会をきちんと振り返り、生徒と共にさらに成長してゆけるよう、挑戦を続けていきたいと思います。

岩手県立花北青雲高等学校

【大 会 名】　第69回全国高等学校ワープロ競技大会

【日　　時】　令和４年７月２７日（水）

【場　　所】　日本工学院専門学校蒲田キャンパス

【大会概要】　商業に関する知識や技術・技能を高める。
（１）競技部門及びその内容
速度競技（制限時間10分間）
（２）参加者数・氏名
出場校（団体）４７校　　出場選手（団体＋個人）２３５名
花北青雲高校　ビジネス情報科３年　多 田 叶 夢（個人戦出場）
（３）入賞者数・氏名
多 田 叶 夢　第４６位（1,646字）

【写　　真】

【生徒または引率者の感想等】
３人で打ち繋いでいく団体での出場とは違い、個人では打数を伸ばすことが難しくなるため、いかにミスを少なくするかということに力を入れて練習に取り組んで参りました。コロナ禍において大会や練習会が少なく練習不足の部分もありましたが、気持ちを切らすことなく地道に練習を重ねたことで技術を高めることができました。
大会前日での練習では、全国トップレベル選手の技術を目の当たりにして気持ちが落ち込んでしまうこともありましたが、本番では機械トラブルもなく落ち着いて競技に臨むことができました。これらのことが後輩たちの刺激になり、先輩を超えようという目標にもなったようです。全国大会出場にあたり、多くの方々の御支援と御協力を頂いたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

商業：大会参加(全国大会：ワープロ)

岩手県立盛岡商業高等学校

【大 会 名】　第69回全国高等学校ワープロ競技大会

【日　　時】　令和４年７月２７日（水）

【場　　所】　日本工学院専門学校蒲田キャンパス

【大会概要】
（１）競　　技　　速度競技　制限時間１０分
（２）参 加 者　　団体４７校　個人２３５名
（３）大会成績　　個人競技佳良賞　　川 村 政 汰　1,795字（23位/235名）

【写　　真】

【生徒または引率者の感想等】
　昨年度に引き続き個人代表としての出場でしたが、昨年を上回る成績を残したいという強い思いをもって練習に励みました。
　当日は落ち着いて競技することができ、佳良賞に入賞できました。本人も高校最後の大会で力を出し切ることができ満足していました。

岩手県立水沢商業高等学校

【大 会 名】　第69回全国高等学校ビジネス計算競技大会
【日　　時】　令和４年７月２９日（金）
【場　　所】　日本工学院専門学校蒲田キャンパス
【大会概要】
（１）競技の種類
　　団体総合競技（珠算競技・電卓競技）
　　個人総合競技（珠算競技・電卓競技）
　　種目別競技（応用計算・読上暗算・読上算）
（２）内容
　・普通計算
　　制限時間は乗算・除算・見取算合わせて珠算競技１２分、電卓競技６分
　・応用計算
　　文章形式で出題し制限時間は珠算競技・電卓競技ともに１５分
　　売買・損益の計算、単利計算、手形割引の計算、複利計算、複利年金の計算、
　　証券投資の計算、減価償却費の計算　合わせて１５題
　・種目別競技
　　各種目を勝ち残りの方法で行う
（３）参加者数
　・団体代表は珠算と電卓競技で各都道府県１校
　　岩手県は珠算競技が水沢商業高校、電卓競技が盛岡商業高校
　・個人代表は珠算と電卓競技で各都道府県の団体代表校以外の会員校から２名以内
　　岩手県は珠算競技が花北青雲高校２名、電卓競技は宮古商工高校２名
（４）結果

珠算競技	団体総合	７位入賞／４６校		
	個人総合	村 上 瑞 姫	16位／225名	佳良賞入賞
		髙 橋 心 優	30位／225名	佳良賞入賞
種目別	応用計算競技	髙 橋 心 優	佳良賞入賞	

【写　　真】

会場風景

本校の出場選手

【生徒または引率者の感想等】
　会場内での緊張感を和らげるために互いに声を掛けあう場面も見られ、全員で団結して臨んだ全国大会であった。昨年度に続いて団体入賞ができ、３年生は達成感、２年生は自信と充実感を得た様子が見られ、有意義な大会となった。

岩手県立盛岡商業高等学校

【大 会 名】　第69回全国高等学校ビジネス計算競技大会
【日　　時】　令和４年７月２９日（金）
【場　　所】　日本工学院専門学校蒲田キャンパス
【大会概要】
１　競　　技
（１）団体および個人総合競技（普通計算・応用計算）
（２）種目別競技
ア　応用計算競技
イ　読上算競技
２　参 加 者
団体４７校　個人２３４名
３　大会成績

（１）団体総合競技	第14位		
（２）個人総合競技	藤 岡 寛 人（３年）	第　２６　位	（佳良賞）
	熊 原 春 奈（３年）	第　４３　位	
	津 嶋 梨 瑚（２年）	第１０９　位	
（３）種目別競技読上算	熊 原 春 奈（３年）	第　１０　位	（優良賞）
	藤 岡 寛 人（３年）	第　１６　位	（佳良賞）
	津 嶋 梨 瑚（２年）	第　１８　位	（佳良賞）

【写　　真】

【生徒または引率者の感想等】
目標にしていた団体総合競技入賞は果たすことはできませんでしたが、個人総合及び種目別競技において出場者全員が入賞することができ、日頃の努力の成果を発揮することができたと思います。次年度は、今年度達成することができなかった団体での全国大会入賞を目指し、継続して練習に取り組みたいです。全国大会出場を通じて、次年度に向けての課題を見つけることができ、大変貴重な機会となりました。
この度は大会出場に関わる助成をしていただきありがとうございました。

岩手県立宮古商工高等学校

【大 会 名】　第69回全国高等学校ビジネス計算競技大会
【日　　時】　令和４年７月２９日（金）
【場　　所】　日本工学院専門学校蒲田キャンパス
【大会概要】　ビジネス計算の振興を図り、商業教育の発展に寄与するものである。
（１）参加生徒　　総合ビジネス科３年　澤 田 友 羅
　　流通ビジネス科３年　伊 藤 真 央
（２）大会成績（電卓競技）
　◯団体総合競技（４７校）　優　勝　静岡県立　浜松商業高等学校
　　準優勝　広島県　広島翔洋高等学校
　　第３位　香川県立　高松商業高等学校
　◯個人総合競技（２３３名）　優　勝　浜松商業　小 内 仁 瑛
　　準優勝　高松商業　森 明 日 美
　　第３位　鹿児島女子 原ノ園 雛 乃
　◯宮古商工高等学校生徒成績　個人２３３名参加中
　　澤 田 友 羅　１６４位
　　伊 藤 真 央　７５位

【写　　真】

【生徒または引率者の感想等】
　コロナ禍ではありますが、電卓競技の部では各県からの精鋭団体４７校、個人２３３名が出場し、しのぎを削りました。本校生徒２名は県大会入賞後、全国大会に向け厳しい練習に励み全国大会に臨みましたが、全国の壁は厚く入賞は逃しました。部活動と並行しながら選抜として憧れの全国大会に出場したことは貴重な経験となりました。

商業：キャリアアップ(IBCまつり)

岩手県立盛岡商業高等学校

【事 業 名】　ＩＢＣまつり 2022
【日　　時】　令和４年９月１７日(土)から１８日（日）
【場　　所】　ツガワ未来館アピオ（岩手産業文化センター）
【事業概要】
（１）地元地域での販売集実習を行っている盛岡商業高等学校、水沢商業高等学校、宮古商工高等学校の３校の生徒が地元の特産品や加工品、自校で開発した商品の販売を行った。
（２）「マーケティング」や「商品開発」の学習の一環として、販売商品の企画・選定から業者との交渉、仕入れ、販売活動、会計処理に至る一連の業務を体験した。

【写　　真】

開店の挨拶

販売の様子（盛岡商業高校）

販売の様子（水沢商業高校）

販売の様子（宮古商工高校）

【引率者の感想】
新型コロナウイルスの感染拡大の中、事前指導と手指消毒やマスク着用など十分な感染対策を講じながら販売活動を行った。開店当初は緊張感や不慣れな部分があったが、接客を通じて多くの来場者と触れ合うことで生徒の成長が見られ、商業の学びの一端を広く発信することができたと感じた。また、他校からも多くの刺激を受け、お互いにコミュニケーションを図りながら協力して活動する姿が見受けられた。コロナ禍のため３年振りの参加となったが、販売活動における教育効果や有用性を改めて認識する機会となった。
貴振興会からの助成金で保冷車を借用し、各校の品揃を幅広く展開することで充実した販売活動を行うことができた。

商業：キャリアアップ(IBCまつり)

岩手県立水沢商業高等学校

【事 業 名】　ＩＢＣまつり 2022
【日　　時】　令和４年９月１７日(土)から１８日（日）
【場　　所】　岩手産業文化センター　アピオ特設会場
【事業概要】
（１）県内の高校を１グループとしテントを設置。生徒がプロデュースした商品、地元企業の商品・加工食品の販売を行う。
（２）学習の一環として販売商品の企画・選定から業者との交渉・仕入れ、店舗装飾・販売、決算に至る一連の業務全般を行う。
【取扱商品】
（水沢商業高校分）
・江刺りんご　　[ＪＡ江刺　江刺ふるさと市場提供協力商品]
・金札米キューブ　　[ＪＡ江刺　江刺ふるさと市場提供協力商品]
・割って飲むりんご酢　[ＪＡ江刺　江刺ふるさと市場提供協力商品]
【売上金額】
（水沢商業高校分）
２日間合計　95,300円

【写　　真】

－販売実習活動する本校生徒－

【生徒または引率者の感想】
・未経験の生徒たちが、時間の経過とともに成長し、笑顔で明るく積極的にお客様に挨拶ができた。
・ただ、呼び込みをするのではなく、商品の良さを伝え、お客様と会話を楽しむことで、商品の販売につながっていくことを実感できた。
・江刺りんごのブランド力が高く、奥州江刺での売価と盛岡近郊での売価に差があるようで、「こんなに安いのか」「本物か」と問われることもあり、値付けの難しさや、リサーチの大切さを学んだ。
・１日目と２日目で商品陳列方法を変え、陳列による売上の変化を実感できた。
・販売スペースを有効活用し、工夫して販売できた。
・他店舗の販売の様子が大変参考になり、刺激を受けた。後輩に伝えたい。

商業：キャリアアップ(IBCまつり)

岩手県立宮古商工高等学校

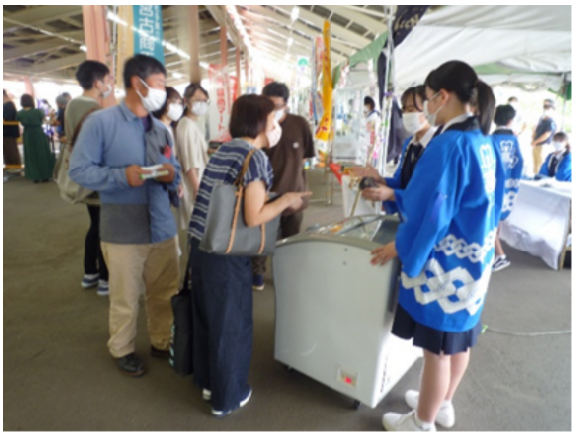
【事 業 名】　ＩＢＣまつり 2022 in アピオ
【日　　時】　令和４年９月１７日(土)から１８日（日）
【場　　所】　ツガワ未来館　岩手産業文化センターアピオ特設会場
【事業概要】　高校生が出店するブースをメインステージ付近に「岩手の担い手マーケット」という特設コーナーを設けて実施した。

（１）「岩手の担い手マーケット」出店校
岩手県立盛岡商業高等学校、岩手県立水沢商業高等学校、
岩手県立宮古商工高等学校、岩手県立盛岡農業高等学校

（２）各校の生徒がそれぞれ趣向を凝らして仕入れた商品の販売を行った。

【写　　真】

商品陳列のアドバイス



お客様への商品説明

【参加生徒の感想】

・今回のＩＢＣまつりの販売実習に参加して、たくさんの経験をしました。お客様が商品に興味が湧くようにどのような接客をすれば良いか、私たちの対応がとても大切になってくると思いました。大変だったのは一日中ずっと立っていることでした。じっとしているのが難しく足も腰も痛くなりました。接客業をしている人は毎日すごいと思いました。私が対応したお客様が商品を買ってくれた時は嬉しかったです。自分の中で苦手意識があった接客という仕事がＩＢＣまつりを通してやりがいのある仕事というイメージに変わりました。

・ＩＢＣまつりの販売実習を通して学んだことは、私自身がお客様の立場になって販売することです。もし、自分がお店に入って店員さんにグイグイ話しかけられたら、少し苦手意識を持つと思います。これと同じように、お客様に圧力をかけすぎないこと、程よい距離感と押しのバランスの必要性を学びました。

・ＩＢＣまつりの販売実習を通して、声をかけることの大切さ、商品知識、ずっと立ち続けていることの辛さ、商品を買っていただいたときのうれしさ、どれも心に残る素晴らしい体験でした。商品を買っていただいたお客様より「頑張れ！」と声をかけていただき、頑張ろうという気持ちになりました。１日目に売れなかった商品を２日目では工夫して並べ、たくさん薦めて完売できたことは心の底から嬉しかったです。ＩＢＣまつりで学んだことを宮商デパートに活かして、完売を目指して頑張ろうと思いました。
・ＩＢＣまつりの販売実習を通して、宮古の良さを知ってもらい興味を引くような商品の選定、商品の陳列、レイアウト、接客の仕方が重要であることを学んだ。１日目は緊張してうまく接客ができなかったが、２日目はどのようにしたらお客様に興味を持って買ってもらえるか、友達と試行錯誤しながら接客をし、ほぼ完売させることができた。８時間立って接客するのが辛かったが、お客様に商品を買っていただいた時は、足の痛みを忘れるほど嬉しかった。１０月の宮商デパートでこの体験を活かして頑張りたい。
・ＩＢＣまつりの販売実習を通して学んだことは、販売の難しさと商品説明する難しさです。特に「オブスタクラウン」の説明の時はどのようにしてお客様の目にとめてもらい、買いたいという気持ちを起こさせることが難儀だった。しかし、商品を買っていただいた時は嬉しかったし、完売したときはより嬉しかった。この２日で経験したことを将来就職したときに役立てたいと思いました。
・ＩＢＣまつりでは、接客、商品のレイアウトなどを学びました。お客様一人ひとりに商品説明を行ったり、質問に答えることが難しかったです。１日目は緊張して上手く対応することができませんでしたが、２日目は慣れてきて接客が上達した。売上目標も達成したと感じました。この経験を活かして宮商デパートでも良い接客を心がけて頑張りたいです。

【引率者の感想】

ＩＢＣまつり「岩手の担い手マーケット」に参加するにあたり、地元企業の経営者から宮古の魅力について学び､多くのお客様に宮古の魅力を伝える商品選定を生徒自らが行う。当日は、しあわせ乳業佐藤様より商品陳列、飾り付け指導を通じて、プロの技を実感。生徒一人ひとりが行動を考えて、臨機応変にお客様と接する姿が見られた。また、商品販売や陳列の工夫により商品が完売したことで達成感・充実感を得た。

ＩＢＣまつりでの経験を活かして、宮商デパートでは商品説明や接客向上に心がけ商品完売を目指し、他の生徒にも刺激を与えることができた。また、地元への愛着と将来の職業選択の参考になりました。

商業：キャリアアップ(講演会：ビジネスプラン)

岩手県立花北青雲高等学校

【事 業 名】　ビジネスアイディア創出のための講演会（マーケティング分野）

【日　　時】　令和４年７月８日（金）

【場　　所】　花北青雲高等学校　多目的教室

【事業概要】　仕事（ビジネス）にも自身の生活にも様々なところにビジネスアイディアのヒントがあることを理解し、ビジネスプランの作成につなげる。

（１）講演会の内容

題名　「生徒諸君に寄せる」

講師　FM花巻パーソナリティ　通訳案内士

英語&国際人教室OAKLEAF代表　柏 葉 公 平　氏

（２）参加者　３年ビジネス情報科　８０名

【写　　真】

【生徒または引率者の感想】

英語＆国際人教室OAKLEAF代表の柏葉公平様より「生徒諸君に寄せる」と題して講演をいただき、「どんなことにも疑問を持ち、自分で考え、言葉にする」、「目的と理由を失わないこと」の大切さを学びました。また、海外生活の経験も踏まえ、マーケティングおよびビジネスプランを考える上での多くのヒントを投げかけてくれました。生徒たちからは多くの質問や意見が出され、有意義な機会となりました。

岩手県立水沢商業高等学校

【大 会 名】　第26回東北六県高等学校生徒商業研究発表大会
【日　　時】　令和４年８月２６日（土）から２７日（日）
【場　　所】　胆沢文化創造センター
【大会概要】　商業を学ぶ生徒が商業に関する課題を設定し、その解決を図る一連の研究活動のなかで、生徒の問題解決能力や創造的学習態度を育てるとともに、その成果を発表する機会を通して生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成する。

（１）出場校(各県代表２校)

【青森】青森県立青森商業高等学校　６名、青森県立三沢商業高等学校　10名
【岩手】岩手県立水沢商業高等学校　４名、岩手県立宮古商工高等学校　６名
【宮城】仙台市立仙台商業高等学校　10名、宮城県一迫商業高等学校　10名
【秋田】秋田県立矢島高等学校　５名、秋田県立湯沢翔北高等学校　８名
【山形】山形市立商業高等学校　10名、山形県立米沢商業高等学校　10名
【福島】福島県立喜多方桐桜高等学校　10名、福島県立福島商業高等学校　４名
計12校　生徒93名

（２）入賞校

第１位　岩手県立水沢商業高等学校
第２位　山形市立商業高等学校
第３位　仙台市立仙台商業高等学校
上位２校が全国大会出場

【写　　真】

発表風景１

発表風景２

【大会を振り返って】

昨年度に続き、今年度も新型コロナウィルス感染防止対策を施す中での大会運営を求められたため、閉会式は中止とし、大会成績は後日メールで各校へ報告しました。そのため発表会場での表彰ができず、入賞した生徒にはやや残念なところもありましたが、会場には人数を限定して参加校の関係者の観覧を認めたりするなど、生徒の頑張ってきた内容を一人でも多くの方に見て頂くことができたことは、本年度の成果だと感じています。

水産：大会参加(東北大会：生徒研究発表大会)

岩手県立高田高等学校

【大 会 名】　31回全国水産・海洋高等学校生徒研究発表会東北地区大会

【日　　時】　令和４年１０月２７日（木）から２８日（金）

【場　　所】　山形県立加茂水産高等学校

【大会概要】　東北地区水産系高校による生徒研究発表大会
（１）参加校　９校
　　青森県1校、岩手県3校、秋田県1校、宮城県2校、山形県1校、福島県1校
（２）参加者
　　海洋システム科３年　大和田 小 夏・大 内 拓 夢
（３）成績結果
　　奨励賞

【写　　真】

【生徒または引率者の感想等】
　ここ数年は、コロナウイルス感染症対策によりDVDによるビデオ審査でしたが、久々の参集型の発表会となり、生徒も緊張していたようです。慣れない人前での発表でしたが、発表直前まで練習を重ね、立派に発表を終えることができました。
　今回の発表は食品科学コース4名が科目「課題研究」において1年間かけて、子供の魚離れを止めるための食品開発についてです。本校の施設で製造できるかまぼこに、地域の特産品を加え、「見て楽しい、食べておいしい」水産加工食品の開発を目指し研究を進めてきました。アンケート調査や学校給食センターへの聞き取りを行い、試作品を作成することができました。将来的には学校給食で扱ってもらえる食品の開発を目指しています。
　今後も地域産業の発展に貢献できる研究を続けていきたいと思います。

家庭：キャリアアップ(体験教室：一般紫根染)

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】　「紫根染（絞り模様入り）の体験教室」

【日　　時】　令和４年１２月１４日（水）

【場　　所】　平舘高等学校　調理実習室

【事業概要】　八幡平市民対象の紫根染体験教室

（１）参加者

八幡平市民　１０名

本校生徒　　１２名

（２）日程

１３：３０～１３：５０　　紫根染に関する説明、研究内容の紹介
（歴史や紫根の活用方法、染め方など）

１３：５０～１５：３０　　絞り模様、媒染作業、紫根染、後媒染、仕上げ

【写　　真】

絞り模様を施す

媒染作業

「紫紺染について」宮沢賢治の読み聞かせ

自分の作品を持って

家庭：キャリアアップ(体験教室：一般紫根染)

【本校生徒の感想】
・受講生の方から、絹だけでなく、綿なども染められたらいいのでは、という声があったので、試してみてもいいのではないかと思いました。(高校２年女子)
・体験教室では、多くの方が何年も参加して下さっていることを聞いて、今まで行っていない絞り模様に挑戦してみようと思っていただけたり、染まり具合を楽しんで取り組んでいる様子が見られました。(高校２年女子)

【参加者の感想】
・とてもステキに出来上がり、80歳の人生の宝物です。(八幡平市　女性)
・生徒さんのご指導のもと楽しく体験させていただきました。(八幡平市　女性)
・親切に教えていただき作品ができ楽しかった。また来たいです。(八幡平市　女性)
・紫根染のことをもっと詳しく知りたいと思いました。(八幡平市　女性)
・読み聞かせは、もう少し練習したらもっと良くなると思います。(八幡平市　女性)

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】　家政科学科調理技術講習会１

【日　　時】　令和４年６月２０日（月）

【場　　所】　平舘高等学校　調理実習室

【事業概要】　家庭科食物調理技術検定に向けて、地元のホテルで活躍している総料理長を講師に迎え、調理の基礎・心得・調理技術を学習し、習得する機会とする。

（１）参加人数

家政科学科２年　１３名参加

（２）講師

いこいの村岩手支配人待遇総料理長　藤 村 裕 士　氏

【写　　真】

【生徒の感想】

・さいの目切りにする理由が見た目がきれいなためだけでなく、口あたりをよくしたり、加熱時間をそろえたりするためもあることがわかったので、切り方を考えてうまく切れるように練習したいです。

・調味料を入れる順番に科学的な意味があることを知り、日頃の調理でも、そのことを考えながら取り組みたいと思います。出汁の取り方を教わり、すべての基礎だとおっしゃっていたので、おいしい出汁がとれるようになりたいです。

・魚の扱い方を教わりました。下処理の方法であったり、切り方、焼き方で、おいしさに大きな差が出ることがわかりました。藤村先生から教えていただいたように、ふっくらと焼けるようになりたいです。今度は、魚のおろし方も教えていただきたいです。

家庭：キャリアアップ(実技講習会：調理技術)

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】　家政科学科調理技術講習会２

【日　　時】　令和４年１０月２１日（金）

【場　　所】　平舘高等学校　調理実習室

【事業概要】　家庭科食物調理技術検定に向けて、地元のホテルで活躍している総料理長を講師に迎え、調理の基礎・心得・調理技術を学習し、習得する機会とする。

（１）参加人数

家政科学科３年　８名参加

（２）講師

いこいの村岩手支配人待遇総料理長　藤 村 裕 士　氏

【写　　真】

【生徒の感想】

・かつらむきを練習していましたが、なかなかコツがつかめず長さが伸びずに苦労していました。藤村先生にご指導いただき、長くできるようになりました。検定当日、緊張しましたが、気持ちを安定させて取り組むことができました。ありがとうございました。

・私は、包丁の使い方がうまくいかず、かつらむきの練習を繰り返しました。藤村先生からご指導いただいた後も、検定当日まで練習を何度も何度も行いました。自分の納得の行くまで練習できたことで、検定に平常心で臨むことができました。練習中は、先生のアドバイスを思い出して取り組みました。

・藤村先生には三年間ご指導いただき、料理の技術はもちろんですが、働く上での心構えや、「料理って楽しい」「誰かにおいしいと言ってもらえる幸せ」など、大切なことを学ぶことができました。先生に教わると、できるような感じがするのが不思議でした。毎回、笑顔で教えていただきありがとうございます。

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】　家政科学科調理技術講習会３

【日　　時】　令和４年１１月１６日（水）

【場　　所】　平舘高等学校　調理実習室

【事業概要】　家庭科食物調理技術検定に向けて、地元のホテルで活躍している総料理長を講師に迎え、調理の基礎・心得・調理技術を学習し、習得する機会とする。

（１）参加人数

家政科学科２年　６名参加

（２）講師

いこいの村岩手支配人待遇総料理長　藤 村 裕 士　氏

【写　　真】

【生徒の感想】

・調理技術講習会では、お弁当の作り方をご指導いただきました。煮物の作り方を教わり、切り方や、下ゆでの方法など丁寧に行うことで料理のできあがりが変わってくるので、しっかりと行いたいと思いました。
・藤村先生の調理する姿を目の前で見させていただき、包丁さばきの美しさに感動しました。人参の料理ごとの使い分けをご指導いただき、料理にあわせた切り方があることを学びました。
・お弁当箱を開けた時に「おいしそう」「食べたい」と思ってもらうことが、何より大切だと思うと藤村先生がおっしゃっていてたので、全体の彩りや、盛り付け方にも気を配って作り上げたいです。
・食べる人に楽しんでもらえるような料理をつくることを目標にしたいですが、今はできる限り丁寧に作ることを心掛けて取り組みたいです。

家庭：キャリアアップ(実技講習会：そば打ち)

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】　家政科学科「そば打ち」伝承学習
【日　　時】　令和５年２月６日（月）
【場　　所】　平舘高等学校　調理実習室
【事業概要】　日本の伝統料理であり、地域の郷土食でもある「そば打ち」を体験的に学習し、地域の観光資源や郷土の文化伝承について考え、日本の伝統文化の理解を深める。また、培った技術を次の世代へ伝える意義を理解する機会とする。

（１）参加者
　　家政科学科２年　１２名
（２）講師
　　八幡平市食生活改善推進連絡協議会　中軽米こう子 氏

【写　　真】

【生徒の感想】
・小学生以来のそば打ちでした。久々に打ってみてやはり難しかったです。そばは、乾燥が苦手ということで、時間との勝負だということがよくわかりました。少しの水加減で、のばしにくかったり、くっつきやすくなってしまったり、繊細なのですが、先生に丁寧に見ていただいてうまく行うことができました。そばを上手に切ることができてうれしかったです。
・そば打ちは初めてでしたので、うまく行かないところもありましたが、先生にその都度教えていただきながら進め、スムーズに作業することができました。次は、自分たちでできるように、練習を重ねたいと思います。
・初めてのそば打ちで、道具も初めて使うものばかりで戸惑いましたが、先生に教えていただき、太めではありますが、おいしいそばができました。「そば粉は生きている」という先生のお話を初めは理解できなかったのですが、作業が時間との勝負だったり、自分たちの加減でこしが変わってきたり、丁寧に作ればそのとおりに完成するので、少しずつ意味がわかってきました。
・先生に郷土の食文化の大切さを伺い、地元の食材を大切にし、手作りの良さを受け継いで行きたいと思います。先生が作ってくださったそば粉でそば打ちをし、八幡平の食文化を学ぶことができ、貴重な体験でした。

岩手県立平舘高等学校

【事 業 名】　「生活産業基礎」職場見学及び実習
【日　　時】　令和５年２月２日（金）
【場　　所】　ＡＮＡクラウンプラザリゾート安比
【事業概要】　地域の宿泊施設を見学し、実習等を通じて将来の職業選択の参考とする。
（１）参加生徒
　　家政科学科１年　１２名
（２）見学及び体験実習の内容
・館内及び館外の見学
・接遇について
・フロント業務実践及びバンケットセッティング実習

【写　　真】

お辞儀の練習

バンケットセッティング実習

【生徒の感想】
・私は、マナーアップ講座で５つの基本の「挨拶、表情、態度、身だしなみ、言葉づかい」や３つのこころ「相手を尊敬する、相手に配慮する、相手に感謝する」ことを学びました。人は最初の３秒間で印象が決まると教わり、３秒間で５つの基本である挨拶、表情、態度、身だしなみ、言葉づかいをしっかりおこなわなければなりません。私は、まだ５つの基本が不十分なのでこれからの学校生活で身につけたいです。また、３つのこころである相手を尊敬する、相手に配慮する、相手に感謝することも身につけ３年生の就職活動や就職したときに生かしていきたいです。
・接遇についての講話では、人の第一印象は３秒で決まることに驚き、身だしなみには気をつけなければいけないと思いました。ほかにもお辞儀の仕方やクッション言葉の大切さを知ることができました。テーブルマナー体験では、フォーク・ナイフの置き方は、食事中と食後で置き方がありそれぞれ決まっていることを知りました。バンケットセッティング体験では、実際にお皿やお水の持ち方を体験してみてバランスをとるのがとても苦労し難しかったです。一度に多くのお皿やお水を運ぶのは、とても大変で腕の力が必要な仕事だと思いました。
・今回の実習で印象に残ったことは、礼儀正しい挨拶の仕方と客室の設備の充実さです。挨拶は、声を大きくして頭を下げるだけだと思っていましたが、手の正しい構え方やお辞儀の角度などを知り、自分たちはまだ不十分な挨拶ではありましたが、社会人になった時に自分自身の印象にも関わってくるのでとても勉強になりました。

家庭：大会参加(全国大会：家庭クラブ研究大会)

岩手県立平舘高等学校

【大 会 名】　第70回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会
【日　　時】　令和４年７月２８日（木）から２９日（金）
【場　　所】　山形県山形市　山形テルサ
【大会概要】　全国高等学校家庭クラブ員の日頃の研究活動の発表と、全国連盟の総会を行い、広く全国につながる連帯感のもとに会員相互の研修を深め家庭生活並びに地域社会の向上発展に資する。

（１）参加部門
　学校家庭クラブ活動の部に東北ブロック代表として出場
（２）参加者数
　８００名（各ブロック代表７校が発表）
（３）参加生徒
　家政科学科３年　工 藤 永美華（発表）
　　熊 谷 百々花（パソコン操作１）
　　櫻　　結　槻（パソコン操作２）
　　佐々木 真 名（展示発表）
　家政科学科２年　佐々木 心 優（展示発表）
（４）大会結果
　全国高等学校長協会家庭部会賞
　全国高等学校家庭クラブ連盟賞

【写　　真】

本校生徒の発表

本校の展示発表

【生徒の感想等】
・今まで研究してきたことを発表できたのはとても良い経験験となりました。先輩方から引き継いだものを今回このような形で発表できたことは、私たちの力だけでなく、地域の皆さんや全校生徒の皆さんの協力や応援があったからこそできたと思います。（３年）
・今までオンライン開催で対面での大会は不安や緊張も大きかったのですが、研究発表大会というものが沢山の大人、開催地の高校生などの協力、努力によって成り立っているのだということを実感できたことは意味のあることでした。（３年）
・それぞれの学校の発表を聞いて、自分たちが今できることを課題としていて、地域とのつながりを大切に活動していることがわかりました。他県の学校がどのような活動をしているのかスライドに分かりやすくまとめているのが良いと思いました。（３年）

総合：キャリアアップ(講演会：その１)

岩手県立紫波総合高等学校

【事 業 名】　「産業社会と人間」特別講演会
【日　　時】　令和４年１２月２２日（木）
【場　　所】　紫波総合高等学校　大講堂
【事業内容】
（１）講師　　瀬 川 正 子 氏（紫波新聞編集委員　NPO 法人ポラーノの広場代表理事）
（２）対象　　第１学年生徒　74名
（３）目的　　紫波新聞のあらましや情報を発信するときの心得、また紫波町の魅力について伺い、地域で学ぶ高校生として今後のどのような考えを持ち活動していくことが大事か、生徒一人ひとりが考える機会とする。
【写　　真】

【本校生徒の感想】
○私はあまり紫波のことを知らなかったが、歴史の話が興味深かった。青森の方から南部氏が攻めてきて、地形の問題で城を盛岡に移転し、寺やお店まで移転させたことを知った。紫波だけでなく日本の歴史にもふれている気がして、もっと知りたくなった。
○全国版の新聞は、文字だらけで規模が大きすぎて、どうしても他人事のように思ってしまう。だが、カラープリントで自分が住んでいる地域のことを詳しく載せてくれると、自主的に地域に貢献したいという気持ちになる。紫波もちもち牛やしわ黒豚、浅沼養鶏場の卵など美味しそうな食材を知った。４年後、ワインや日本酒を飲んでみたい。
○「みんなが幸せを感じ、心豊かに前向きに生きられる環境を願って」という意味で、紫波新聞を配布していると聞いて、とても素敵だと思った。今後の生活では、瀬川さんの姿勢をお手本としたい。
○紫波新聞は、地域づくりに貢献していた。地域の課題を解決しようと、社員はおらず、やりたい人で「情報を知ってもらいたい、届けたい」という想いで作られていると聞いて、とても興味が湧きました。正確な情報を伝えるのはもちろんのこと、内容をバランスよく、興味を持ってもらえるように発信する考え方は、自分の生活にも役立つと思いました。
○紫波新聞の存在を初めて知ったが、見やすくて素敵な新聞だと思った。全面カラーで、写真やイラストで見やすく、漫画や童話で読みやすくするという工夫を聞いて、それが要因だと分かった。地域の人たちで協力し、よりよい地域づくりを目指していることがわかり、自分も何かできることで、紫波町に貢献したいと思った。

総合：キャリアアップ(講演会：その２)

岩手県立紫波総合高等学校

【事 業 名】　「総合的な探究の時間」社会人講師講演会
【日　　時】　令和５年１月31日（火）
【場　　所】　紫波総合高等学校　大講堂
【事業内容】
（１）講師
　　天 野 咲 耶 氏（作家、紫波町地域おこし協力隊）
（２）目的
　紫波地域に移住し、地域おこし協力隊として活躍されている方から昨年度の講演を踏まえながら、地域のさまざまなことがらを探究する手法についての話を聞き、次年度の総合的な探究の時間で取り組む「紫波希望ヶ丘学」を進めるうえでの参考にする。

【写　　真】

講演会の様子

質問する生徒

【本校生徒の感想】
○天野さんのように、旅行した場所での出会いや人々との交流以外にも、芸術作品でも感じることはたくさんあると思います。そこで、探究のテーマやアイディアを考えることに行き詰ったときには、町内を散歩したり、どこか遠くへ旅行したりしてリフレッシュをすることが大切だと感じます。テーマを早く決めて３年次で困ることのないようにがんばりたいです。（２Ａ男子）
○紫波町のことを知り、町おこしの内容も知ることができた。自分の想いの部分を大事にして伝えることの難しさを改めて感じた。今回の講演で自分についてもっと知らなければいけないと痛感した。伝えることが苦手だけど、がんばっていきたい。（２Ｂ女子）
○今日の講演会で次年度の卒業研究について考えてみて、講演を聞く前まではネットに書いていることを少しだけ変えて書けばいいと思っていたが、天野さんの話を聞いて「自分がどう感じているか」を大事にすることを知りました。３年生になってからの卒業研究では、自分が「得意な」「好きな」方法で表現して伝えることを重点としてすすめていきたいと思いました。まずは、自分が何を好きかを考えることから始めたいです。（２Ｃ女子）

総合：キャリアアップ(講演会：その２)

○今日この講演を聞いて新しいヒントを得ることができました。私は福祉について考えていこうと思っており、バリアフリーやみんなが過ごしやすいような地域づくりについて研究していきたいです。紫波町についてあまり興味を持ったことはありませんでしたが、お酒や地域の人との関わりなどたくさんのことを知ることができました。消しゴムはんこなどのものづくりなどみんなが興味を持つことについて研究することもいいとわかりました。紫波町図書館の司書さんに話を聞くなどしてたくさんアイディアが見つかればいいと思います。（２Ｄ女子）

総合：キャリアアップ(体験実習：マーケット)

岩手県立久慈東高等学校

【事 業 名】　情報ビジネス系列２・３年　東高祭マーケット
【日　　時】　令和４年１０月２２日（土）から２３日（日）
【場　　所】　久慈東高等学校　第一体育館・マーケティングルーム・簿記実習室
【事業内容】　企画運営・仕入活動・販売活動・会計報告などを行い、販売実習を通して責任感・協調性・接客マナー・礼儀など社会人としての基本を身に着けさせる。

（１）日程・内容
久慈東マーケット：本校第一体育館等（本校文化祭「東高祭」における出店）
令和４年１０月２２日（土）　１０：００～１４：００
令和４年１０月２３日（日）　１０：００～１４：００

（２）参加者数

情報ビジネス系列	３年	経営情報科目群	２５名	４店舗
		簿記会計科目群	１１名	２店舗
		流通ビジネス科目群	３２名	６店舗
	２年	経営情報科目群	２２名	４店舗
		簿記会計科目群	１０名	２店舗
		流通ビジネス科目群	１９名	３店舗

（３）参加者の様子
・多くの来場者が訪れ、緊張した面持ちで接客を行っていました。お客様からは、「また来年も来たい」「この商品を来年も売ってちょうだいね」など、今回だけではなく、来年にも期待を寄せる声が多くありました。
・商品選択から仕入交渉まで、全てが初めての体験に、生徒たちも不安な様子でしたが、積み重ねられていく貴重な体験は生徒一人一人に自信を与え、これからの将来設計に向けて大きな財産となりました。

【写　　真】

【生徒または担当者の感想】
・今回、仕入れさせていただいた商品は、お客様にも好評で無事に終了でき、とても有意義な文化祭となりました。取引先の商品を扱わせていただくことで、商品ブランドを背負うことや商品ＰＲ、商品管理などその責任の重さを改めて感じました。そのような中、実習していくことはとても緊張感がありましたが、どのように陳列すればお客様の手に取ってもらえるかなど、店舗内で何度も相談しながらの準備作業はとても貴重な体験になりました。
・今回の販売実習から学んだことを今後に生かすと共に、後輩たちにしっかりと伝え、より良い販売実習ができるようにしていくことが私たちの役割であり、それが東高マーケットの発展につながると感じています。今回の経験を今後の学習活動・進路活動に活かしていきたいです。

総合：キャリアアップ(実技講習会：西洋料理)

岩手県立久慈東高等学校

【事 業 名】　食物系列３年　西洋料理実技講習会
【日　　時】　令和４年６月１日（水）
【場　　所】　久慈東高等学校　専門調理室
【事業内容】　地域の食材を生かした西洋料理を展開し、地方の活性化に貢献されているシェフの生き方や料理の感性を身近に触れ、技術向上と自身の将来の展望を探る。
（１）講習会日程・内容
　　１０：００～　　講師紹介、講話及びデモンストレーション
　　講師：伊 藤 勝 康 氏（ロレオール田野畑オーナーシェフ）
　　１１：００～　　実習、試食
　　１２：３０
（２）参加者数
　　総合学科食物系列３年　２３名
【写　　真】

【生徒または担当者の感想】
　実技講習会の冒頭に伊藤シェフは優しい口調で「料理は楽しくおいしく作ることが１番大切。食材をよく見て確かめながら工夫することが必要。生まれ育った地域を誇りに思い、地元のいい食材を使うことで体にもよい、作っている人の生業も成り立つ。」と生徒へ語り掛け、緊張気味の生徒達を一気に引き込まれるのが分かった。生産者さんとの交流を大事にし、地域の食材を大切にしている伊藤シェフから、塩と胡椒のみで食材のうま味を引き出す調理のコツも教えを頂いた。コツをおさえたうえで、一工夫するだけで味も見た目も格段に増すことや、普段使用できない南部鉄器を使用した地元食材満載の調理に、生徒は刺激を受けた様子だった。
　今回の講習会で、偉大なシェフの指導を、感動しながら楽しみながら講習を受ける生徒達は、教科書では学ぶ事のできない調理師としての奥深さを改めて知り、貴重な体験をする事が出来た。

総合：キャリアアップ(講習会：フラワー)

岩手県立北上翔南高等学校

【事 業 名】　フラワーアレンジメント実技講習会
【日　　時】　令和４年７月１４日（木）
【場　　所】　北上翔南高等学校　視聴覚室
【事業内容】　学校設定科目「生活教養」を選択している生徒を対象に、フラワーアレンジメントの基礎基本を習得させる。

（１）実技講習会の内容

外部講師の指導を受け、オールラウンドというアレンジメントの基礎基本の講義・作品製作に取り組みました。同じ花器、花材、資材を用いているが、個性あふれる作品となり、校舎内や家庭生活を豊かにすることに役立てられました。

（２）対象生徒数

総合学科環境系列・人文系列３年　３２名

【写　　真】

【生徒の感想等】

本物の花材を用いてフラワーアレンジメントを製作してみて、ドーム型に花を生けるのが難しかったです。茎を折ってしまうことがあったが、見栄えや配置を考えて製作することができました。吸水スポンジが隠れるように、葉や花のつぼみを余すことなく使って完成させることができました。自宅に持ち帰り、リビングに飾りました。家族からは「上手にできているね。」と好評でした。

製作したフラワーアレンジメントは、各家庭の他、進路指導室にも飾り、来校者にも見てもらうことができました。今後も花の社会性を意識して活動を継続させていきたいです。

総合：キャリアアップ(講習会：ラッピング)

岩手県立北上翔南高等学校

【事 業 名】　ラッピング講習会
【日　　時】　令和５年１月１９日（木）
【場　　所】　北上翔南高等学校　視聴覚室
【事業内容】　学校設定科目「生活教養」を選択している生徒を対象に、ラッピングの基礎的基本的な技能を習得させる。

（１）実技講習会の内容

(株)川徳様より講師を招聘して、包装の意味を学び、「回転式（デパート包み)」という方法のラッピングを練習しました。難しいが、丈夫に包むことのできる回転式の方法で、心を込めて、家族へ贈るボックスティッシュカバーを丁寧に包装していました。さらに、高校卒業を前に家族への思いをのし紙の表書きに表していました。この講習会を通して、「感謝の気持ち」を形に表す学びのまとめとすることができました。

（２）対象生徒数

総合学科環境系列・人文系列３年　３２名

【写　　真】

総合：キャリアアップ(講習会：ラッピング)

【生徒の感想等】

・普段、ラッピングの機会がないので、講習会を通して贈り物を正しく綺麗にラッピングする方法を学ぶことができ、とても貴重な体験になりました。家族からは「綺麗に包めているね。」、母は「私もやってみたい。」と言っていました。

・普段、店員さんが手際よく包んでいるのを見ていて簡単そうだと思っていましたが、初めて体験して、とても難しいと実感しました。貴重な体験ができて良かったです。家族からは、「ラッピングの授業もあるんだね。良い体験になり、将来に生かすことができるといいね。」と言われました。

総合：キャリアアップ(講習会：フランス)

岩手県立北上翔南高等学校

【事 業 名】　フランス料理講習会
【日　　時】　令和５年１月３０日（月）
【場　　所】　北上翔南高等学校　調理室
【事業内容】　「フードデザイン」を選択している生徒を対象に、フランス料理の献立構成や調理の基礎基本を習得させる。
（１）実技講習会の内容
　　ザ・ジャポナイズリサージュ様から講師を招聘し、フォカッチャ、鶏肉のフリカッセ、地元季節野菜のサラダの３品を調理しました。
（２）参加者数
　　総合学科環境系列２年　１２名

【写　　真】

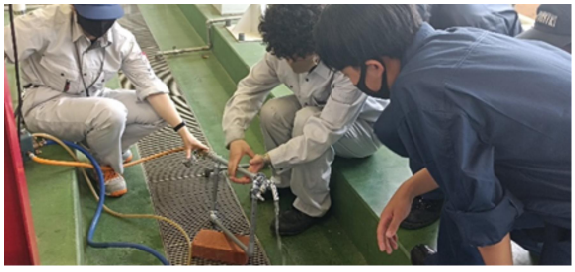
【生徒の感想等】
・先生の作った料理はとてもきれいで美味しそうでした。見た目がきれいだと、その料理を食べたいと思うし、食べる前から食事を楽しめると感じました。
・普段使うことのないローズマリーや初めて見るカラー大根など、いろいろな食材を使って料理をすることができ、いい経験ができました。
・鶏肉のゆで汁をソースに使ったり、人参の皮を揚げてトッピングしたり、食材を無駄なく使うことが勉強になりました。

総合：キャリアアップ(講習会：産技短交流)

岩手県立岩谷堂高等学校

【事 業 名】　産業技術短期大学校水沢校との交流学習
【日　　時】　令和４年７月２５（月）～２６日（火）
【場　　所】　岩手県立産業技術短期大学校水沢校
【事業内容】
（１）講習の内容
　産業技術短期大学校水沢校に出向いて本校2年次の産業工学科の生徒が本校で学べない実習を学ぶ。実習内容は、学生にも補助してもらいながら三次元測定器（東京精密 DuraMax)の取り扱い実習、ノギス、マイクロメータの取り扱いＮＣコードによる加工、引っ張り試験実習、配管課題演習などを中心に指導していただく。
（２）参加者
　総合学科産業工学系列２年　１３名

【写真】



講習の様子①　　講習の様子②
講習の様子③　　講習の様子④

【引率者感想】
　7月25日、26日の２日間をかけて産業技術短期大学校水沢校にて、本校の産業工学系列の2年生１１名の生徒が交流学習を行いました。初日は生産技術科の三次元測定機やマイクロメータの取り扱いや加工を行い、2日目は建築設備科の技能検定建築配管の課題を教わりました。
　産技短の学生が生徒一人一人について丁寧に教えてもらいながらの実習だったため、生徒にとって分かりやすく順調に作業が進みました。特にも配管の作業は生徒も初めての実習で、失敗もしていたが学生に補助してもらいどうにか完成した生徒もいました。
　今回の交流学習は、校内では実施できない実習や工作機械に生徒が直接触れることができ多くの知識を習得でき、これからの進路選択の上で収穫となる交流学習となりました。

総合：キャリアアップ(出前授業：江刺一中)

岩手県立岩谷堂高等学校

【事 業 名】　奥州市立江刺第一中学校との交流学習
【日　　時】　令和４年４月～１０月
【場　　所】　岩谷堂高等学校　実習田
【事業内容】　岩谷堂高校の水田を活用し、江刺第一中学校の３年生とイネの栽培をとおして高校と中学生の交流学習を行い、達成感や有用感を育むことを目的として実施します。

（１）イネの栽培
（２）参加者
　ア　総合学科生物生産系列３年　　２０名
　イ　奥州市立江刺第一中学校３年生　２３５名
（３）内容
　ア　田植え
　　５月の田植えでは本校生徒は苗の植え方について中学生に技術指導し、中学生はその後、一人ずつ苗を植え付ける体験をしました。
　イ　稲刈り
　　１０月の稲刈りでは本校生徒は稲刈り鎌の使い方や稲刈りの方法について中学生に技術指導し、中学生はその後一人ずつ稲刈りを体験しました。

【写　　真】

田植え説明

田植え体験

クラスごと集合

稲刈り説明

稲刈り

くいがけ

【生徒または担当者の感想】
　令和元年度より今回で４年目の交流学習を実施しました。地域の特産でもある「ひとめぼれ」を江刺金札米の製法で栽培していることを知り、地元に根差した教育活動の位置づけとして実施しています。中学校の教科「技術・家庭」技術分野における「生物育成に関する技術」の単元で、イネの栽培について体験をとおして学習を深めることを目的としました。本校生徒は学んだことを活かし、中学生にわかりやすく伝える方法について考え実践することで、自分の学習について達成感や有用感を育むことができました。

総合：大会参加(全国大会：さんフェア2022研究発表)

岩手県立久慈東高等学校

【大 会 名】　第32回全国産業教育フェア青森大会　さんフェア青森2022
作品・研究発表（介護部門）
【日　　時】　令和４年１０月１５日（土）～１０月１６日（日）
【場　　所】　青森県総合運動公園マエダアリーナ
【大会概要】　全国の専門高校等で学ぶ高校生が、学習や実験・実習等で製作した作品、研究の成果等について発表する。

（１）参加者数
総合学科介護福祉系列３年　３名

（２）参加者の様子
講評では、高校生らしい視点であったこと、地域や国との連携について評価をいただいた。他の高校では、古民家を活用した取り組み、大学と連携し環境に適した食物についてなど１年の取り組みではなく、継続した取り組みの内容のものが多くあった。今後は、継続した取り組みとなるように系列としても引き続き研究について取り組ませたい。

【写　　真】

【生徒または担当者の感想】

○原稿からパワーポイントの作成、そして練習する時間があまり取れず、本番が迫るにつれ緊張が高まるばかりでした。自分にとって全国の方々が集まる大会は初めてで、本番では焦って噛んでしまったりすることが多かったです。でも産業フェアに来ていただいた多くの方々に自分達のテーマでもある「子育て迷子をなくそう！」について知って貰えたのではないかと思います。また、他の高校の発表は、内容も濃く、原稿を見ないで発表していた高校もあって凄いなと思いました。見習うところばかりで、聞いていて勉強になりました。良い経験になりました。（３年女子）

○パワーポイントの作成や発表の練習、今まで習ってきたことの成果を発揮できてよかったです。色々な学校の発表を聞いていい学びになる機会でした。自分の地域の課題を解決するためにみんなと考えることができて嬉しかったです。これからもこのような発表会に積極的に参加して欲しいなと思いました。（３年女子）

○私は今回の産業フェアに参加し、ある学校の発表で聴いた「新しい概念を生み出すことは簡単である」という言葉が印象的で、まさにそれを皆さんが体現していると感じました。海外の博士と連携しながら研究を進める、地域に根付いた活性化の案を練って実践する等の、積極的で主体的な行動を通じ、大きな成果と学びを得ていました。
課題を発見し、その解決策を模索し、実行に移し、振り返る。このサイクルは単純に見えて実は大きなものを生み出すということを改めて実感し、私も実践したいと感じました。（３年女子）

農業：大会参加(全国大会：日本学校農業クラブ)

岩手県立久慈東高等学校

【大 会 名】　第73回日本学校農業クラブ全国大会北陸大会農業鑑定競技
【日　　時】　令和4年10月26日(水)～27日(木)
【場　　所】　福井県産業会館
【大会概要】
（１）出場競技部門および内容
　出場競技部門は、農業鑑定競技会である。内容は、教科「農業」での学習や学校農業クラブ活動で得た農業に関する知識・技術の成果について、実物を見て合計４０問の問題を鑑定する競技である。１問２０秒で答え、最終の２問については４０秒で解答をする。この競技会は、校内予選等を勝ち抜いた全国の農業クラブ員で競う。分野が農業・園芸・畜産・食品・森林・農業土木・造園および生活の８分野である。
（２）参加者数及び氏名
　　分野（農業）　総合学科３年　野 場 萌 生
　　分野（森林）　総合学科３年　外 里 優 樹

【写　　真】

農業鑑定競技会の会場にて

大会式典会場にて

【生徒または担当者の感想】
　森林の代表生徒については、昨年に引き続き出場となった。農業の代表生徒については、東北連盟大会の結果を待ってからの出場となった。２名は、代表に選出されてからも放課後等を利用し、継続した事前学習に取り組んできた。授業で触れていない部分も出題範囲に含まれており、大会当日寸前まで粘り強く学習を継続してきた。当日は多くの出場者の中で緊張しながらも、今までの学習成果を発揮した。しかし、結果として入賞は逃してしまった。この経験は貴重でありコロナ禍で大会が制限されている中で、今後の学校生活における糧となった。取り組みの様子を後輩に伝え、継続的な指導方法を取り入れ入賞を目指せるような体制づくりを進めていきたい。

介護：大会参加(東北大会：介護技術)

岩手女子高等学校

【大 会 名】　第８回東北地区高校生介護技術コンテスト
【日　　時】　令和４年７月１６日（土）
【場　　所】　青森県東奥学園高等学校
【大会概要】　福祉を学ぶ高校生が、課題事例に対する介護技術力を競う。
（１）福祉を学ぶ高校生の介護技術力を高めるとともに、様々な介護の場面において、適切かつ安全に支援できる能力と態度を育成する。
（２）参加校
青森県：七戸高等学校・東奥学園高等学校
秋田県：六郷高等学校
岩手県：岩手女子高等学校
宮城県：迫桜高等学校・登米総合産業高等学校・仙台大学付属明成高等学校
山形県：鶴岡中央高等学校
（３）大会結果
優秀賞

【写　　真】

競技中の様子

競技終了後の審査員へのPR場面

【生徒または引率者の感想等】
介護技術コンテストへの準備期間は、実習の後一週間しかなく、その一週間もメンバー３人で揃って練習できた時間は少なく、不安と緊張しかありませんでした。本番当日は自分達が練習してきたことを信じ、楽しんでいこうと、生徒を励まし送り出しました。生徒は手が震えるほど緊張していましたが、練習してきたことを落ち着いて、事例に合わせて表現することができました。その結果、優秀賞を頂くことができました。
介護技術にはこれでいいとか、これが正解というものはなく、対象となる相手、同じ人でもその時、その場面によっても対応方法が違く、その状況その場面に合わせた応用力が必要になります。そういった意味でも、介護技術コンテストの経験は介護実践の対応力と応用力を学ぶ機会となり、自分自身の成長へとつなげることができたと思います。今後この経験を学校生活、就職先でも活かしてほしいです。

岩手県中学校技術・家庭部会

【大 会 名】　第55回岩手県中学校技術・家庭科教育研究大会和賀大会

【日　　時】　令和４年９月２７日（火）

【場　　所】　北上市文化交流センターさくらホール他　市内各中学校４会場

【研究主題】　未来社会の創り手となる資質・能力を育成する技術・家庭科教育
－問題を見いだし、解決する題材開発とその評価－

（1）全体研究会

発表者	助言者
岩手県中学校教育研究会技術・家庭科部会 研究部長岩手大学教育学部附属中学校 教諭　加藤　佳昭	国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部　教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官 渡邊　茂一　様

（2）　公開授業並びに授業会場

内　　容	授　業　者
技術Ｂ　生物育成の技術	照　井　哲　史
技術Ｄ　情報の技術	大　坂　健　夫
家庭Ｂ　衣食住の生活	髙　橋　ゆかり
家庭Ｃ　消費生活・環境	小野寺　麻　里

（3）　授業別分科会・課題別分科会

分科会番号	授業別分科会
1	技術Ｂ　生物育成の技術
2	技術Ｄ　情報の技術
3	家庭Ｂ　衣食住の生活
4	家庭Ｃ　消費生活・環境
分科会番号	課題別分科会
1	技術Ａ　材料と加工の技術
2	技術Ｂ　生物育成の技術
3	技術Ｃ　エネルギー変換の技術
4	技術Ｄ　情報の技術
5	家庭Ａ　家族・家庭生活
6	家庭Ｂ　衣食住の生活
7	家庭Ｃ　消費生活・環境

中学校技術家庭：県研究大会

【写　　真】

大会風景１

大会風景２

【大会を振り返って】

県大会には７７名参加（役員含め総数９６名）県の研究部を中心に研究を進めることができました。また、和賀地区の先生方にもご協力いただき、円滑な運営を執り行うことができ、各会員にとって学びを深める大切な機会とすることができました。

午前に開催した全体研究会では文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官の渡 邊 茂 一 先生にご講評いただき、現行の学習指導要領について理解を深めるための貴重なご助言をいただくことができました。午後に開催した実践交流では、技術領域４分科会と家庭領域３分科会に分かれて、日頃の授業実践や研究の交流を行いました。

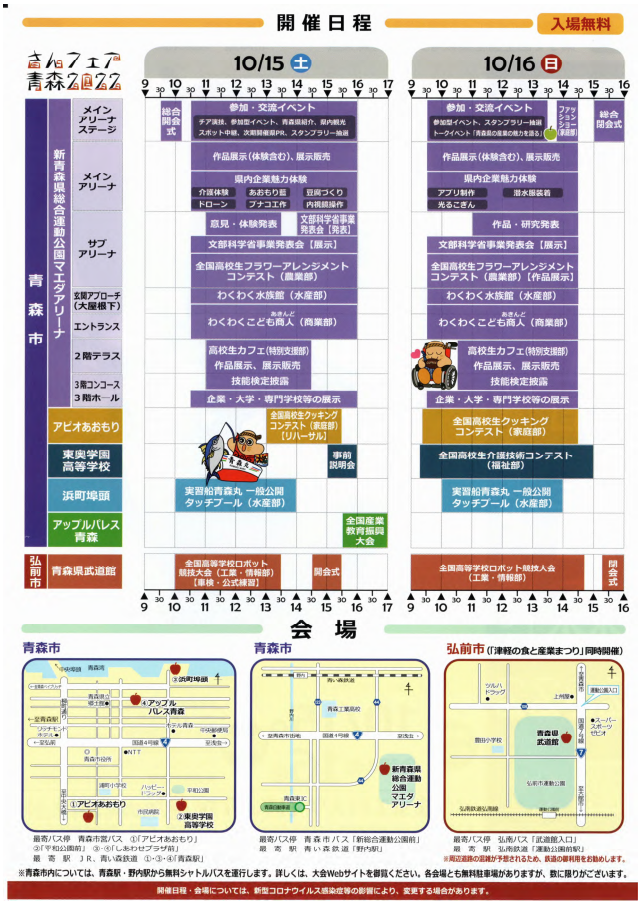
これからも、県研究部・県事務局と各地区の研究会との繋がりを大切にしながら、子どもたちのために研究を更に深めてまいりたいと思います。

さんフェア青森2022

※　さんフェア青森2022は３年ぶりに参集型開催となりました。

大会パンフレット

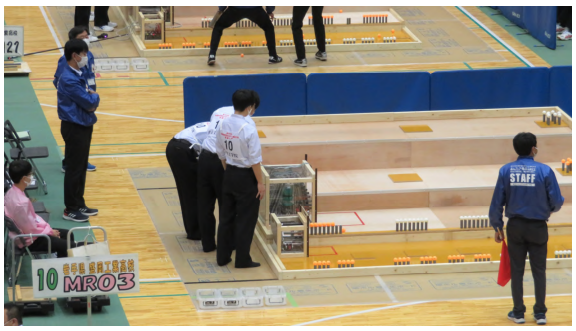
大 会 日 程



会場入口

会場内

岩手水産高校展示



ロボット競技大会

フラワーアレンジメントコンテスト

ステージ

令和４年度「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」募集要項

公益財団法人産業教育振興中央会
公益社団法人経済同友会

１．趣旨

今日、我が国では第４次産業革命が進展し、ＡＩやIoTなどの急速な技術発展により産業構造も大きく変わり、グローバルな競争も激化している。さらには、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まり、すでに2年を経過し、経済活動も含めた社会全体に深刻な影響を及ぼしている。これらを克服し、我が国がさらに発展し活力ある社会を築いて行くためには、これからの社会を支える若い世代の力が必要であり、とりわけ将来の自己の仕事に明確な目的意識を持ち「しごと」に直結する知識や技術を学んでいる、専門高校の生徒には大きな期待が寄せられている。

このため、将来の日本の産業・企業を支える専門高校の生徒の学習意欲の高揚を図るとともに専門教育に対する社会からの関心を高め、専門高校の活性化を図るため、専門高校の生徒を対象に、(公財）産業教育振興中央会及び(公社)経済同友会の共催により「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」を実施する。

２．応募資格

専門教育を主とする学科（専攻科を除く。総合学科を含む）に在籍する高等学校生徒

３．作品募集内容

(1)研究文の部

・個人またはグループによる専門教育に関する研究・実験・調査等の研究の成果をまとめたものであること。
・未発表のものであること。
・A4判縦型（1ページは、22字×38行×２段）８ページ以内（写真・図表等を含む）とし、電子データで作成すること。
・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は、最初のページの頭に、横２段に通して10行分（左段10、右段10計20行分）に入れること（原稿１枚目のみ)。
・写真･図表等がある場合は、その分の余白（標準１段８行分）を取り、挿入個所をご指定するか、原稿に直接貼り付けること。

(2)作文の部

・個人が現に学んでいる専門教育での体験について、感想・決意・抱負・将来の仕事などを述べたものであること。
・未発表のものであること。
・A4判縦型（1ページは、22字×38行×２段）２ページ以内とし、電子データで作成すること。
・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は、最初のページの頭に、横２段に通して10行分（左段10、右段10計20行分）に入れること（原稿１枚目のみ)。

4．応募方法

(1)応募作品は、学校所在地、学校名、学科名、学年、氏名を明記した表紙（A4判）を添付し、学校長を経由して、学校所在の各都道府県産業教育振興会宛（振興会の定める必要部数を期日まで）に提出すること。

(2)各都道府県産業教育振興会においては、応募作品を取りまとめ、９月12日(月)までに作品1部と電子データを産業教育振興中央会宛に送付すること。

5．審査

農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉の各専門高校校長協会及び経済同友会より推薦された者を審査委員として、10月下旬～11月上旬までに応募作品を審査し、「研究文」及び「作文」のそれぞれについて、産業教育振興中央会から最優秀賞、優秀賞、佳作を決定する。経済同友会賞は、12月中旬～翌1月初旬に決定する。

6．審査結果の発表等

審査結果については、産業教育振興中央会より各振興会長宛に通知し学校長及び本人に伝達を依頼するほか、月刊誌「産業と教育」の誌上で発表する。また、併せて、経済同友会HP「みんなで描くみんなの未来プロジェクト」サイトに掲載する。

なお、入選作品（最優秀賞、優秀賞等）については、本会の文集「'翔, 」第32集（令和４年度版)として刊行し、教育諸機関へ頒布する。また、経済同友会HP「みんなで描くみんなの未来プロジェクト」サイトに掲載する。

(1)入選作品の掲載に際し、その本質を損なわない範囲で、字句の削除、修正をすることがある。

(2)応募作品は返却しない。

(3)今回の募集で得た個人情報は、受賞者への連絡及び受賞作品の出版、webサイトへの掲載以外には使用しない。

7．表彰

(1)産業教育振興中央会より「研究文」及び「作文」ごとに次の表彰を行うものとし、賞状と副賞（図書カード）は、所属学校長を経由して本人に伝達する。

			「研究文の部」	「作文の部」
最優秀賞	研究文・作文	各１編	15,000円	10,000円
優 秀 賞	研究文・作文	各２編	10,000円	5,000円
佳　　作	研究文・作文	各５編	3,000円	2,000円

(2)経済同友会における表彰については、賞状と盾を授与する。

経済同友会賞　研究文・作文　　各３編程度

令和４年度　岩手県産業教育振興会主催
「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」募集要項

1　主　　催　　岩手県産業教育振興会（公益財団法人産業教育振興中央会）

2　趣　　旨　　産業の各分野における急速な技術革新の進展に伴い、専門教育の充実に新たな期待が寄せられている。このため、専門高校に学ぶ生徒の自覚と学習意欲の高揚を図るとともに、専門教育に対する社会的な関心を高めることに役立てるよう、研究文・作文を募集し、表彰を行う。

3　応募資格　　専門教育に関する学科・コース(専攻科を除く)に学ぶ高等学校の生徒であること。

4　内　　容

(1) 研究文の部

・個人またはグループによる専門教育に関する研究・実験・調査等の研究の成果をまとめたものであること。
・未発表のものであること。
・Ａ４判縦型（1ページ22字×38行×２段・フォントサイズ10.5ポイント）８ページ以内とし、電子データで作成すること。
・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は最初のページの頭に、横２段に通して10行分(左段10、右段10計20行分)に入れること（原稿１枚目のみ)。
・写真･図表等がある場合、その分の余白（標準１段８行分）を取り、挿入個所を指定するか、原稿に直接貼り付けること。

(2) 作文の部

・個人が現に学んでいる専門教育での体験について、感想・決意・抱負などを述べたものであること。
・未発表のものであること。
・Ａ４判縦型（１ページ22字×38行×２段・フォントサイズ10.5ポイント）２ページ以内とし、電子データで作成すること。
・タイトル、学校名、学科名、学年、氏名は、最初のページの頭に横２段に通して10行分(左段10、右段10 計20行分)に入れること。(原稿１枚目のみ)

※　なお、研究文・作文とも未発表のものに限るが、今年度の県内の研究会等において発表したものについては、未発表として取扱うものとする。ただし、県代表として東北大会以上で発表したものは既発表として扱う。

5　応募方法

・研究文・作文の応募作品の一覧をEXCELファイルで作成すること。
一覧には学校所在地、学校名、作品ごとにタイトル、学科名、学年、氏名、フリガナを明記すること。

・応募作品一覧と研究文・作文の応募作品は、メールの添付ファイルにより岩手県産業教育振興会あてに送信すること。
・応募作品のファイル容量が大きい場合は、複数のメールの添付ファイルを分割するか、ＣＤ等に記録して郵送すること。（Word・一太郎・EXCEL形式　PDF形式は不可）

6　締切期日

令和４年８月１９日（金）

※　産業教育振興中央会の締切が９月１２日(月)となっていることから期限を厳守。

7　審査・推薦

・応募された作品は全て産業教育振興中央会に推薦する。ただし、産業教育振興中央会未加入校の作品を除く。
・岩手県産業教育振興会では産業教育振興中央会とは別に審査し、最優秀賞、優秀賞を決定し表彰する。
・審査の観点は次のとおりとする。

(1) 主題の設定が適切で高校生にふさわしいか。
(2) 計画が適切で綿密に進められているか。
(3) 記録が正確で資料が適切に使われているか。
(4) 内容が適切で創意工夫が見られるか。
(5) 結果のまとめが適切であるか。

8　審査結果の発表

審査の結果については、令和４年１２月上旬までに、高等学校長あてに通知する。

9　表　彰

(1) 岩手県産業教育振興会では入選作品について、記念品を添えて次のとおり表彰する。

ア　最優秀賞　　研究文・作文各１編
イ　優 秀 賞　　研究文・作文各１編

※　研究文については担当した生徒全員を表彰する。

10　その他

(1) 入選作品については、「事業活動報告書」を掲載する。
(2) 作文については、校内で選考し、各学科(１～３年)ごと３編以内で応募すること。

※　１編目：機械科１年○○　２編目：機械科３年○○　３編目：機械科３年○○
　　１編目：電気科２年○○　２編目：電気科３年○○
　　１編目：土木科３年○○　２編目：土木科３年○○　３編目：土木科３年○○

岩手県産業教育振興会　専門高校生徒の研究文・作文コンクール
研究文の部　最優秀賞　受賞作品

「持続可能な肉牛の飼養管理と高品質の牛肉の生産を行うための研究」

岩手県立遠野緑峰高等学校
生産技術科　３年
宇夫方 日 向　　菊 池 綺 羅　　佐々木 愛 莉
佐々木 暖 奈　　高 柳 莉 己

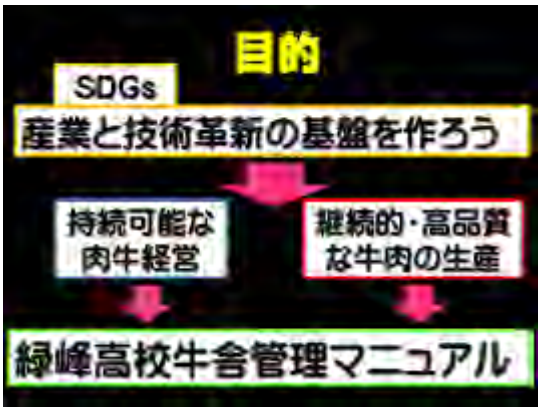
Ⅰ．研究動機

私たち畜産研究班では、「畜産が専門の先生と、畜産研究班が本校からなくなったら、緑峰のウシたちはどうなってしまうんだろう？という問いかけが、先輩方から代々引き継がれています。

たしかに、昔は本校でも乳牛を飼育して搾乳をしていたそうですが、現在、私たちはかつての乳牛舎で黒毛和種の繁殖と肥育を行っています。岩手県は「畜産県」なはずですが、実際、岩手の農業高校で乳牛を飼育し、搾乳実習を行っているのは、盛岡農業高校のみになっているのが現状です。もしかすると、本校からウシの姿が消える危険は遠くない未来であることは、簡単に想像がつきます。

私たちは、畜産担当の先生や生徒が変わっても、10 年先も 20 年先も変わらずに畜産経営をおこなっていくことができるシステムを作り、後輩たちに届けようと考え、SDG s の目標のひとつでもある「産業と技術革新の基盤を作ろう」に則り、私たちも本校の農場で持続可能な肉牛経営と、高品質な牛肉の生産を目指したいと考えました。

そこで、私たちの後輩や未来に本校で畜産に関わる先生のために緑峰高校牛舎管理マニュアルを作ることにしました。



Ⅱ．研究目的

1．牛舎の室温を計測し、ウシのストレスを軽減するための牛舎管理を検討する。
2．ブラッシングを行う際に、ウシの体温変化を計測する。
3．ウシや牛肉に関する研修会に参加し、私たちのウシに関する知識を深める。

Ⅲ．実施計画

大切なことは、毎日の飼料給与や除糞、ブラッシングなど、ウシと牛舎の一般管理に関わって、ウシの健康状態と牛舎の環境を常に観察することです。

また、ウシについて、もっと学習活動を行い、知識を蓄積したいので、先生にお願いして、積極的に研修会に参加しました。

Ⅳ．実施内容

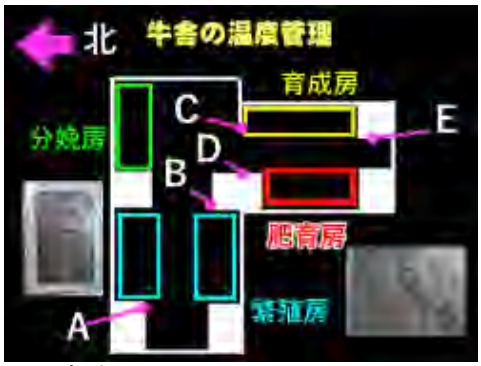
１．牛舎内温度の測定

牛は比較的寒さには強いのですが、夏の暑さはストレスになり、飼料の採取量が減少したり、体力の低下による病気の原因となります。

私たちは、６月中旬より大型の扇風機で牛に風を当てたり、日の当たる窓に日よけの黒い幕を設置し、少しでも牛舎の温度を下げるように工夫をしました。

しかし、実際に牛舎の温度を測定したことがなかったので、令和４年の１月から牛舎の温度測定を開始しました。

これは、私たちの学校の牛舎の見取り図です。牛舎は下図のように北側を底辺としたＬ字型に作られています。



温度計は、ＡからＥまでの５ポイントに設置しました。

Ａ点は、牛舎の入り口で、一番人の出入りと空気の変化が激しい場所です。入ってすぐに母牛を飼育する繁殖房があります。

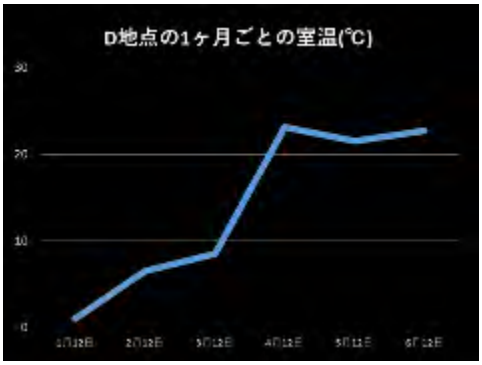
Ｂ点は、南側と北側を結ぶ、一番光が当たらない場所です。

Ｃ点は、牛舎の一番奥に当たりますが、母牛が出産するための分娩房には大きい窓があり、明るく暖かい場所です。

Ｄ点は、真上に大型の換気扇があり、その奥に市場に出荷されるまでの子牛が飼育される育成房と、牛肉として市場に出荷するための牛を肥育する肥育房があります。

Ｅ点は、本校の牛舎の一番南側にある場所ですが、厳冬期にはウォーターカップが凍結します。南側に位置するにも関わらず、一番寒い場所であることが考えられます。

肥育房の一番室温が安定しているＤ地点の、１月 12 日から６月 12 日までの一ヶ月ごとの室温をグラフにしました。



１～2 月の厳冬期は氷点下になることもありました。風邪を引いた子ウシも何頭かおり、寒さの対策が必要と思われました。もっとも、1 月 12 日の遠野市の最低気温は、−5.4 度ですが、牛舎内の気温は、0.9 度でウォーターカップは凍りませんでした。

３月から４月まで、８度から 23 度と、急激に温度が上がり、牛舎内の室温でも春を感じることができました。

５月から６月はあまり気温が上昇せず、牛舎内

温度は外気温より 3 度程度低めで維持されました。6 月まではウシのストレスになるような温度にはなりませんでした。

気象庁の長期予報では、7 月から 9 月にかけて猛暑になると発表されたので、6 月 28 日に、肥育房の窓側に寒冷紗を設置し、西日対策を行いました。

肥育房の温度変化については、現在も継続して調査中です。寒冷紗の効果についても、現在、温度測定を行いながら検討しています。

2. ブラッシングとその効果について

ブラッシングには、

① ストレスの軽減
② 牛と信頼関係ができる
③ 汚れを落とす
④ 血流がよくなる
⑤ 肉質がよくなる
⑥ 脂肪交雑が入りやすくなる

などのメリットがあることが知られています。

今までは、不定期に行っていたブラッシングを、今年度から火曜 3 校時の課題研究で必ず行うことにしました。本校には 3 頭の肥育牛がおり、3 頭すべてについて行いました。紫音と悠介は、体重が 500kg 以上あるので、安全を確保するために必ず繋いでから作業を行いました。

ウシは、牛舎の小さい区画で肥育されているので、放置しておくと、自分の糞尿や床敷きが体全体に付着し、すぐに汚れてしまいます。ブラッシングを始める前は、かなりホコリまみれ状態です。

ウシの皮はベルトになるくらい固くて厚いので、強めのマッサージを行うように、頭から尻へ、背中から腹へ、毛並みに沿って、丁寧にブラシをかけていきます。最初はビクビクしていたウシも、すぐに気持ちよさそうにします。かゆい部分をすり付けてくる動作をする時もあります。

1 時間ブラッシングしたウシの体は、汚れが落ちただけでなく、つやが出て毛色が明るくなりました。

さらに、デジタル体温計を利用し、ブラッシング前とブラッシング後の体表面の温度変化を調べることで、ブラッシングの効果を検討しました。サーモメーターの使用も考えましたが、費用の問題で残念ながら今回はあきらめました。

4 月 21 日、5 月 10 日、6 月 16 日の、体温測定の実施結果です。

体温は、第一胃がある右体側を、10 カ所測定しました。

ブラッシングの時間は実習の時間に合わせて20分としました。また、対照実験として、ブラッシングを行わず、牛の右体側に何も動作することなく、20分間、黙って立ち続けました。

結果です。

4月12日は、牛舎の平均温度が14時で23.3度でした。

3頭すべての牛でブラッシング後に体表面温度の上昇が見られました。

5月10日は、牛舎の平均温度が14時で21.9度でした。

この日も、3頭すべての牛でブラッシング後に体表面温度の上昇が見られました。

6月16日は、牛舎の平均温度が14時で22.7度でした。

この日は、3頭すべての牛で、ブラッシング後の体表面温度が下がっているポイントが多く見られました。

ブラッシングの効果として、体表面の血行が良くなることが知られていますが、6月16日の結果だけは、有効な結果ではありませんでした。

この結果から、ブラッシングによる牛の体表面の変化は、あまりわかりにくい可能性が示唆されました。あるいは、今回使用したデジタル温度計は人間の体表面を測るものなので、牛の皮膚の厚さで有意な結果が得られなかった可能性も考えられました。

引き続き、調査を行い、測定器具による誤差なのか、季節的に室内温度と体温のバランスに変化が生じたものなのか、検討したいと思います。

ブラッシングを行った日は、同時に月に一度の肥育牛の体重測定も行っています。

昨年は、畜産担当の先生方に頼ることが多かったですが、今年度は、ウシを引き出し、体重計に乗せ、再び牛房に戻す一連の作業を、自分たちの力だけで行っています。

ブラッシングと体重変化の相関関係については、今後、科学的な調査方法を検討したいと考えています。

3. 各種研修への参加

私たちは、畜産研究班になった２年次から、私たちは、牛の生態や、飼養管理の知識を高めるため、飼料検討会、アイミート研修会、枝肉研修会、牛の博物館見学会、ハンドラー養成研修会、基本登録審査会などの学習会に参加しました。

令和３年 10 月８日金曜日。

紫波町にある株式会社「いわちく」さんへ伺い、「枝肉研修会」ならびに、私たちが育てた「ひかり号」の枝肉の見学実習に行きました。

いわちくの大型冷蔵庫には、天井から肉になったウシたちが、無数にぶら下がっていて、もう、どの肉が、私たちが農業実習で手塩にかけて育てた「ひかり」なのか、分かりませんでした。

初めて目の当たりにする目の前の光景に驚き、

圧倒されました。

いわちくの尾形さんが、

「これが、君たちが大切に育てたウシです。近くで見てみてください。」

と、声をかけてくださいました。

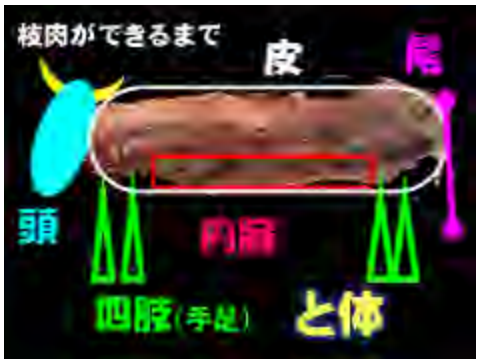
こうして、私たちは、美しい枝肉になった「ひかり」号との再会を果たしました。

「みなさんが、愛情いっぱいに育てたんだな、ということが分かるウシですね。ランクは１０ですが、１２にも負けないくらいの良い『サシ』の入り方ですね。」

と、尾形さんからうれしい言葉をいただきました。

私たちが学んだ「枝肉と牛肉のランク付け」について説明します。

「枝肉」は、と畜されたウシから頭・皮・内臓・手足・尾を取り除いた「と体」をいいます。



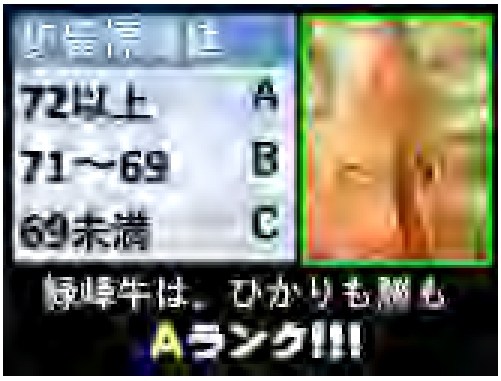
この枝肉が、「牛肉の品質」の良し悪しを決める、基本となります。

ウシは、牛肉として私たちに美味しく食べられるために殺されるので、どんなに筋肉の間に脂肪が差し込まれている「霜降り」の状態が素晴らしくても、「肉の量」が少なければ、意味がありません。

そのウシにどれだけ「肉の量」があるか、というとても大切な指標が「枝肉歩留」です。

枝肉歩留は、決められた公式で計算され、この値を「歩留標準値」といいます。牛肉の評価は、「肉の量が一番!!!」なのです。

歩留標準値は、72 以上がＡランク、69 までがＢランク、それ以下をＣランクと格付けされます。



令和３年度に、私たちが大切に育て出荷された「緑峰牛」は、ひかり号も勝号もＡランクでした。

岩手が誇る牛肉「前沢牛」や三重の「松阪牛」など、有名な高級牛肉は、『Ａ５』ランクといわれます。

「Ａ」の後の『５』は、数字が「肉の質」の良し悪しを示す数字です。

これが、実際にいわちくさんよりいただいた、ひかり号と勝号の「お肉の通信簿」です。

脂肪交雑「５」、肉の色やみずみずしさ「５」、脂肪の色やみずみずしさ「５」が、共に最高ランクで、ひかりも勝も枝肉の格付けはＡ５でした。

また、私たちは「前沢牛」は「ブランド牛」と誤解していましたが、実は、「前沢牛」は『ブランド牛肉』である、ということを知ることができました。

本校の文化祭兼収穫感謝祭である「緑峰祭」で、私たちが育てた「緑峰牛」を、毎年販売しています。緑峰牛は、地域のみなさまに絶大な人気を誇り、すぐに完売する、目玉商品です。今年度も、Ａ５の牛肉が売れるよう、日々のウシの管理に励んでいます。

Ⅴ．現在までの研究のまとめ

① 令和３年度に出荷した２頭の牛は、Ａ５ランクの牛肉でした。
② １月から牛舎の温度測定を始めました。
③ ブラッシングを定期的に行い、体表面温度を測定しました。
④ 自分たちだけの力で牛の体重測定を行いました。
⑤ 枝肉研修会、ハンドラー養成講習会、家畜商の資格取得など、各種研修会に参加しました。

Ⅵ. 今後の課題

① ブラッシングの体表面温度の測定装置の再検討をする。あるいは、別の方法でブラッシングの効果を確認する。

② ブラッシングと体重・肉質の相関関係を、定期的に科学的に調査し、データ化する。たとえば、毎月に行われる体重測定時に、アイミート(超音波による肉の面積や脂肪厚の測定器)を活用する。

③ 血液検査の結果も、高品質の肉質を得るための情報として取り入れる

④ 猛暑期に、ウシにストレスを与えないための取り組みを行う。
ウシの水浴び、ダニ対策、間柱棒の浄化による室内環境の最適化などを行う。

Ⅶ. おわりに

私たちでもＡ５の牛肉を持つウシを育てることができることを学び、Ａ５の「緑峰牛」を持続的に生産するシステムを考えたいと思いました。

SDGｓの目標の１つでもある『産業と技術革新の基盤を作ろう』に乗っ取り、持続可能な肉牛経営と高品質な牛肉の生産を目指し、私たちの後輩や、未来に本校で畜産に携わる先生の為に「緑峰高校牛舎管理マニュアル」を作ろうという試みは、未だ始まったばかりです。

私たちは、これからも本校の牛の文化を絶やさないために、緑峰高校牛舎管理マニュアルの作成に向け、研究活動を続けます。

岩手県産業教育振興会主催　専門高校生徒の研究文・作文コンクール
研究文の部　優秀賞　受賞作品

「車いすを利用した方や高齢者のQOLの向上を目指して」

岩手県立盛岡農業高等学校
人間科学科　第３学年
齊藤愛華　千葉美珠樹　長坂柚葉　氏家雪月
金野勇太郎　下斗米　桜　高橋詩織　髙橋夢菜
若澤陽夏　和山直代

１　はじめに

現在、日本人の男性平均寿命は約81歳、女性は約87歳と年々伸びています。しかし、日常生活に制限のない健康寿命を見ると、男性は約72歳、女性は約75歳で、男性は９年間、女性は12年間、何かしらの身体的な問題を抱えて生活しているのです。このような身体的な問題を抱えている高齢者の方々は本当に幸せな生活を送れているのでしょうか。

みなさん「ＱＯＬ」という言葉を知っていますか。「クオリティーオブライフ」、これは「生活の質」といわれ、日常生活の自立だけを目指すのではなく、今、満足できる豊かな生活を送ることが求められているのです。その満足度を評価するために、WHOはＱＯＬ評価項目を設定し、現在は医療や福祉の分野で活用されています。そこで、私たちは身体的な問題を抱えている高齢者の方々に生き生きとした満足のいく生活を送ってほしいと考え研究に取り組みました。

２　実施計画

（１）車イスや歩行器を利用した高齢者の方々のＱＯＬを高める交流会の実施

（２）ＱＯＬを常に高めるための継続した取り組み

（３）人間科学科版ＱＯＬ評価シートの作成と評価

３　実施内容

（１）車イスや歩行器を利用した高齢者の方々のＱＯＬを高める交流会の実施

盛岡市の介護特別養護老人ホームの車イスや歩行器を利用した高齢者３名を対象者とし、科目「生物活用」で学んだ園芸療法の観点を取り入れた「野菜の収穫と石窯ピザ交流会」を実施することにしました。また、事前に対象者の状況を老人ホームの施設長からお聞きし、科目「生活支援技術」で学んだ「個々に合わせた対応」を心掛けました。交流会の実施時間は参加者が高齢であることを考慮し、１時間15分以内としました。

①バリアフリーピザロード畑の準備

私たちは「わくわくして出かけたくなる空間づくり」を目指し、屋外に「バリアフリーピザロード畑」を作りました。ピザの主役であるトマトは車イスの方が無理なく収穫できる高さ、30ｃｍ～１ｍ20ｃｍの範囲に実らせるために、支柱の竹の上に主茎を被せ、トマトが大きくなると自然に垂れ下がり、車イスの方でも楽に収穫ができるように

しました。次に畑のバリアフリー化です。まずは通路を平らにならし、そこに防草シートを張りました。また、畑の出入り口付近の傾斜を車イスでも安全に通行できるかどうか確認するため、水準測量で傾斜勾配を求めました。その結果、勾配は 13 分の 1 で安全基準値を満たしていることが確認できました。そして、ついに「バリアフリーピザロード畑」の完成です。車イスでミニトマト、ピーマン、ナス、そして、バジルの順に収穫してピザのトッピングにします。

②作業しやすい補助アイテム作り

次に作業しやすい補助アイテム作りです。エプロンは車いすに引っかからないようにスリットを２カ所作り、足元の布は左右を真ん中よりも短くして安全性を高め、車イスの方が前かがみにならなくても後ろで紐を結べるように工夫しました。帽子は通常の帽子より簡単に頭を覆うことができ、あごの部分でも頭の後ろの部分でも結べる布製帽子を作製しました。

③野菜の収穫と石窯ピザ交流会の実施

そして、当日、「ＷＥＬＣＯＭＥ」ボードで歓迎し、「野菜の収穫と石窯ピザ交流会」の始まりです。車イスをサポートし、案内係が畑の説明をしながら一緒に野菜を収穫しました。次に近くにある石窯まで移動し、事前に練った生地に自家製トマトソースを塗り、収穫した新鮮野菜とチーズをトッピングして石窯で焼き上げ、手作り石窯ピザの完成です。みんなでいろんな話をしながら、笑顔でおいしそうにピザを食べてくれました。

（２）ＱＯＬを常に高めるための継続した取り組み

①皮丸ごとカボチャプリンづくりとお楽しみ会参加

交流会から２か月後、対象者のアンケートの結果をもとに、噛む力が少なくても食べやすい皮丸ごとカボチャプリンをつくりました。そして、施設で毎月開催しているお楽しみ会でウエイトレスになって、施設の利用者の方々に提供しました。

②地域資源雁喰豆の播種と雁喰豆マドレーヌのプレゼント

更に対象者の期待感を高めるために、近隣玉山地区で昔から引き継がれてきた地域資源である雁喰豆といわれる黒平豆に着目し、雁喰豆と播種用土を詰めたセルトレイを施設長に預け、施設で実際に対象者の方に貴重な雁食豆を播種してもらいました。雁喰豆マドレーヌも作ってプレゼントしたところ、多くの利用者が興味関心を持ってくれました。その後、本葉が展開し始めたころに苗を回収し、今年のバリアフリー畑に定植しました。秋には黒平豆の収穫と黒平豆ピザ交流会を実施する予定です。

（３）人間科学科版ＱＯＬ評価シートの作成と評価方法

ＱＯＬを評価するために、Quality Metric Inc 権利

の SF－36 を参考にして、このように５つの尺度に着目し、評価項目には「夢や希望が持てる」、「交流会への参加意欲」などの新たな項目を追加した人間科学科版オリジナルＱＯＬ評価シートを作成しました。評価は対象者の方と常に接している特別養護老人ホームの施設長に依頼し、「大変良い」を「５」、「普通」を「３」、「大変悪い」を「１」とした５段階で評価していただきました。評価時期は交流会前の９月、10 月の交流会後、12 月末の施設でのお楽しみ会後、今年の４月下旬、そして、６月の鴈喰豆播種後の計５回とし、それぞれ一週間程度の対象者の状況を見て評価しました。

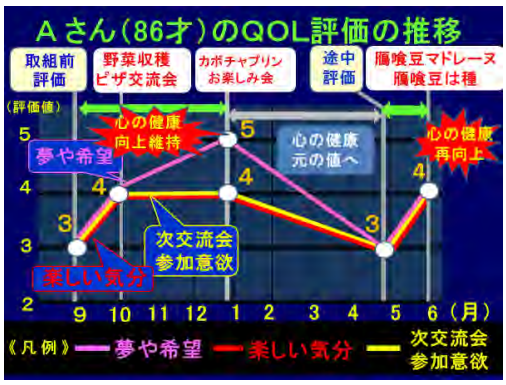
人間科学科版ＱＯＬ評価シート

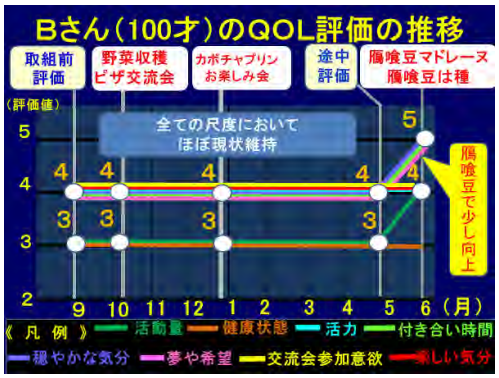
尺度	評価項目	５段階評価				
身体機能	活動量	大変悪い 1	少し悪い 2	普通 3	少し良い 4	大変良い 5
全体的健康感	健康状態	大変悪い 1	少し悪い 2	普通 3	少し良い 4	大変良い 5
活力	活力が漲っている	大変悪い 1	少し悪い 2	普通 3	少し良い 4	大変良い 5
社会生活機能	付き合いをする時間	大変悪い 1	少し悪い 2	普通 3	少し良い 4	大変良い 5
心の健康	穏やかな気分	大変悪い 1	少し悪い 2	普通 3	少し良い 4	大変良い 5
	夢や希望がある	大変悪い 1	少し悪い 2	普通 3	少し良い 4	大変良い 5
	次年度交流会への参加意欲	大変悪い 1	少し悪い 2	普通 3	少し良い 4	大変良い 5
	楽しい気分	大変悪い 1	少し悪い 2	普通 3	少し良い 4	大変良い 5

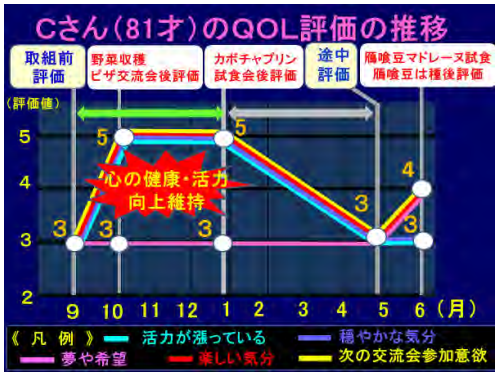
また、施設長からの評価判断理由をもとに評価結果を考察しました。

（４）ＱＯＬ評価の結果と考察

Ａさんは交流会後に、「夢や希望」、「楽しい気分」、「次回の交流会への参加意欲」の項目が１ポイント向上しました。これはＡさんは入所してから、あまり外出しておらず、屋外での交流会が新鮮で楽しかったためと考えられます。しかし、少し期間を置いた４月下旬には元に戻り、雁喰豆の播種







後、再び１ポイント向上しました。このことから、常にＡさんのＱＯＬを高めるためには、期間を開けずに取り組む必要があることがわかりました。

Ｂさんについては全ての項目であまり変化はありませんでした。そのようなＢさんのＱＯＬを高めるためには、事前にＢさんの生活から興味や関心があるものを引き出し、取り組み内容に活かすことが必要であると考えられます。

Ｃさんは交流会後、「楽しい気分」や「活力が漲る」の項目が大きく向上しました。Ｃさんは昔から植物を育てることが好で、意欲的に交流会に参加し、次の交流会にも元気な身体で参加したいと考え、健康維持のために自ら体を動かすことが多くなり、「活動量」が２ポイント増加しました。また、Ａさんと同様、４月下旬には元に戻りましたが、雁喰豆マドレーヌに感動し、自分で播種した雁喰豆を収穫して煮豆にしたいという期待が高まり、「夢と希望がある」の項目を１ポイント向上させることができました。

４　まとめ

（１）人間科学科版ＱＯＬ評価シートで対象者の

ＱＯＬを評価することができた。
（２）バリアフリー畑や地域資源の活用はＱＯＬ向上に有効であった。

５　今後の課題

（１）事前調査を重視し、対象者の興味関心を活かした取り組み内容を検討する。
（２）より多くの対象者のＱＯＬデータを収集し、人間科学科版ＱＯＬシートの精度を高める

６　おわりに

　今回の研究で一緒に取り組んでいただいた介護特別養護老人ホーム施設長から、「対象者の３人はいろんなことを体験させていただき本当に幸せです。」という言葉をいただき、無限の可能性を秘めた農業と福祉が連携することで、人を幸せにできることを実感できました。これからも私たちは人々のＱＯＬを高めるために研究を続けていきます。

岩手県産業教育振興会主催　専門高校生徒の研究文・作文コンクール
作文の部　最優秀賞　受賞作品

「未来への投資」

岩手女子高等学校
福祉教養科　３年
廣　田　莉　果

私たちの学年は新型コロナウイルスの影響で、一年生の時から介護実習が何度も延期、中止、途中で中止となっていた。「介護計画の立案、実施、評価」を中心とした介護実習も、本来ならば４週間の予定だったのだが、３週間に短縮されてしまった。情報収集も、アセスメントも、プラン実施期間も全てが短くなってしまい大変だったが、得るものも多い実習となった。

受け持ちの利用者様はK様という女性の方だった。日常生活は基本的に自立しており、コミュニケーションも問題なく図ることができる方だったので、課題を見つけることが難しかった。ただ、K様は食べることが大好きで、体重増加に注意する必要があり、普段の食事ではご飯の量を減らしているとのことだった。また、とても恥ずかしがり屋な性格で、人前で車いすに乗ることも嫌がることもあった。今何がしたいか、本人に聞いてみると「特にないね」や、「美味しいものが食べたい」とおっしゃることが多かった。

「美味しいものが食べたい」という希望を尊重した計画の立案を考えたが、体重のこともあり、目標はどう立てるかなど、たった一週間で考えるのは私にとって難し過ぎた。ケース記録閲覧前日、いつものようにK様とコミュニケーションを図っていると、テレビのグルメ番組を見たK様が「今はこういう食べ物があるんだね。私もそこに行って食べてみたい。」とおっしゃったので私は「そうですね。K様はまだまだお元気ですから行ってみたいですよね。」と答えた。「そうだね。車いすでもいいから外の景色を観ながら食べたい。」と笑顔で話されていた。このことから、
私は課題や目標を考え、計画を立案した。

私は、余暇時間に行うすごろくゲームを中心としたレクリエーション活動を行ってもらうことにした。ユニットから少し離れたホールに行き、大きなサイコロを振り、出た目の分を車いすで自走する。そこでおみくじを引き、食べ物などに関するクイズに答えるというものだ。K様に説明すると、「楽しみだわ。でもやったことがないから不安です。」と恥ずかしそうにおっしゃった。「私も一緒に行いますから大丈夫ですよ。」というとK様は笑顔で頷いた。

プラン実施が始まり、初めは遠慮がちだったK様も日を追うごとに笑顔が増え、ゲームを楽しんで下さっている様子だった。自走についても、初めはすぐに疲れてしまったが、段々と距離が伸びていった。また、初めは恥ずかしそうにされていたのが、職員の方に声を掛けられると笑顔で答えながら堂々と自走するようになっていった。プラン実施が終わり感想を聞くと、「とても楽しかった。本当に私は幸せ者です。」とおっしゃった。私はその言葉を聞いて涙が出そうになった。自分が立案した計画を楽しんでもらい、「幸せ」という言葉が聞けるとは思っていなかったからだ。

３週間の実習の中で、計画実施の他にも学んだことはたくさんあった。特に移乗介助は単独実施

が今回初めてで、私は初めて「人の重さ」を実感した。自分の重心の位置、体の動かし方など頭では理解していても、実際に利用者様を目の前にすると「失敗したらどうしよう」とマイナス思考になり、緊張してうまく動くことができなかった。悪戦苦闘していた私に、指導者の方がこう言った。

「あなたはイメージが足りない。今この状況でこういう動きをすればこの位置に来る、頭はぶつけないか、車いすの位置はここでいいか、先を見て介助する力が足りていない。」

今までも実習で助言を頂くことはあったが、決定的に自分に不足している部分がわからずにいた。この指導を受け、改めて今までの自分の介助を振り返ってみた。以前移乗介助を行った時、車いすからベッドに移乗し端座位の姿勢をとって頂く際、臀部がベッドの端に乗ってしまいずり落ちそうになったことがあった。私は焦ってしまい、咄嗟に利用者様を不安定な姿勢のまま、力づくでベッドの中央へ押し込んでしまった。まさに、失敗しないことだけを意識して、先を見た介護ができていなかったのだ。

この経験から、今の状態で端座位になるには臀部の位置は正しいか、体は真っすぐで頭や足がぶつかる状況ではないか、確認してから行うようにした。実習最終日、今まで指導頂いたこと、失敗から学んだことを基に行ったところ、今までで一番良い移乗介助ができた。指導者からも、「良くなっているね。技術も大丈夫だから自信を持って介助してもいいよ。」と評価頂いた。

今回のように実際の現場に行くと、普段の授業ではなかなかできない新しい発見や気づきを得る貴重な機会になる。これは、将来の自分への投資になると思う。実習生のうちにしか学べないこと、聞けないことは実習生のうちにとことん聞いてよいと思う。それが間違いということはないし、恥ずかしいことでもないと私は実習を通して学んだ。

また私は実習生として、介護技術の向上のためには経験を積むことも大事だと思うが、「技術とどう向き合うか」が特に大切だと感じた。苦手だから、怖いからと逃げてもいけないし、もし不安であれば一人で全て行おうとせず、二人で介助する方法もある。利用者様第一の介護の世界で、技術と向き合うことは働いてからもずっと課題になるだろう。そんな時は今回の実習を思い出し、乗り越えていきたい。

今回の実習で初めて看取りの利用者様と出会った。職員の方からは、勉強になるからぜひ見学して欲しいとお話を頂き、食事介助や入浴介助、陰部洗浄の見学に入らせて頂いた。その利用者様は食事を経口摂取しておらず、栄養状態が悪いため皮膚状態が悪化し、口周りは真っ赤にただれ、鼠径部からふくらはぎまでの皮膚も真っ赤になっていた。今まで褥瘡は見たことがあるが、このような皮膚を見たのは初めてだった。最初は衝撃的だったが、できるだけ声を掛け、名前を呼び、コミュニケーションを図るようにしていた。ただ、受け持ちの利用者様とのプラン実施のこともあり、あまり多くの時間をとることができずにいた。実習最終日前日、その利用者様は亡くなった。

居室の整理をしているときに指導者の方に、利用者様との関わりについて後悔しているという話をした。すると、「利用者様を看取るとき、後悔したり悲しんだりすることは大切。でもそれで終わってはいけない。その経験を活かして、他の利用者様に対してどんな考えを持って介護することが大切だと思う？今は分からなくても、将来のために考えておいて。」とお話いただき、改めて自分の目指す介護観を考える貴重な体験となった。

私はこの３週間の介護実習で、新たな気づきや考え方を得ることができた。苦手を克服し自信につなげることもできた。自分が介護福祉士として働いた時、どのような信念を持っているか、今までの経験を未来への投資として、これからも常に考え、学びながら頑張っていきたい。

岩手県産業教育振興会主催　専門高校生徒の研究文・作文コンクール
作文の部　優秀賞　受賞作品

「インテリア科で学んで」

岩手県立水沢工業高等学校

インテリア科　３年

川　崎　翔　也

私は６歳のときに東日本大震災を経験し成長とともに復興していく岩手県を見てきました。幼い頃から建築に興味があった私は、いつか自分も建築に関わることで復興に携わりたいと思うようになり岩手県唯一のインテリア科がある水沢工業高校に進学しました。

専門科目で最も興味を持っていた「製図」は、土台回り詳細図の模写から始まりました。模写は教科書にあるお手本を題材に基礎を身に付けていく学習です。この時自分で建物を設計できる段階に達するまで果てしない道のりだと気が付くことになります。線の濃さ、太さ、縮尺、勾配など一から学びました。慣れていない私は、鉛筆での線の引き加減や修正する度に図面を汚してしまうことで時間がかかってしまい、納得のいく図面を仕上げるまで何日も要することがありました。もっとたくさんの経験を積み自分のスキルをあげなければならないという焦りを覚えました。

図面は建築に関わる何人もの施工者、建築主が目を通す為、必要な情報を伝える大事なツールとなり製図は重要な作業になります。何から始めたらいいのかとか作業手順が分からないと不安になったとき、先生方は一つ一つ丁寧に教えて下さいました。「この線は何を表しているか？」と問われることも多々あり、ルールをきちんと理解しているか反復しながら基礎を固めました。そのおかげで今では少しばかりではありますが、クラスメイトからの質問にも答えることができるようになりました。

現代は図面を描く方法として手書きだけではなくパソコンで描くことが出来ます。それがCADです。建築 CAD はとても便利でどんな曲線も自由に描くことができます。手書きよりも効率よく図面を起こせることから幅広く役立ち、業界での設計図面のほとんどは CAD が使われています。私は将来 CAD を上手く使いこなすために建築 CAD 検定を取得したいと強く思うようになりました。基礎基本を授業で学び、模写課題の４級・３級と合格し、次に挑戦した２級は、木造二階建て住宅の１階平面図と南立面図のトレース能力を測るものです。最初は壁の仕上げ線と躯体線を引くので精一杯でした。また南立面図は、投影図や自分が書いた平面図を参考にして入力します。ここでは屋根が特に苦労しました。最高高さや勾配など分からないことを調べては入力しての繰り返しでした。図面の読み取りにも時間がかかり、繰り返し練習が必要だと感じ、多くの課題に取り組みました。こうして取得に向けて理解と作業効率を意識し、時間内に終えることを目標に掲げ、手ごたえを確信したときは自分の成長を感じた瞬間であり、合格した時の達成感は忘れられません。そして現在私は新たに准１級合格の目標を掲げました。准１級は鉄筋コンクリート構造の４つの課題図面を３時間半で完成させるものです。この試験は２級のレベルから一気に難しくなり、過去の資格取得者が少なかったり、過去問題例も公表さ

れないため友達と教え合い、お互いのモチベーションを高めながら切磋琢磨し取り組まなければなりません。

私の在籍するクラスが、木構造や鉄筋コンクリート構造を学び知識が身についた二年生の秋頃、岩手県遠野市にあるこども向け図書施設「こども本の森」を訪れました。「民話の里」としても知られる遠野市ですが、沿岸から離れた内陸の町で東日本大震災時は幸い命に関わる被害がなく、震災時は物資の振り分けや炊き出し、被災者の受け入れなど、被災地への後方支援の拠点となりました。このような支援活動が行われた町だった事が図書施設建設の理由の一つになっています。

「こども本の森」は元々旧呉服屋「三田屋」で明治期の形式を保った築１２０年の建物で、人と物の交流としても賑わいをみせた通りに面するお店でした。遠野の文化と生業を再現しつつ生まれ変わった建物を見て、建築には古き良きものを残し未来へ繋いでいく技術と知識、アイディア次第でその町に存在感を示す再生が可能のものであるということを知りました。

私が衝撃を受けた内観は壁一面が本棚になっており、外観からは想像もできない圧巻の光景が広がっていました。味わいのある木材と色とりどりの絵本の表紙がこちらを向いています。まだ幼いころに読んでいた絵本、つい手に取りたくなるような絵本に心が躍りました。さらに吹き抜けと螺旋階段で大人もこどももワクワクするような立体的な空間。本棚の下を潜りはしゃぐ友達の姿を見てこどもに返ったような感覚になり笑みがこぼれました。また、自由に本を読むスペースやリラックスできる畳の部屋で各々楽しむ様子は、インテリアの重要性や機能性を考えるきっかけとなりました。私はインテリアにおいて、空間作りや照明家具など多くの点においても未熟で、室内の明るさを始め興味をくすぶるような展示の仕方、楽しいを引きだせる空間を創るにはまだまだです。訪れたことで建築は設計だけではなく内装も重要と知ることができ、インテリア計画やインテリアエレメント生産にもさらに力をいれて学ぶ必要があると思いました。

将来私は一級建築士を目指しています。日本は地震大国のため、沖で起こった津波により再び沿岸の都市全体が被災するかもしれないし、日本列島の下で地震が起こりたくさんの建築物が倒壊する恐れもあります。波の進行を抑えるような建築物や耐震性能の高い高層建築物、津波で浸水してしまった住宅を短期間でリフォーム可能にする工法の開発など、人々の歴史を維持できるような建築士になりたいと考えています。そして万が一起こってしまった場合でも被災地の人々がほっとするような空間造りを考えること、みなさんの笑顔と安心を取り戻してあげることが私のできる復興支援であり、社会への貢献だと考えます。

私は高校で学んだことをさらに生かすために大学の建築科への進学を決意しました。大学では日常の授業はもちろん先生方からの知識を最大限吸収したいです。また大学入学後も高校から描いてきた目標を見据え少しずつステップアップすることで自分の可能性を拡大させ、大学卒業後は自分の手で人々が必要とする建築物はもちろん、利用者が心地よいと思える空間を作りたいです。そして地球温暖化に起因する災害を含めたあらゆる自然災害のことを考えた建築物を設計できる建築士になることが私の夢です。

御下賜金（ごかしきん）記念優良卒業生選奨規程

公益財団法人　産業教育振興中央会

１．趣旨

各専門高校等の卒業時に、学業及び人物とも最も優れた卒業予定者を選奨することにより、我が国産業教育の振興に寄与するとともに、生徒の学業等諸活動の活性化に資することを目的とする。

２．選奨の対象生徒について

（１）農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉などの専門教育を主とする学科及び総合学科を置く高等学校等**（本会会員校）**において、学業及び人物とも最も優れた卒業予定者を対象とする。選奨候補者は、原則として学校ごとに１名とし、分校、定時制及び通信制の課程は、それぞれ１校とみなす。

（２）複数の分野の学科を置く高等学校においては、例えば、農業の園芸科、農業土木科、畜産科、工業の機械科、電気科、建築科などの学科別とせず、農業、工業等の分野ごとに１名に限定する。

（３）総合学科については、専門分野コースの数にかかわらず総合学科として、１名とする。

（４）別科、専攻科については、上記に準じて選奨することができる。

３．表彰状の授与

選定された者に対し、卒業式当日、本会会長名の表彰状を授与する。

岩手県産業教育振興会優良卒業生選奨規定

岩手県産業教育振興会

1　令和４度卒業予定者で人物・学業ともに優秀である者、もしくは専門高校生徒の研究文・作文コンクール、各種競技会、体験発表会等で優秀な成績を収めた者。

2　各学科ごとに１名とする。総合学科にあっては各系列１名（普通科系列を除く）

また､普通科にあっては産業に関するコース選択者を含めてもよいこと。

3　各学科内における○○○コース・○○○班ごとの表彰は行わない。あくまでも、各学科１名の表彰に限る。

※　生産技術科○○コース・生産技術科△△コース

（生産技術科は１名のみの表彰）

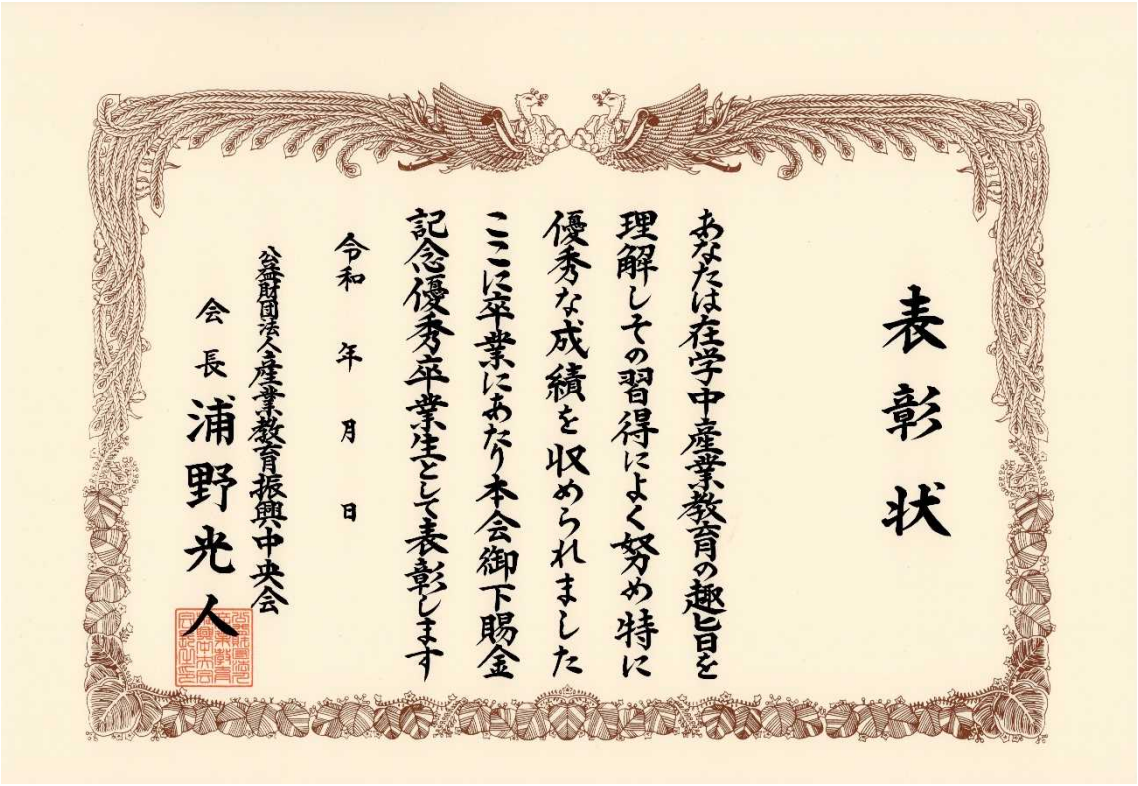
4　専攻科及び定時制も対象とすること。

5　御下賜金記念優良卒業生と重複しないこと。

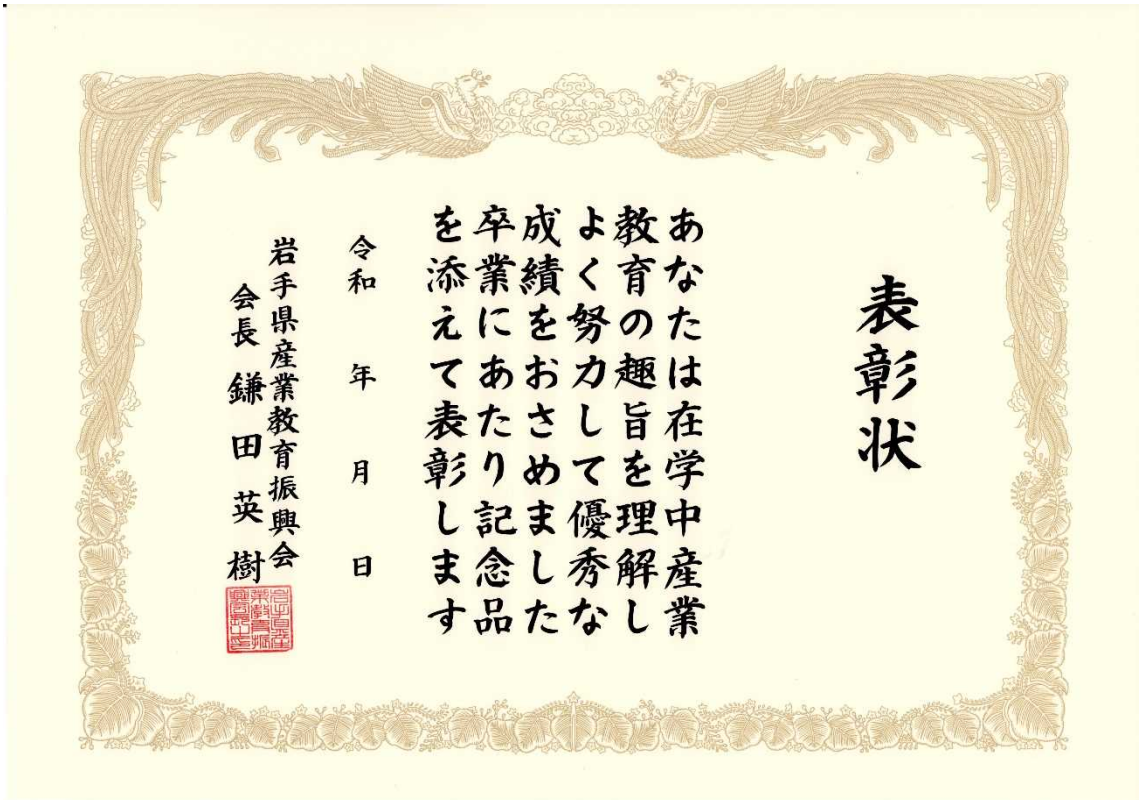
令和４年度　御下賜金記念優良卒業生選奨　表彰状配布一覧

番号	学校名	中央会表彰		岩手県産業教育振興会表彰								
		大学科各１名	専攻科定時制	各小学科代表１名・総合学科は各系列１名								小学科合計
				農業	工業	商業	水産	家庭	福祉	看護	普通就職	
1	盛岡農業	1		5								5
	盛岡農業(専)		1	1								1
2	盛岡工業(全)	1			7							7
	盛岡工業(定)		1		1							1
3	盛岡商業	1				3						3
4	平舘	1						1				1
5	紫波総合	1		1		1		1	1			4
6	花巻農業	1		3								3
7	花北青雲	3			1	1		1				3
8	北上翔南	1				1		1				2
9	黒沢尻工業	1			6							6
	黒沢尻工業(専)		1		1							1
10	水沢農業	1		2								2
11	水沢工業	1			4							4
12	水沢商業	1				3						3
13	岩谷堂	1		1	1	1		1				4
14	一関第二	1				1		2	1			4
15	一関工業	1			4							4
16	大東	1				1						1
17	千厩	2		2	1							3
18	高田	1					1					1
19	大船渡東	4		1	3	1		1				6
20	釜石商工	2			2	1						3
21	遠野緑峰	2		1		1						2
22	宮古商工	2			2	3						5
23	宮古水産	2					1	1				2
	宮古水産(専)		1				1					1
24	久慈東	1		1		1	1	1	1			5
25	久慈工業	1			2							2
26	種市	1			1							1
27	福岡工業	1			2							2
28	一戸	1		1		1		1	1			4
29	盛岡市立	1				1						1
30	岩手女子	2							1	1	1	3
31	江南義塾	1				1						1
32	盛岡誠桜	2				1		2			1	4
	盛岡誠桜(専)		1					1				1
33	盛岡スコーレ	1						1				1
34	専大北上	2			1	1						2
35	水沢第一	1						1				1
36	一関学院	※	※								1	1
	合計	48	5	19	39	24	4	16	5	1	3	111

※　一関学院は産業教育振興中央会に未加入



産業教育振興中央会　御下賜金記念優良卒業生表彰



岩手県産業教育振興会　優良卒業生表彰

令和４年度　岩手県産業教育振興会　支援対象校・支援対象生徒一覧

番号	学校名	学科名	１年	２年	３年	４年	合計	総計
1	盛岡農業	動物科学科	42	33	31		106	
		植物科学科	23	22	21		66	
		食品科学科	37	32	37		106	
		人間科学科	27	21	27		75	
		環境科学科	32	21	32		85	
		特別専攻科	6	3			9	447
2	盛岡工業	機械科	32	39	28		99	
		電子機械科	34	38	36		108	
		電気科	40	40	25		105	
		電子情報科	40	37	38		115	
		土木科	40	25	40		105	
		工業化学科	15	10	17		42	
		建築・デザイン科	40	35	38		113	
		工業科(定時制)	5	5	7		17	704
3	盛岡商業	流通ビジネス科	82	70	81		233	
		会計ビジネス科	82	57	81		220	
		情報ビジネス科	82	76	81		239	692
4	平舘	家政科学科	12	13	21		46	46
5	紫波総合	エコロジーフード系列		18	17		35	
		ライフデザイン系列		12	15		27	
		情報・経済系列		19	18		37	
		福祉・健康系列		12	17		29	128
6	花巻農業	生物科学科	33	34	31		98	
		環境科学科	25	29	9		63	
		食農科学科	30	36	41		107	268
7	花北青雲	情報工学科	37	34	28		99	
		ビジネス情報科	69	68	80		217	
		総合生活科	42	26	42		110	426
8	北上翔南	情報系列		35	40		75	
		環境系列		35	23		58	133

令和４年度　岩手県産業教育振興会　支援対象校・支援対象生徒一覧

番号	学校名	学科名	１年	２年	３年	４年	合計	総計
9	黒沢尻工業	機械科	25	38	27		90	
		電気科	32	26	34		92	
		電子科	30	25	27		82	
		電子機械科	23	38	36		97	
		土木科	20	30	33		83	
		材料技術科	12	16	20		48	
		専攻科工業技術科	11	8			19	511
10	水沢農業	農業科学科	24	27	38		89	
		食品科学科	21	15	16		52	141
11	水沢工業	機械科	37	30	40		107	
		電気科	27	23	36		86	
		設備システム科	37	26	35		98	
		インテリア科	18	33	34		85	376
12	水沢商業	商業科	35	26	41		102	
		会計ビジネス科	31	10	39		80	
		情報システム科	40	30	42		112	294
13	岩谷堂	生物生産系列		21	20		41	
		産業工学		13	10		23	
		流通情報		18	12		30	
		生活・福祉系列		19	20		39	133
14	一関第二	福祉系列		3	5		8	
		ビジネス系列		24	22		46	
		環境・生活系列		28	19		47	101
15	一関工業	電気電子科	40	34	39		113	
		電子機械科	40	37	37		114	
		土木科	39	40	33		112	339
16	大東	情報ビジネス科	13	19	29		61	61

令和４年度　岩手県産業教育振興会　支援対象校・支援対象生徒一覧

番号	学校名	学科名	１年	２年	３年	４年	合計	総計
17	千厩	生産技術科	40	30	27		97	
		産業技術科	22	23	31		76	173
18	高田	海洋システム科	9	15	12		36	36
19	大船渡東	農芸科学科	19	8	21		48	
		機械電気科	22	18	34		74	
		情報処理科	23	19	24		66	
		食物文化科	19	21	17		57	245
20	釜石商工	機械科	23	16	34		73	
		電気電子科	10	15	18		43	
		総合情報科	28	22	35		85	201
21	遠野緑峰	生産技術科	31	22	26		79	
		情報処理科	11	11	27		49	128
22	宮古商工	機械システム科	33	29	26		88	
		電気システム科	7	17	10		34	
		総合ビジネス科	40	39	28		107	
		流通ビジネス科	32	27	39		98	
		情報ビジネス科	35	37	36		108	435
23	宮古水産	海洋生産科	15	9	11		35	
		食物科	26	22	33		81	
		専攻科漁業科	3	6			9	125
24	久慈東	食物系列		15	23		38	
		海洋科学系列		25	8		33	
		環境緑化系列		22	29		51	
		介護福祉系列		16	11		27	
		情報ビジネス系列		51	68		119	268
25	久慈工業	電子機械科	19	12	8		39	
		建設環境科	4	10	11		25	64

令和４年度　岩手県産業教育振興会　支援対象校・支援対象生徒一覧

番号	学校名	学科名	１年	２年	３年	４年	合計	総計
26	種市	海洋開発科	15	23	21		59	59
27	福岡工業	機械システム科	29	29	24		82	
		電気情報システム科	31	27	11		69	151
28	一戸	情報ビジネス系列		5	7		12	
		介護福祉系列		6	15		21	
		生活・文化系列		26	46		72	105
29	盛岡市立	商業科	81	73	82		236	236
30	岩手女子	看護科	46	46	48		140	
		福祉教養科	19	23	19		61	
		看護専攻科					0	201
31	江南義塾	情報処理科		2	6		8	8
32	盛岡誠桜	商業系列		30	40		70	
		家政系列		26	21		47	
		食物調理系列		28	19		47	
		専攻科(保育子供未来)	26	23			49	213
33	盛岡スコーレ	調理選択		29	30		59	59
34	専大北上	商業科		75	85		160	
		グローカルビジネス科	56				56	
		自動車科	18	21	24		63	279
35	水沢第一	調理科	37	30	38		105	105
36	一関学院							

	１年	２年	３年	４年		総計
令和４年度合計	2,291	2,671	2,929			7,891
令和３年度合計	2,238	3,082	3,055	1		8,376
令和２年度合計	2,462	3,122	3,245			8,829

岩手県産業教育振興会
令和4年度
事業活動報告書

令和5年3月23日発行

発行者：岩手県産業教育振興会
事務局：〒020-0841
岩手県盛岡市羽場１８－１１－１
岩手県立盛岡工業高等学校内
TEL 019-639-7250　FAX 019-656-0677
E-mail e-info@sanshin-iwate.jp
ＵＲＬ https://www/sanshin-iwate.jp/